

注目の
私立中高
一貫校

この 学校のここが

プレジデントファミリー特別企画
プレジデントムック
「中学受験大百科」特別付録

プレジデント
Family

2021年

スゴイ!



から始まる学び

クイズプレイヤー

伊沢拓司 さん

Izawa Takushi

開成高校クイズ研究部で、「全国高等学校クイズ選手権」で史上初の2連覇を達成し、クイズ王として知られるようになった伊沢拓司さん。

現在は、株式会社QuizKnock代表として、テレビ出演や教育講演活動、YouTube動画の配信、企業とのコラボレーションなどでも活躍中です。

開成から東大へ——。受験生としての経験も交え、

中高生のときにクイズに熱中することで学んだことや、これからについて伺いました。

小学校受験を経験し、私立の名門校に通わ
れていましたが、小6時に再び中学受験を
選択されたのはどうしてでしょうか？

両親は高校まではずっと公立でしたし、特に小学校受験を考えるとという家庭ではなかったのですが、学区の公立小学校が県下有数のマンモス校で、教育的環境としてはどうなんだろう？ と思い私立小学校受験にいたったようです。

受験して入学した私立小学校では、優等生ではあったけれど、飛び抜けて勉強ができるほうではなかったですね。それもあって小3の冬から塾に行くことになりました。僕自身の動機は、模試の上位者がもらえるゲームソフト。通信ができるゲーム機は持っているがなかったので、塾でソフトを買ったら買ってくれるだろうというもくろみがありました。一年後に上位になってソフトを手に入れてもゲーム機は買ってもらえなかったのですが、それよりも塾の人間関係が楽しくなってきた。小学校が非常に規律を重んじる校風だったので、塾では自分を開放し、塾の先生に怒られるほど、友達とはしゃいでいました。

僕は塾に向いていたというか、やってみたら順位競争が好きで、ライバルもいて、彼らは当然中学受験をするので、「じゃあ自分も」と考えるようになりまして。受験するとなると、通っていた小学校から中学への内部進学を辞退しなければならぬので、本当に受ける？ と親ともよく話し合ってから受験することを決めました。

取材でよく「親御さんに勉強しろと言われてましたか？」と聞かれるのですが、うちの母親は普通に「勉強しろ」と言いました。6年生の夏までは遊んでいたのですが、母親から「一回やると決めたん

だから、ちゃんとやりなさい」と。親も本気だな、こりゃちゃんとやらなきゃとなりました。結構な金額がかかっているのは親の話でもわかっていたので、余計に。それで、こっちはじゃあ本気でやらなきゃならないことで、8月からは本当に勉強ばかりしていました。

母親は、「勉強しろ」と言うタイミングもうまかったかもしれない。ゲームに集中しているときは言わず、ゲームを終えて「勉強するかあ」と思っているときや、テレビを見ながらドラドラしているときにピシッと言うので、やらなきゃならないのです。母は、一度間違えた問題を次は間違えないということにもこだわっていましたね。その代わり、父も母も模試の結果に一喜一憂することとはなかった。親である自分たちの言動の一つひとつを子供がどう受け止めるだろうか、と常に考えてくれていたと思うので、その点はあるがたかったなと思います。

実際の受験では5校受けたのですが、その期間には受験ハイというか、余計なことは意識せず問題に集中していました。試験をたくさん受けるなかで、勝負は何が起こるかかわからないのだから、目の前の問題に集中することが大事だという感覚を得ていたのが良かったと思います。

開成中学校・高等学校では、クイズ研究部に入り、「全国高等学校クイズ選手権」(日本テレビ)で2連覇、一躍有名になりましたが、振り返ってどんな6年間でしたか？

中学1年生でクイズ研究部に入ってから引退する高2の12月までは、本当にクイズに生きた5年間でした。クイズに強くなるためには出題傾向を知って対策するために問題集をやり込むわけです

東大卒クイズ王が
たどり着いた

楽しい

が、クイズの問題集というのはあらゆる情報の集積でもあるので、そこを入り口に遊びが広がります。クイズに出てくる面白そうな本、漫画、映画、音楽、アニメなどあらゆるエンターテインメントをどんどん摂取していきました。毎日のようにC

Dを借りては返し、学校をさぼって映画を見に行き、土日は社会人に交ざってクイズをして、月1回はクイズ大会に出ていました。高校生になるとクイズ番組で賞金をもらえるようになったのでお金はあるし、僕としては幅広く遊び倒したという



伊沢拓司 いざわたくし

1994年生まれ、埼玉県出身。開成中学校・高等学校、東京大学経済学部卒業。開成学園クイズ研究部に所属し、2009年、高校生以下のクイズ大会「第18回高校生オープン」で初の中学生優勝者となる。開成高校チームで高校1、2年時に「全国高等学校クイズ選手権」(日本テレビ)で史上初の2連覇達成。大学進学後は東京大学クイズ研究会に所属し、「東大王」(TBS)をはじめとする多数のクイズ番組に出演。株式会社QuizKnock代表。

しかしクイズ形式の話題提供だけでは限界もあり、YouTube「楽しいから始まる学び」をコンセプトに動画配信を始めたところから、テーマが教育に移っていききました。参加する仲間も多くなり、これは社会に対してきちんとして

た形をとらなければいけないと思いついた。QuizKnockではYouTubeでの動画配信(チャンネル登録者数162万人)のほか、クイズ問題制作、書籍出版、教育講演活動、クイズ系アプリの監修、企業案件を含めたイベントの企画運営などを行い、僕たちクイズプレイヤーはテレビ番組に出演して会社の認知度を上げると同時に、企業としての活動の幅を広げています。「楽しいから始まる学び」を掲げ、学びへの抵抗感を、エンタメの力で徐々になくす習慣化を目指しています。学びへの抵抗感は、「楽しくないから」生まれるだけでなく、家庭環境・地域・情報などさまざまな格差から生まれている。塾のアルバイトですつと受験生の相談を受けたり、メールでも相談に乗っていたなかで感じたことでもあります。「教育格差の固定化」という社会課題に僕たちも取り組まないと、最終的にQuizKnockの責務は達成されないと思っています。

一方で「発想力・思考力を育てる」といった言葉が独り歩きしている現状にも危機感を感じています。発想や思考はゼロから突拍子もなく何かを生み出すのではなく、基礎的な知識をどう組み合わせるかを問うもの。発想力・思考力を伸ばそうと単にカリキュラム化しただけでは骨抜きで終わるでしょう。大学受験が半端に変わると、それこそ大学には行かないという人たちの教育まで変わってしまう。インターネットが普及し、カリキュラムの外からでも活躍しやすくなった時代に、それはあまりにもつたいないことだと思えます。もっと幅広く、楽しく、ゆっくりにいいから、学びに対する根本的な考え方を変えられるようなシステムをつくっていききたいですね。今はまだ第一歩を踏み出したばかりですが、二歩目、三歩目と楽しく進んでいきたいと思っています。

感覚です。中学生の頃からは、岡山、仙台、大阪など、地方大会にも一人で行き、地元の人に泊めてもらったりしてクイズ一人旅をしていました。大学生や社会人とも交流し、この人は普段こういうところの仕事をしているんだとか、なるほど大人へのメロってこう打つんだとか、クイズを通して学校の外へ世界が広がりました。高2まで趣味に生きた5年間を過ごせたのは、中高一貫だったからこそだと思います。親は基本的には何も言わず、「気を付けていってらっしゃい」と送り出してくれました。クイズでのネットワークは信用してくれていたんだと思います。「学校の勉強は大丈夫？」と聞かれて、「大丈夫」と答えていましたが、大丈夫ではなかったですね(笑)。クイズの勉強しかしていなかったから、国語・社会はまだいいとして、数学は赤点でした。学校は何も言いません。基準を下回ったら肩を叩かれるだけ。開成という、しぼりのない学校で過ごして、そこは運が良かったとも思いますが、そういう設計をしてくれていた学校に感謝しています。

僕自身は起業しようという意識はまったくなく、会社員になって趣味に生きるとか思っていたくらいでした。最初は、大学院進学にあたってお金もないので、在宅で希望通りの仕事をするため、「QuizKnock」のサイトを立ち上げた。当時世間では、事実確認不足や無断転載などキュレーションメディアの問題が出ていたので、情報を能動的に摂取するクイズなら解決できるのでは? という課題解決のアイデアがもとになりました。

東大クイズ研究会のメンバーとして数々のテレビ番組で活躍され、在学中にウェブメディア「QuizKnock」をくり、YouTubeチャンネルを開設。2019年に株式会社QuizKnockを起業されました。伊沢さんがクイズを通してやりたいことを実現してきた形でしょうか?

クイズ研究部の先輩方と同じように僕も東大に進みましたが、結果的に僕は中高6年間、カリキュラムの外で学んだことが大きかった。逆にいうとカリキュラム化していないところに、どれだけ「学び」があるのかわかることができました。それが今の僕の活動につながっていると思います。

東大卒クイズ王がたどり着いた
「楽しいから始まる学び」

伊沢拓司さん クイズプレイヤー

2

Global

グローバル教育の本質とは何か？
「ぶれない自分の軸」を持つことの大切さ

8

坪谷ユウエル郁子さん 東京インターナショナルスクール 理事長
福本雅俊さん コアネット教育総合研究所横浜研究室室長

真のグローバルリーダーを育てる
意欲的な新コースを開設

実践に基づく課題研究が拓く
国際人としての視野と人間力

11

多言語教育×リベラルアーツの
革新的女子教育が未来を創る

12

実践的なグローバル教育で
生徒たちの未来を開く

13

社会的課題に対する考えを深め
当事者として探究する力を育てる

14

女子聖学院中学校高等学校
(東京都)

15

East

国際的な視野を広げ
インクルーシブ・リーダーシップを育てる

東京女子館中学校・高等学校 (東京都)

16

自らの考えを持てるように導く
教科を横断して行う統合型授業

横浜女学院中学校高等学校 (神奈川県)

17

課題解決に取り組み力を育む
独自のブレゼンテーション教育

大宮開成中学・高等学校 (埼玉県)

18

新学習指導要領に素早く対応し
真のグローバル教育を推進

駒込中学校・高等学校 (東京都)

19

世界規模のネットワークを支える
キリスト教、全寮制の教育

三育学院中学校 (千葉県)
広島三育学院中学校・高等学校 / 沖縄三育中学校

20

6年間を通じた国際教育と
体験型学習で自ら伸びる力を付ける

城西大学附属城西中学・高等学校 (東京都)

22

福祉と国際をテーマとした学びで
世界で活躍できる人材を育てる

順天中学校・高等学校 (東京都)

23

体験と英語発表で国際性を養い
次代のグローバルリーダーを育成

武南中学校・高等学校 (埼玉県)

24

国際性と科学的思考を重視する
「世界標準」の教育を展開

三田国際学園中学校・高等学校 (東京都)

26

創立時から続く国際交流教育が
将来を考える力を育てる

山手学院中学校・高等学校 (神奈川県)

28

「英語の松蔭」の原点に回帰した
セミインターナショナルスクール

松蔭中学校・高等学校 (兵庫県)

29

West

EofTech

デジタルテクノロジーが これまでの教育を解体・再編していく

竹内 薫さん サイエンス作家、YESインターナショナルスクール校長
岡田育也さん コアネット教育総合研究所新教育推進室プロジェクトリーダー

East

ICT教育の環境を整備
創造性を養う学びを中学生から

城北中学校・高等学校 (東京都)

33

伝統女子校がICT教育校へ
創造性と起業家精神を養う学び

瀧野川女子学園中学高等学校 (東京都)

34

オンライン授業で飛躍を遂げた
PBL型授業の取り組み

和洋九段女子中学校高等学校 (東京都)

36

充実したICT教育環境を土台に
学び続ける楽しさを知る6年間

神奈川大学附属中・高等学校 (神奈川県)

37

変化を求めて挑戦を続ける
学校の姿勢が生徒の成長を助ける

青稜中学校・高等学校 (東京都)

38

タブレット端末を効果的に利用し、
生徒の自主性を育む

園田学園中学校・高等学校 (兵庫県)

39

コロナ禍で気付いた
学校の存在意義と強み

近畿大学附属高等学校・中学校 (大阪府)

40

先進校が次のステージに進んだ
本来の意味でのICT活用

清教学園中学校・高等学校 (大阪府)

41

Column

コロナ禍で学校も変わる
固定観念を捨て、新たな目で学校を探したい

42

East

East

首都圏

新学習指導要領をにらんだ
カリキュラムを展開

成城中学校・成城高等学校 (東京都)

44

男子教育のプロフェッショナルが
6年間で夢の実現へと導く

東京都市大学付属中学校・高等学校 (東京都)

45

本質に触れる多様な学びが
一人ひとりの可能性を大きく広げる

共立女子中学高等学校 (東京都)

46

リアルな体験を重視した学びで
社会で活躍できる人材を育てる

共立女子第二中学校高等学校 (東京都)

47

女子教育の原点を大切にしつつ
未来に貢献できる人材を育成する

十文字中学・高等学校 (東京都)

48

女子の進路選択の幅を広げる
独自の特色ある教育制度が魅力

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 (東京都)

49

夢の実現へと挑み続ける
「EMK未来プロジェクト」

穎明館中学高等学校 (東京都)

50

プレゼンテーションの経験を積み
問題解決能力を伸ばす

桜丘中学・高等学校 (東京都)

51

教育改革に取り組み
学び続ける「Learners」を育てる

品川翔英中学校・高等学校 (東京都)

52

計画を立てて繰り返し返す
地道な努力で確かな知力を培う

帝京中学校・高等学校 (東京都)

53

「誰も置き去りにしない」精神で
特色ある探究型授業を展開

創価中学校・高等学校 (東京都)

54

West

West

関西

- 正しい倫理観とブレない軸を持つ
人間教育こそ、清風の教育
62
- 清風中学校・清風高等学校 (大阪府)
63
- 未来を生きる力を育む
名門女子校「102年目の決意」
64
- 甲南女子中学校・高等学校 (兵庫県)
65
- 考える力と表現力を身に付け
「美意識」を育む教育
樟蔭中学校・高等学校 (大阪府)

East

- 少人数教育の強みを生かし
全生徒の学力アップを図る進学校
55
- 帝京大学中学校・高等学校 (東京都)
56
- 学びを広げる「一中一高ゼミ」に
最難関校の受験対策ゼミを開設
東京農業大学第一高等学校中中部 (東京都)
57
- 男女別学の良さを堅持する進学校
探求を知る「大学訪問授業」に特色
桐光学園中学校・高等学校 (神奈川県)
58
- 付属校ならではの6年間で
着実に英語力を身に付ける
日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 (神奈川県)
59
- 自ら学び方を見だし、6年間で
将来を切り拓く力を身に付ける
文教大学付属中学校・高等学校 (東京都)
60
- 10年一貫教育で未来を見据える
大学付属校の豊かな学び
法政大学第二中・高等学校 (神奈川県)
61
- 毎朝の「読む、書く、話す」で
考える力を養う「R1プログラム」
立正大学付属立正中学校・高等学校 (東京都)

West

- 先進的な授業改革を推進
自ら学ぶ力と探究力を育む
66
- 追手門学院大手前中学校・高等学校 (大阪府)
67
- 目指す教育を形にした新校舎で、
「学びの本質」に迫る次世代の教育を
追手門学院中・高等学校 (大阪府)
68
- 多彩な体験で学びの土台をつくり
生徒の知的好奇心を育む
開明中学校・高等学校 (大阪府)
69
- 豊かな自然と共生する新校舎で
生徒の無限の可能性を引き出す
関西大倉中学校・高等学校 (大阪府)
70
- 多彩な仕掛けと強固な絆の下
「自分発、未来を創る人になる」
三田学園中学校・高等学校 (兵庫県)
71
- 中学開校11年目の改革
「常翔気流」に乗りさらなる高みへ
常翔学園中学校・高等学校 (大阪府)
72
- 22年4月よりコース制を一新！
次代を生き抜くたくましさを育む
滝川中学校・高等学校 (兵庫県)
73
- さらなる高みを目指す
新コース制が始動
滝川第二中学校・高等学校 (兵庫県)
74
- 10年間の一貫教育で
良心を持った人間を育てる
同志社香里中学校・高等学校 (大阪府)
75
- 大学との連携とICTの活用で
「考えるを、学ぶ」教育がさらに進化
東洋大学附属姫路中学校・高等学校 (兵庫県)
76
- 人間力の育成を目指す
「自由と愛の精神」を体現する教育
桃山学院中学校高等学校 (大阪府)
77
- 「本物の学び」で
知的好奇心を刺激する
雲雀丘学園中学校・高等学校 (兵庫県)
78

グローバル教育の本質とは何か？ 「ぶれない自分の軸」を持つことの大切さ

コロナ禍により海外研修や留学が難しくなっている今、日本のグローバル教育の有り様があらためて問われています。グローバル教育の本質とは？ 世界に貢献できる人材を育成するためのスキルとは？ 東京インターナショナルスクールの運営をはじめ、文部科学省とともに、教育の国際化の切り札となる「国際バカロレア」の日本大使として普及に取り組む坪谷ニューエル郁子さんに、コアネット教育総合研究所の福本雅俊さんが伺いました。



評価の高い「日本の教育」 そこに足りないものとは？

福本 坪谷先生が創立された東京インターナショナルスクールは、世界共通の大学入試資格につながる国際的な教育プログラム「国際バカロレア※」（以下IB）の認定校ですね。それだけでなく、坪谷先生はIB日本大使として、国内での普及活動に力を注いでおられます。IBの理念のどこに惹かれたのですか？

坪谷 国際バカロレア機構では、ミッションステートメント（使命）として、「IBは、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりを富んだ若者の育成を目的としています」とうたっています。まさに私が理想とする考えであり、本校の教育理念のベースにもなっています。現在、世界の約160カ国にIBが導入されていますが、特定の国の色が付いていない、普遍的な教育目標なので、日本の学校にも導入しやすいのではないかと考えています。

福本 IBの目指す「世界に貢献できる人材の育成」は、単なる英語力の伸張にとどまらない「人格形成」をも重視する私立中学・高校のグローバル教育の考え方と非常に親和性が高いと思います。
坪谷 私が日本の教育にIBを導入したいと考える最大の理由は、従来の画一的な評価システムから脱却し、「自分の『好き』や『興味』を発見する」という世界基準の教育へと、方向性をシフトしていったほしいからです。これは、日本の教育が世界から見ると「遅れている」という意味ではありませんよ。むしろ、「日本人の基礎学力は非常に高い」と、世界から尊敬されているんです。でも、以前来日したオランダの文部大臣と会食したとき

に、こんな話を聞きました。

「日本で会う教育関係者の皆さんは、オランダの教育はスゴイですね、進んでいますね、と言うんです。日本人は自国の教育についてはなぜか自信がなさそう。質の高い日本の教育を取り入れたくて、私は視察に来ているのに」と。このように、日本では「自分に自信がない」と思う人が少なくない。なぜか？ それは、自分についてちゃんと学んでこなかったからですよ。

自分の「好き」を発見する 世界基準の教育を目指そう

福本 「自分について学ぶ教育」を日本では十分やってこなかった、ということですね。

坪谷 はい。私の子供時代の例ですが、小学校の同じクラスに勉強が遅れているSさんという女子

がいて、学級委員の私が勉強の面倒を見ることになりました。そこでわかったのが、彼女、編み物の達人だったんです。でも、学校では「勉強が得意な子」と言われてしまう。教育とは、このSさんにとっての編み物のような「非認知能力」を見いだし、育てることが大切であり、その能力を使って世の中の役に立っていくことで、自己肯定感へとつながっていくわけです。

福本 IBでは、子供たちが秘めている「非認知能力」を引き出して育てることが、教育の第一義なんです。私も日本の教育の質は決して低いものではないと考えています。英語の活用能力やICTの有効活用など、世界と比較して弱い部分があることは否定しませんが、少なくとも子供たちの知的レベルを一定ラインまで引き上げるといいう局面においては非常に高い成果を挙げています。ただし、教育の志向が、知識習得型の学習と探求型学習の統合へと変わりつつある今、当然、日本の教育のあり方もそれに合わせた変化が求められています。

坪谷 おっしゃる通りです。IBでは、3歳児からハイスクールを卒業する18歳まで、「私は誰？何に興味がある？」を学び続けます。自分を知っていれば、途中で進路変更したとしても、軸がぶれません。日本の基礎学力を高める教育に、IBの教育をプラスすることができれば、すばらしいと考えています。

グローバル教育とは 世界共通の「人間教育」

福本 海外研修・留学制度を整える私立中高一貫校が増えています。日本のグローバル教育のあり方についても、ご意見をお聞かせください。

坪谷 日本では「グローバル教育＝英語教育」に

傾きがちです。でも、英語が流暢に話せればグローバルでしょうが、あくまで伝達手段。大切なのは、自分の頭で考え、自信を持って自分を表現する力——私はこれを「グローバル・スキル」と呼んでいるのですが、そのスキルを育てることです。

また昨今、「多様性」という言葉も盛んに言われていますが、これも一概に捉えることはできません。人種的多様性・性的多様性・宗教的多様性・文化的多様性・経済的多様性などと、ものすごくいろいろな側面があります。インターナショナルスクールである本校は、「多様性の宝庫ですね」と評されることが多いのですが、多様性に富むのは国籍くらいで、「裕福な日本駐在員のお子さん」という意味では属性は同じなんです。日本の私

坪谷ニューエル郁子さん

Tsuboya Newell Ikuko

東京インターナショナルスクール 理事長
NPO インターナショナルセカンダリースクール理事長
文部科学省 国際政策特任フェロー
国際バカロレア機構 国際バカロレア日本大使

神奈川県出身。イリノイ州立西イリノイ大学修了、早稲田大学卒業。1995年、東京インターナショナルスクールを設立、理事長に就任。同校は「国際バカロレア」(IB)認定校。その経験が評価され、国際バカロレア日本大使に就任し、現在、文部科学省とともにIBの普及に取り組んでいる。(株)東京インターナショナルスクールグループのキンダーガーデンやアフタースクールをはじめ、各種スクールを多数運営するほか、全国の自治体や大学などのグローバル教育に関わる委員会の委員も務めている。



※国際バカロレア(IB)とは、スイス・ジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構が提供する、国際教育プログラム。同機構に許可・登録された学校で、この教育課程を履修して認定証書を取得すると、世界100カ国以上、2万校以上の大学への受験資格・入学資格として認められる。



東京インターナショナルスクールの授業の様子。自ら設定した課題に対して、実際に足を運んで調査や記録を行う。ICTも積極的に活用している。



日本の子供たちを対象にした「英語で学ぶ」東京インターナショナルスクール アフタースクール・学童保育。自分で考え、自分で表現する力を育む。

それは何も、留学や海外研修でしか学べない、ということではありませんね。

坪谷 パンデミックで海外研修などができなくなり、そのことに気付いたとおっしゃる教育関係者は多いです。私の考えでは、グローバル教育とは世界共通の

「人間教育」。他者より良い関係性を築くためのスキルは、「世界」という大きな単位であっても、「町内会」や「家庭」といった小さな単位であっても、まったく一緒なんですよ。実はグローバル・スキルを磨くチャンスは、私たちの足元に転がっている。それが私の持論です。

日々の暮らしの中で グローバル・スキルを磨く

福本 あらためて伺います。坪谷先生のおっしゃるグローバル・スキルとは具体的にどのような力を指すのでしょうか？

坪谷 具体的には、相手の真意をわかってほしいというので「聞く力」、相手に自分の考えをわかってもらおうとして話す「伝える力」、聞いて伝えるうえで、双方にとってより良い方向へと「行動する力」です。ご家庭でもこの三つのスキルを駆使すれば、親子関係や家族関係が円満でしょう？とてもシンプルですが、グローバル社会でより良い関係性を築くスキルも、これらが原点です。そして、グローバル・スキルを使いこなすベースとなるのが、「ぶれない自分の軸」を持つこと。どんなに英語が話せても、自分の考えに自信が持たず、話す内容に中身がなければコミュニケーションは成り立ちませんから。

福本 なるほど。そのために「自分について学ぶ」



福本雅俊さん

Fukumoto Masatoshi

コアネット教育総合研究所

横浜研究室室長

日本キャリアデザイン学会会員

私立高校の教員を経て、2006年、同研究所に入所。キャリア教育を主領域としながら、子供たちの未来を応援するための教育活動に関する支援を中心に、学校経営をサポートしている。

教育が必要なのですね。私学の多くは、知識の獲得と蓄積に拘泥するような教育を志向して設立されたわけではありません。むしろ、獲得した知識をどのようにして社会に還元していくか、という人間教育に力を入れてきた、それが私学です。もう一度、そこに立ち返るべき時期にきており、そのことに気付いて、各校の教育理念に基づき、偏差値や大学合格実績に表れるような成果だけでなく、個を確立し、それぞれが一市民として社会で価値を創造する人材を育成することを目指している学校もたくさんあります。保護者さまにはぜひ、そういった私学の在り様を見て、わが子に合う学校を選択してほしいと願っています。

坪谷 自分の中にあるすばらしいものをお子さんが自らが発見し、その才を学校が伸ばし、社会に、世界に貢献できる人材を育てていく方向に変わっていくといいですね。

福本 グローバル教育の目標は、「世界に出て競争に勝つ」ではなく、大切なのは、一人ひとりがどうやって自分を表現し、国際社会でより良く生きることができるか尽きますね。その目標に真摯に向き合い、努力を続けていけば、最終的に自分が属する社会に、世界に、成果が還元されていく。その手助けをするのが「教育」であり、私たち大人の責務です。坪谷先生のお話を伺いながら、そんな思いを新たにしました。本日はありがとうございました。

学も似ている部分があるでしょう？ だから、それぞれの属性から離れた立ち位置で、多様性を認め合う視点が、真のグローバル教育には欠かせないと思うのです。

福本 そうですね。学力から経済レベル、価値観などが近い人たちが入学して集まる私学は、どうしても同質性が高くなりがちです。これは、より安心・安全な環境で学べるという意味においてはメリットですが、それだけでは、坪谷先生のおっしゃるグローバルな視点で他者と協働して価値を創造していくことは難しくなってしまう。だからこそ、安心・安全な場をしっかりと保ったうえで、外に出て、さまざまなものに触れて、視野と考え方を広げていくことが大切です。そして、



上／中学「グローバルコース」のモンゴル異文化体験プログラム。現地の同世代の子供たちとの交流は貴重な体験だ。
右／フィリピン、バターンという町に立つ日比友好的のシンボル「フレンドシップタワー」で。中2のマニラ平和学習の一コマ。



Homepage



真のグローバルリーダーを育てる
意欲的な新コースを開設

佼成学園中学校・高等学校



上／最新のICT環境を構築。生徒は1人1台iPadを持ち、授業、行事、部活動などの場面で活用している。
左／「グローバルコース」の英語はネイティブ教員が中心になって、インタラクティブな授業を展開。



高校「グローバルコース」のコアイメージ図

from the School



「佼成だからできる豊かな国際体験で、可能性を広げたい」と語る国際交流委員長の小塩雅一先生。

高校英語科 北野尚之先生

社会と触れる実践的な学びを重ねて、世界の課題を解決できるリーダーを育てたい。



社会の平和に資する ピースメーカーたれ

建学の精神は「平和な社会の繁栄に役立つ若者の育成」。近年は、中学校でグローバル人材育成を目指す「グローバルリーダープロジェクト（GLP）」を推進し、注目を集めてきた。2021年度からはGLPの精神を受け継いで、中高に「グローバルコース」を新設した。さまざまなアプローチで、真のグローバルリーダーになる人材を育成する。

国際交流委員長で英語科の小塩雅一先生は、中学「グローバルコース」について、「モンゴルやマニラの奥地など、世界的なネットワークを持つ佼成学園ならではの場所へ出向き、国際体験や現地生徒との交流を行います。事前と事後の学習も綿密に行い、最後には発表を行ってプレゼンテーション力を養うのも重要な要素。もちろんネイティブ教員による英語教育も行い、実践的な英語力を身に付けます」と話す。

高校「グローバルコース」では、中学の体験をベースに、豊富な国内外のフィールドワーク、アントレプレナーシップ教育、探究型授業の3本柱で深く掘り下げた学習を行う。舵取り役の英語科の北野尚之先生はその目的を「社会課題を解決して平和な社会に資する『ピースメーカー』を育てること」と語る。

中でも注目なのがアントレプレナーシップ教育だ。高1ではアントレプレナーシップの基本的な理論を学

ぶとともに、自分が興味関心を持った社会課題を調査し、解決策を思考する。高2では、解決策を基に各自が試作品やサービスを作成。国内の専門家から幾度もフィードバックを受けたのち、ボストン研修で投資家に対して英語でプレゼンテーションを行うという、非常に野心的なプログラムだ。一連の過程を通して起業家精神を培うだけでなく、課題を発見して解決策を探り、協働力やコミュニケーション力を磨く。さらには失敗を恐れない心、海外へ出て行くことをためらわない心を育てていく。

主要教科を教科横断型にして、探究ベースの授業を行うのも「グローバルコース」の大きな特徴だ。土台となる英語教育に関しては、ほぼすべての授業がネイティブ教員らによるオンライングリッチュ。英検準1級取得を足掛かりとして、TOEFLやIELTS対策も行い、海外大学への現役進学に対応できる力を付ける。

真のグローバルスキルを武器に、世界へ羽ばたく生徒たちの将来に高い期待が集まっている。

School Data

〒166-0012
東京都杉並区和田2-6-29
☎03-3381-7227
<https://www.kosei.ac.jp/boys/>
●創立 1954年
●交通 東京メトロ丸ノ内線「方南町」駅から徒歩約5分

ICTスキルを生かして学びがさらに発展 ▶ 佼成学園では他校に先駆けてiPadを導入しており、生徒のICT活用スキルは非常に高い。昨年度はオンライン授業が素早く実施されただけでなく、生徒たちが自発的にオンライン学習グループをつくって学び合うようになるなど、学びはさらに発展した。ICTスキルと自ら学ぶ姿勢を持つ生徒たちの活躍を期待したい。

佼成学園女子中学・高等学校

Homepage



実践に基づく課題研究が拓く
国際人としての視野と人間力



上/2017年度の「SGH全国高校生フォーラム」のプレゼンテーションで、最優秀1校に与えられる文部科学大臣賞を受賞。

右/スーパーグローバルクラスでは全員が「課題研究」を行う。高1で研究の方法論など基礎教養を学び、高2ではタイの山岳少数民族の村でフィールドワークを実施。貧困、教育、児童労働、フェアトレードをテーマに課題・研究を進める。



フィールドワークの研究成果を英語論文にまとめるために、高3の春、ロンドン大学研修が行われる。昨年はコロナ禍のため、オンラインで実施された。

右/異文化理解を深めるため、音楽や美術などの実技科目を英語で行う「KOSEI イマージョン」。



下/津田塾大学2年生の平田紗也子さん(右)と高2の宮澤史依さん(左)。



from the School

西村準吉教頭

今後は、高大接続も交えながら、理系分野の探究的な学びを深めたいと考えています。



海外研修は探究の機会 評価が高い研究成果

2005年に留学クラス(SA)を設けて以来、国際教育、英語教育に力を注ぐ佼成学園女子中学・高等学校。第1期スーパーグローバルハイスクール指定を受け、留学クラスをさらに発展させたスーパーグローバルクラス(SG)を2015年に創設した。

ハイレベルな国際知識と教養の習得を目的としたSA・SGは、今や「グローバルの佼成」を代表する存在となっている。国際社会や異文化に興味を抱いて入学する子も少なくない。SG6期生で高2の宮澤史依さんもその一人だ。

「小学生のとき、母とフィリピンの紛争地域の子供たちと交流するプログラムの応募したのですが、現地の治安の悪化で実現しませんでした」だが、それがきっかけで「国際問題に関心を持つようになり、SGを選んだ」と言う。

SAでは高1から高2の1年間、ニュージブラントに長期留学。SGは高2で約2週間、タイでのフィールドワークを行い、その成果を基に高3ではロンドン大学で英語論文の研修を受けて論文を完成させる。どちらの場合も、生徒個々に研究テーマを持つ探究学習を兼ねている。

昨年度は、コロナ禍の前に出発していたSAの留学は実施できたものの、SGのタイ・フィールドワーク、ロンドン大学研修は中止となった。

だが、同校は国内の大学や、海外校との密な関係を生かし、これらをオンライン研修に切り替えた。

「即座にそうした対応ができたのは、これまでの高大連携の取り組みや、海外校との密な関係があったからです」と西村準吉教頭は言う。

SA・SGの生徒による国際的な社会課題をテーマとした研究は、「SGH全国高校生フォーラム」など、外部の研究発表会で高く評価されている。これを受けて同校では、2020年度よりゼミを開設し、従来の探究学習により厚みを持たせる取り組みを全校で展開している。

自ら関心を持った社会課題について調査研究する体験は、その生徒の進路や将来にも影響を与える。2019年度卒業生の平田紗也子さん(SG3期生)は言う。

「大学で異文化コミュニケーションを専攻していますが、SGでの経験がその進路につながりました。将来は国際的な仕事に関わりたくい」高い英語力に加え、6年間で世界を見る目が養われる。

School Data

- 〒157-0064 東京都世田谷区給田2-1-1
- ☎03-3300-2351(代)
- https://www.girls.kosei.ac.jp/
- 創立 1954年
- 交通 ●京王線「千歳烏山」駅から徒歩5分
- 小田急線「千歳船橋」駅から徒歩5分
- 小田急線「成城学園前」駅から徒歩5分
- 小田急バスで約20分「千歳烏山駅」下車、徒歩5分

コアネットの目 学びたいことを支えてくれる教師陣▶同校では、2020年度からゼミを開設し全校で探究学習に取り組んでいる。カリキュラムの探究以外に、例えば生徒たちが参加したいと思う学外の探究のコンテストがあれば、その活動を全力でサポートしてくれる教員陣がいるのも魅力だ。2020年度は「観光甲子園」に参加し予選通過を果たしている。これらで得た学びは、多様な大学入試にも生かされている。



神田女学園中学校高等学校

多言語教育×リベラルアーツの革新的女子教育が未来を創る



上/独自の言語習得プログラムK-SALCで個人の特性に合わせた適切なアプローチを提供。K-SALCルームではネイティブ教員のレッスンが行われる。
右/ネイティブ講師、バイリンガル教員が多く、生きた英語が身の回りにある。帰国生のための日本語教育も充実。



グループで知恵を出し合って課題を解決。ICTを活用して探究成果を共有する。

右/ダブルディプロマプログラムでアイルランドのRockwell Collegeに留学中のAnnaさん。学校の公式サイトでブログを公開中。



下/ソフトボール部は全国大会出場常連の強豪チーム。2019年には33年ぶりに全国優勝を果たした。



from the School

宗像 諭校長

単に英語を話すのではなく「英語で伝える」ためには母語の運用能力を高めることも大切です。



注目のダブルディプロマプログラムで世界が身近に

子供の将来の選択肢として海外へ目を向ける保護者にとって、神田女学園中学校高等学校は、目が離せない学校のひとつといえる。教育の柱となるのは、突き抜けた多言語教育とリベラルアーツ、国内私学屈指のDDP（ダブルディプロマプログラム）だ。中学校はグローバルクラスのみの設定。英語は中1から習熟度別の少人数授業で丁寧な基本を押さえ、アドバンストクラスはオールイングリッシュで学ぶ。さらに社会・理科・数学・芸術系科目の一部はネイティブ教員によるイマージョン教育を実施。各教科ともICTを駆使することにより、生徒の主体性を引き出す探究型の授業を展開している。

中3から第二外国語が必修で入り、中国語・韓国語・フランス語・日本語から選択し、4年間履修する。「日本語は帰国生や外国籍の生徒、留学生向けです。本校は母国語が日本語ではない生徒も一定数いて、彼女たちはすでに3カ国語が使って4カ国語目が日本語という場合も多い。そういった生徒と日本育ちの生徒が共に学ぶ姿を見ていると、第二外国語の必要性を強く感じます。2年ほど学ぶと自分の意思を伝えられるようになり、物事を多角的に考えられるようになる」と感じます」と宗像諭校長。各国の言語が飛び交う同校の日常は、まさに多言語教育といえる。

School Data

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-3-6
☎03-6383-3751
<https://www.kandajogakuen.ed.jp/>

- 創立 1890年
- 交通
 - JR総武線・都営三田線「水道橋」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩約5分
 - JR中央線・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅から徒歩約10分
 - 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ東西線「九段下」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ丸ノ内線・東京メトロ南北線「後楽園」駅から徒歩約12分

DDPは、高1夏から2年弱、提携校に留学し、神田女学園と海外の高校両方の卒業あるいは修了資格を得るプログラムだ。すでにアイルランドに1名が留学中で、帰国後は国内外の大学併願を計画中という。ほかにニュージーランド、カナダ、アメリカ、イギリスにも提携校を持つなかでもアメリカの高校は新しいハイブリッド型。中3時からオンラインで授業を受けることができ、そのままオンラインのみで卒業要件を満たすこともできるし、1〜2年留学して卒業資格を得ることもできる。

一方、今年度から高校高度教養コースにMT（メデイカルテクノロジー）クラスが新設された。「真の国際医療人」になることを希望する生徒のクラスで、生命倫理などの探究授業も行う。こちらも同校生徒の新しい未来を切り開くだろう。

コアネットの目 5カ国から選択できるDDPと多言語教育の実績に注目 ▶ いち早く「グローバル教育」を行い、多言語教育・海外姉妹校との交流など成果を出している。昨年度よりスタートさせたDDP(ダブルディプロマプログラム)は、アイルランド、カナダ、アメリカ、ニュージーランド、イギリスと複数の国から選択できる充実のプログラムである。

実践女子学園中学校高等学校

Homepage



実践的なグローバル教育で
生徒たちの未来を開く



茶道や着付けを1年間学ぶ「日本文化実習」や、立ち居振る舞いを体得する「礼法」の授業を通して、相手の視点に立ち思いやることのできる女性を育成する。

「本校は海外大学へ推薦入学できるUPAAIに加入しています。海外大進学に向けて細やかな指導を行っています」。グローバル教育部主任の犬飼由佳子先生。



グローバル教育部のロバート・キンブル先生。「Think globally, Act Locally. 生徒と一緒に考え行動していきたい」と語る。



上／「未来デザイン」の授業にはグループワークと一人で考える時間の両方がある。自分にとって世界の課題は決して遠いことではないと気付く。



右／全日本高校模擬国連大会やハーバード大学模擬国連大会に出場している。



10名のネイティブ教員が在籍。英語は中1から習熟度別の少人数クラス編成で、英語を使う機会を多くしている。

from the School

グローバル教育部／ESD推進
米倉晋一先生

新時代のグローバル教育を展開しています。自分の手で未来を創る実践力を育成します。



新しい時代を生きるための グローバル市民教育

明治期、欧米の女子教育を視察してきた下田歌子を校祖とし、「女性が社会を変える、世界を変える」の理念を継承してきた伝統校。知識・教養を「実践」することに重きを置き、「グローバル教育」「探究教育」「感性表現教育」を学びの3本柱としている。

中でも注目されているのは、「グローバル教育」だ。これまでGSC（グローバルスタディクラス）で行っていた高度な英語教育や異文化理解教育を、全校に広げている。

「背景にあるのは、外国人と働くことも珍しくなくなった国内の変化と、国同士の分断が目立つようになった世界的変化です。こうした時代には、一部の人以上でなく全員が、世界のために自分には何ができるのかというグローバルマインドを持つべきで、ユネスコの理念であるグローバル市民教育を本校独自の方法で進めています」と語るのには、グローバル教育部の米倉晋一先生。

核となるのは①疑問を持ち、②何が正しいかを見きわめ、③正しいことを選択する勇氣を持ち、④自分から進んで、⑤行動に移し、⑥結果を評価する、という六つのステップ。たとえば、スマホなどの電子デバイスの原料はどこから来るのかという疑問は、レアアースが紛争の原因となっている現実、アフリカの内戦や児童労働の問題につながっていく。

遠い国の出来事と自分がつながっているという気付きが、グローバル市民への入り口となるのだ。あるいは、「国際結婚ってどう？」というシンブルな問い掛けから始まる授業では、実際に国際結婚をしているネイティブ教員へのインタビューなどを通じて、結婚とは異文化理解であり、それは国際結婚だけの問題ではなく、同国人同士にも、隣の家と自分の家にも異文化の問題はあると生徒たちが気付いていく。

こうした授業は「未来デザイン」と名付けた総合の時間を使って実施。英語科だけでなく、社会科、理科等の教員も担当し、さまざまな切り口でグローバル市民教育を行っている。「グローバルパスプロジェクト」という放課後の活動があり、そこでも学びを行動に移すチャリティイベントなどを行っています」と英語科のロバート・キンブル先生。

近年は海外大進学も進路選択の一つとして完全に定着。海外進学担当の犬飼由佳子先生は「エッセイの準備なども全面的に支援しますので、ぜひチャレンジしてほしい！」と言う。伝統女子校の進化は止まらない。

School Data

〒150-0011
東京都渋谷区東1-1-11
☎03-3409-1771
https://hs.jissen.ac.jp/

- 創立 1899年
- 交通 ● JR、京王井の頭線、東急線、東京メトロ各線「渋谷」駅から徒歩10分 ● 東京メトロ千代田線ほか「表参道」駅から徒歩12分

コアネットの目

ニューノーマル時代に必要な「未来デザイン」の授業に注目 ▶ 伝統女子校としての存在意義を発揮できているのは、時代とともに求められる女子教育を実践できているからだ。時代を読み、資質、能力を育成する「未来デザイン」は注目の教育プログラム。公式YouTubeではユニークな視点で制作されている動画が多く、イキイキとした学校の様子を紹介している。受験生には必見といえるだろう。

Homepage



女子聖学院中学校高等学校

社会の課題に対する考えを深め
 当事者として探究する力を育てる



左/2019年に開設された、ICTをフル活用できるフューチャールーム。電子黒板を活用してプレゼンテーション力を鍛える。
 下/学んだことを生かし、意見をまとめ、効果的に発信するにはICTが欠かせない。



右/ペットボトルのラベルの文字が読めなかったらという想定で、所得格差を身近なものとして捉えた授業。



下/Global 3day Programは、中1~高2で年3日間設けられている国際理解教育プログラム。英語のアウトプットが徹底して行われる。

障害者施設や高齢者施設でのボランティア活動も盛ん。



from the School

英語科 大井藤花先生

世界で起きている諸問題の考察を通して、発言力や英語力、ICT能力、協調性を伸ばしたい。



英語力を伸ばしながら
 グローバルに視野を広げる

1905(明治38)年に創立。キリスト教教育と女子教育の二つのアイデンティティを土台とする伝統女子校は、2020年度、中学2年生の英語科を中心にグローバルな問題に意識を向ける活動を行った。中心となって活動した英語科の大井藤花先生にお話を伺った。

「英語科を軸に、1年を通して教科横断型でSDGsをテーマとした学習に取り組みました。きっかけは、英語の教科書にあった小笠原諸島の環境問題です。本校は中2で環境問題について学び、視野を広げることもあり、SDGsに絡めた学習へ広げられないかと考えました」

まずは、コロナ禍で休校期間中だったゴールデンウィークに、小笠原諸島について各自で調べ、英文で新聞形式にまとめる課題を出題。6月には、社会科でSDGsについて学ぶ授業を行い、本格的な活動をスタート。『世界がもし100人の村だったら』を題材に、非識字と所得格差について考えた。

非識字問題では、水、薬、毒が入っていると仮定した3本のペットボトルを用意。ラベルの文字が読めない母親の立場で、病気の子どもにどうやって薬のボトルを選ぶかという設定で、自由に意見を発表させた。「世界で何が起きているかを実感して、自分たちに何ができるのかを考える。生徒には感じたことを恐れ

ずに話してもらいました。自分の意見を持ち、発言することこそ、英語を学ぶうえでも、国際社会で生きるうえでもとても大切なからです」と大井先生。

8月下旬からは、朝日新聞社が主催する、全国の子供や若者を対象としたSDGs日本語コピー制作企画に参加。コピーライターを講師に呼び、伝わる文章の作り方やターゲットの絞り方などを学習。国語の授業では、原稿作成のためのワークショップの作り方を学び、3人1組で自分たちが作ったコピーをiPadを用いて英語で発表。ICTの操作能力やプレゼンテーションの学びへもつなげた。年明けからは1年間の学習の感想をパンフレットにし、総まとめをして締めくくった。

「1年間の取り組みを通して、英語力の伸長のみならず視野の広がりを実感しました」と大井先生。
 本年度から全校で探究学習に取り組む。世界の出来事を実感し、自分のこととして学びを深める生徒たちのこれからが楽しみだ。

School Data

〒114-8574
 東京都北区中里3-12-2
☎03-3917-2277(代)
<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/>

- 創立 1905年
- 交通 ●JR山手線「駒込」駅から徒歩約7分
- 東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩約8分
- JR京浜東北線「上中里」駅から徒歩約10分

東京女学館中学校・高等学校

国際的な視野を広げ
インクルーシブ・リーダーシップを育てる

Homepage



海外には出られなかったが、オンラインだからその交流が活発に行われた。



コロナ禍でもできる競技を生徒が考え、工夫しながら体育祭も実施した。



上/「国際学級」の教材は英語圏の学校で使われている教科書や副読本のほか、ニュース記事や小説なども使用。ディスカッションやプレゼンテーションに重きが置かれている。



左/校内で行われた模擬国連の様子。「国際学級」のカリキュラムに組み入れられている。

from the School



ICCEC室長 浦辺沙織先生。
「コロナ禍でもできることを生徒たちは前向きに考えました。これもインクルーシブ・リーダーシップの表れといえるでしょう」

国際学級主任 クリスタル・ブルネリ先生
オンライン交流で生徒の新たな一面が見えるなど、発見も多くなる1年でした。



英語教育と交流が生む 「国際学級」の多様な学び

1888(明治21)年の創立以来、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標としている。2004年には、帰国生、一般生、内進生が混在し、生育環境や英語力の違いを乗り越えて運営される「国際学級」を開設。北米型のランゲージアーツを土台に、ディスカッションやプレゼンテーション、演劇パフォーマンスなど多様な授業形態による英語教育が展開されている。高度な英語運用能力が獲得できることはもちろん、クリティカルシンキング(批判的思考)の習慣化による主体的な学びの姿勢や、違いを認め尊重する異文化理解の本質を生徒たちが内在化していくところに「国際学級」の特色がある。

「国際学級」には、アメリカ・ボストンでのリーダーシップ研修(全員参加、オーストラリア・タスマニア文化研修(希望者、選抜あり)が用意されているが、昨年は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止になった。その中で、オンラインによる交流企画をいくつも立ち上げ、例年とはまた違う充実した活動ができたという。「タスマニアの高校生とオンラインで質疑応答をしたり、韓国の姉妹校から、校内暴力撲滅キャンペーンに参加しませんかという提案を受けて、ムービーを作成して送ったり。留学や研修で海外に出る予定だった生徒だけでなく、全員が関わる交流がで

School Data

〒150-0012
東京都渋谷区広尾3-7-16
☎03-3400-0867
https://tjk.jp/mh/

- 創立 1888年
- 交通 ● 東京メトロ日比谷線「広尾」駅から徒歩約12分
- JR「渋谷」駅、「恵比寿」駅から都営バスで約10分「東京女学館前」下車すぐ

きたのがよかったですね」と国際学級主任のクリスタル・ブルネリ先生。代替交流をすぐに立ち上げ、生徒たちが積極的に参加できたのは、学校行事や委員会活動、海外交流プログラムなどさまざまな場面で、一人ひとりが主体的に関わり協働して課題を解決するインクルーシブ・リーダーシップを育んできたからだ。

「ボストン、タスマニアのほか、韓国、マレーシア、タイ、ポーランドに姉妹校があります。短期留学生の受け入れや定期的な訪問交流などを行い、本校と直接つながっている学校なので、すぐに交流プログラムを立ち上げることができました」とICCEC(異文化相互理解教育センター)室長の浦辺沙織先生。オンラインになったことにより、「国際学級」だけでなく一般クラスの生徒も積極的に参加するようになったという。

「ポーランドとのオンライン交流に参加を呼び掛けたところ、50人近くが手を挙げ、中には、英語に自信がないけれどプレゼンしてみたい!という中学1年生もいました」

誰でも参加型のオンライン交流は、新たな未来につながりそうだ。

コアネットの目 国際学級のノウハウを一般学級の英語力強化へ▶オンラインの活用により、独自に発展させてきたグローバル教育がさらなる広がりを見せている。広がり国際学級だけでなく、一般学級でも英語の授業で、2020年度より習熟度別・少人数制の新指導体制をスタートさせるなど、生徒個々のレベルに合わせた実践的な学びが強化された。英語力育成のさらなる発展に期待が高まる。



校外の体育館で行われる体育祭。例年は団体競技、発表、徒競走、応援合戦などで盛り上がる。



文化部14、運動部8がある。毎年11月に行われる文化祭は大切な発表の場。



授業では、自分なりの意見、考えを発表するプレゼンテーションの機会が多い。生徒たちは伝わる表現を身に付けていく。



学んだ知識を活用して観察や実験を行い、科学的探究心を育てる理科の授業。クロスカリキュラム授業では実験の方法も生徒が考える。

from the School

CLIL推進ファシリテーター
白井龍馬先生
中高一貫の良さを生かし、自己肯定感と学習意欲、学びに向かう主体性をじっくり育てます。



「愛と誠」を校訓に掲げ、自分は愛されているかけがえない存在であるという意識を育てる。

主体的に考える力を育む
国際教養クラスの授業

横浜の街を見下ろす山手の高台に立つ横浜女学院中学校高等学校。プロテストのキリスト教精神による女子の人間教育で知られる伝統校が、近年ではESD（持続可能な発展のための教育）とCLIL（内容言語統合型学習）を導入。国際的な問題意識を高め、英語運用能力を大きく伸ばしてきた。

今年度からは、その土台を基に中学の国際教養クラスで教科横断型授業（クロスカリキュラム授業）をスタート。さらなる飛躍を目指している。

プログラムを推進する、CLIL推進ファシリテーターの白井龍馬先生にその目的をうかがった。

「世の中の事象が複雑化する現代社会では、物事を多角的にとらえ、自分の考えを持つことが大切です。国際教養クラスでは、どの教科も満遍なく勉強し、得た知識をつなぎ合わせて自分なりの考えを生み出すことを目指します。そのために行うのが、クロスカリキュラム授業です」

生徒たちはまず、ラーニングプロジェクト型授業（小さな課題から始めて、最終的に大きな課題に生徒が向かっていく授業）に挑む。たとえば2020年度は「コロナ禍で家にいる時間が多い今、防音について考える」というトピックを探究。授業動画も活用して効率よく知識を得たのち、問題解決のための実験を行い、結果を発表。一連の過程を通して知識や

価値観、思考力、主体的に考える姿勢や協働する力を学んでいくのだ。次に取り組むのがクロスカリキュラム授業だ。中3の「原子力発電を考えると」では、理科の授業で放射能やエネルギー変換効率について学び、社会科で日本の産業構造やエネルギー自給率を学ぶ。これを基に原発の是非や発展とは何かについて考えを進めていく。「二つの教科の視点で問題の本質に迫ります。生徒たちは効率良く与えられた知識を自分の中でつなげて自分なりの意見を持ち、それを発表する。発表した自分の意見を人に認めてもらうことで、自己肯定感が育つのです」

中学で深めた学びを基に、高校では国公立早慶を見据えた5教科7科目をしっかり学習。中学での学びの履歴は、総合型選抜への大きな強みとなる。

キリスト教精神を礎に熱心な指導を行う教員のもと、考え行動する力を身に付けた生徒たちは、複雑化した社会に力強く羽ばたいていくことだろう。

School Data

〒231-8661
神奈川県横浜市中区山手町203
☎045-641-3284
https://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/

- 創立 1886年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「石川町」駅から徒歩約7分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン「伊勢佐木長者町」駅から徒歩約18分

コアネットの目

教育改革を常に推進。卒業生の活躍も中高時代が下支えに▶同校でCLILとESDを学び、他大学卒業後に東京大学大学院へ進学した卒業生が出た。中2以上の希望者を対象に放課後に行われている「学びプロジェクト」では、教科の枠を超えた国際問題の探究と発表、ディスカッションを通して他者への理解を深めていく。生徒の自己肯定感を高め、可能性を引き出す同校の教育は進化が止まらない。

大宮開成中学・高等学校

Homepage



課題解決に取り組み力を育む
独自のプレゼンテーション教育



プレゼンテーション教育はSDGsを切り口として、中1から高1までが各学年のテーマに沿った探究学習からスタート。「開成文化週間」での発表を目指し、1年かけて取り組む。



全国大会出場も果たしているチアダンス部。

右/ロサンゼルス近郊で、ホームステイをしながら英語とアメリカ文化に触れられるプログラム。



下/スピーキング力を磨くために、中2でオンライン英会話を実施。



埼玉県アンサンブルコンテスト金賞(金管7重奏)を受賞した吹奏楽部。



from the School

松崎慶喜副校長

本校の探究学習を通して、世界に貢献できる自分の役割や輝ける場所を見つけてください。



プレゼンテーション教育がワンランク上のフェーズに

2005年の中高一貫部開設以来、大宮開成中学・高等学校が推し進めてきたプレゼンテーション教育。授業とは別に、中1の「身近な環境」、中2の「日本」、中3の「世界」、高1の「自由学術研究」と、学年ごとに課せられたテーマについて、1年をかけ掘り下げて学ぶ探究型学習である。

「一昨年度から大枠のテーマはそのままだに、探究対象をSDGsの課題に絞り込んで取り組むようになったのを機に、プレゼンテーションの質が一気にシフトアップしました。車の運転で言えばギアが1段上がったな、という感じです」と語るのは松崎慶喜副校長だ。プレゼンテーション大会は「開成文化週間」と称して、毎年2月に開催。クラスの代表(班や個人)がパワーポイントを用いて全校生徒に向けて発表する。直近の大会から特に評価が高かった、中学生の取り組み例を紹介しよう。

を扱った中2の班のプレゼンテーションだ。

まずLGBT(性的少数者)について、精神科医や埼玉大学の社会学教授にインタビューを行った。さらにある公立中学が採用した男女両用タイプの制服に着目。学校関係者に話を聞き、発表の導入として、いろいろな制服をビジュアルで紹介し、「どの制服が男子用? 女子用? 実はどちらも性別に関わらず誰でも着用していいんです」と、最初にジェンダーレスについて問題提議した。

「最も感動したのは、彼らが言った『自分たちはまだまだ知らないことだらけ。探究学習を通してそれがわかりました』という言葉です。いわゆる無知の知。これは学問への姿勢の基本中の基本です」と松崎副校長。同校のプレゼンテーション教育は、異なる科目の知識が世の中でどのように結び付いて役立つのか、といった「知の統合・深化・定着」を促す。それが日常の授業への学習意欲にもつながり、上昇を続ける進学実績を支えているのだろう。大宮開成が見据えているのは、10年先・20年先に活躍できる、生徒たちの未来像だ。

School Data

〒330-8567
埼玉県さいたま市大宮区
堀の内町1-615
☎048-641-7161
<http://www.omiyakaisei.jp/>

- 創立 1959年
- 交通 JR「大宮」駅東口から国際興行バスで「天沼町」下車すぐ

コアネットの目

4年連続で東大進学者を輩出。“勉強で遊ぶ”生徒たちが強さの秘訣 ▶ プレゼン教育を通じた探究学習を支えているのが、図書館の積極的な活用だ。中1から中3まで行われる朝20分間の読書が、物事を多角的に考える基礎を築いている。特に中1では、1年をかけてすべての分類項目から偏りなく本を選び、生徒の視野、興味・関心の裾野を広げ、継続する力を育てる。大宮開成の教育に今後も注目だ。

Homepage



駒込中学校・高等学校

新学習指導要領に素早く対応し 真のグローバル教育を推進



上/「国際教養コース」の生徒が環境をテーマに課題研究を行い、ポスターセッションに取り組んだ。
右/科学・技術・工学・数学の4分野を総合的に学ぶSTEM教育を導入している。



ICT教育を活用し、アクティブラーニングの授業のなかで、生徒たちの主体的な学びを伸ばしていく。

右/「理系先進コース」の研究発表会。「身の回りにある課題を解決」するために、STEMの視点からアプローチする。



下/マンツーマンオンライン英会話の授業。楽しみながら4技能を伸ばす。



中2で実施される日光山研修。坐禅や写仏、写経を行い、自己と対峙する。



from the School

河合孝允校長

本校が求めるコンピテンシー(資質・能力)の基軸は、他者を尊重する仏教の利他精神です。



情報科学や文理融合を導入 準備が進む新設2コース

建学の精神「一隅を照らす」は、天台宗の開祖・最澄の言葉。駒込中学校・高等学校は「生徒一人ひとりの個性に光を当て、社会に貢献する人材を育成する」ことを教育理念としている。

教育改革への対応にも積極的で、高校ではSTEM教育(数学に情報工学を加味した教育)を基盤とする「理系先進コース」、イマージョン授業とグローバル教育を基礎とする「国際教養コース」をいち早く設けた。次いで2018年度には、そのジュニアコースにあたる「国際先進コース」を中学に設置している。

「今年度から中学に、来年度から高校に新学習指導要領が導入されますが、そのキープポイントは読解力と情報処理能力をセットにした教育観にあります」と河合孝允校長。

「簡単に言う」と読解力は、昔ながらの「読み書き、そろばん」です。加えて求められている情報処理能力は、情報の質や価値を科学的な視点で判断し、活用する力。つまりは、フェイクニュースに簡単に惑わされないきちんとした情報スキルを、早いうちに習得しようということだ。

その新しい教育観は、OECD(経済協力開発機構)が推進する「エデュケーション2030プロジェクト」に準拠している。つまり、これから求められるのは国際標準の教育であり、そこそが同校の見据えるグロ

ーバル教育なのだという。そして、同校はその実現に向けて現在、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とSGH(スーパーグローバルハイスクール)、二つの新設コースの準備を進めている。

SSHは「データサイエンス」や「サイエンスイングリッシュ」などの各種講座を、学年を超えた少人数で行う集中特別講座を核とする。SGHは現行の「国際教養コース」を土台に「数理探究科目」の学習や、統計数学を用いた「文理融合型学習」などに対応するコースだ。

「科学的論理性に従って考え、主体的に行動し、社会に役立つ新しいものを生み出せる素地を、中高の6年間で養います」と河合校長は言う。新コースは、早ければ2022年度には開設される見込みだ。

昨年度、社会人も参加する外部の起業コンテストで優秀賞を獲得、2社を起こし、社長に就任して卒業した女子生徒がいるというから驚く。次世代の有望な担い手が、すでに巣立っているのだ。同校が進めてきた教育改革の成果といえよう。

School Data

〒113-0022
東京都文京区千駄木5-6-25
☎03-3828-4141
https://www.komagome.ed.jp/

- 創立 1682年
- 交通
 - 東京メトロ南北線「本駒込」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩約7分
 - 都営三田線「白山」駅から徒歩約7分

コアネットの目

10年後を見据えた教育、Learning Innovation ▶ 一歩先の教育を行う。今年の大学受験でNew York Universityや延世大学をはじめとする海外大学に13名の生徒が合格した。グローバル人材の育成を推進する「国際教養コース」をはじめ、各コースの生徒たちの頑張りには目を見張るものがある。今後、年を経るごとに改革の成果が出るものと思われる。来年の結果が今から楽しみだ。

三育学院

世界規模のネットワークが支える
キリスト教、全寮制の教育



キリスト教、全寮制の教育



上／三育学院中学校女子寮の部屋の様子。1室3〜4名で学年混合。半年に一度部屋替えがある。
右／男子寮の自習室兼礼拝室。夜の自習時間の学習のほか、パーティーなどにも使われる。



三育学院中学校3年生の秋のニューージーランド研修(10日)では、ホームステイしながら語学研修と異文化体験を行う。

学校説明会2021

6/26(土)・27(日)

広島、沖縄、千葉
〈寮宿泊体験・学校説明会〉
詳しくは各校ウェブへ

from the School

尾上史郎三育学院中学校校長

寮教育、労作教育、健康教育、国際理解教育の4つの柱で、生きる力を身に付けます。



医療・福祉系大学への 進学希望者も多数

キリスト教プロテスタントのセブンスデー・アドベンチスト教会の教えを柱に据える三育学院。社会に出て奉仕する人物を育てることを教育理念とする男女共学全寮制の学校だ。全国に、幼稚園から大学院までを有し、千葉県と沖縄県に中学校、広島県に中高一貫校を設置。連携を取りながら、特徴ある学びを展開している。

三育学院の強みは、世界約8800校を誇る系列校ネットワークだ。広島三育学院高等学校の卒業生の3割近くがアメリカの医科大学など、国内外の系列の医療や教育、福祉系大学へ進学。医療分野を中心に世界各地で活躍している先輩たちに、オンラインで相談しながら進路を検討する生徒も多いという。

教師と生徒が共に暮らす寮生活では、生活の基盤から学ぶ。三育学院中学校の尾上史郎校長は、「親元から離れ、自分のことは自分でやることで自立心と親への感謝の気持ちが生まれ、寮の先輩や仲間と共に暮らすことで人間関係力が育ちます。寮の友達とは一生の付き合いになりますよ」と話す。不登校などの悩みを抱えていたお子さんが、新しい環境と生活習慣の改善で自然と癒やされることも多いという。

24時間の全人教育の中で多感な時期を過ごすのは、生涯の大きな糧となることだろう。

三育学院中学校 系列校のICT教育を牽引

茨城県北浦湖畔キャンパスでの50年の歴史を経て、昨年、千葉県夷隅郡大多喜町へ移転。新たなスタートを切った。

ICT教育にも注力。昨年の新学期はコロナ禍で入寮が5月末に遅れたが、その間もオンラインで授業を行っていたという。

尾上校長は、「各自の理解度や進度に応じた課題を提供するなど、一人一台のタブレットを活用して個別対応教育に取り組んでいます。各自が学習動画をみて授業に臨むことで、授業の理解度が格段にアップしました。ICTの活用で子供たちのプレゼンテーション能力も飛躍的に向上しています」と、その成果を語る。今後は広島、沖縄とオンラインでつないだ授業も計画 중이다。

校舎のある上総中野キャンパスのほか、寮のある広大な久我原キャンパスには、大学や神学院、図書館やチャペルなども併設。自然豊かな環境の中で、学力と心身の両方を大きく伸ばせることだろう。

School Data

〒298-0271
千葉県夷隅郡大多喜町中野589
☎0470-83-0830
<https://saniku.ac.jp/academy/>

- 創立 2020年
- 交通 小湊鉄道線・いすみ線「上総中野」駅から徒歩5分



Homepage

コアネットの目

三育学院・世界的なネットワークと全寮制を基盤にしたユニークな学校 ▶ 千葉、広島、沖縄の3つのキャンパスを連携させての教育プログラムをはじめ、他校の追随を許さないユニークな教育に期待。三育学院中学校 ▶ オンラインと対面との組み合わせ授業で、一人ひとりの学習に合わせてサポートする、面倒見の良さに評価が高く、今後の取り組みに注目が集まる。



上／生徒同士が教え合い学び合うアクティブラーニングで行われる2年生の社会の授業。

右／多感な時期を自然あふれるキャンパスで伸び伸びと過ごせる。

右下／寮のペランダからは森の木々と真っ青な海が見渡せる。

下／増田 敦校長。



都会とは異なる環境での寮生活に、不自由や不便を感じて当初は戸惑う生徒たちも、やがて自ら遊びや道具を創造する楽しさに目覚めていく。沖縄三育中学校の教育の土台となっているのが、他者を認め受け入れるおおらかさだ。このおおらかさは

沖縄三育中学校 自然に囲まれ楽しく学ぶ

「キャンパスは、コバルトブルーの名護湾を見下ろすオーシャンビュー。ここにいること自体が癒やしとなり、生徒の心身にとってもいい影響を与えています」と増田 敦校長。1年生は週に1度、近くの海、山、川に出かけ、楽しみながら生きる力を育んでいる。

沖縄文化の土壌といってもいいもので、子供たちは、受け入れられている、認められているという安心感の中で、何事にも前向きに取り組むことができる。少人数ゆえ、一人ひとりに活躍の場面が多くあることも、生徒を大きく成長させている。今年の夏には新校舎が完成予定。楽しさの中で学べる学校だ。

School Data

〒905-0003
沖縄県名護市旭川837
☎0980-52-3942
<https://www.jh.okinawa-saniku.ed.jp/>
●創立 1954年
●交通 那覇空港から名護市街まで車で約1時間。名護市街から車で約20分



▲Homepage



上／労作教育でキャンパスの草刈りに精を出す高校生。大人顔負けの働きだ。

右／少人数教育で生徒一人ひとりに目が届く。必要に応じて補習も行われる。

右下／高校聖歌隊。



北林 聡校長。



広島三育学院中学校・高等学校 「国際英語コース」の学び

三育学院の中高一貫校だ。千葉県の三育学院中学校と沖縄三育中学校の生徒も、ここ三育高等学校に進学すれば、一貫した教育を受けることができる。「学校教育と寮教育、キリスト教教育を通して生きる力を養い、世界へ羽ばたいてほしい」と北林 聡校長。

注目は、高校の「国際英語コース」。海外系列大学への直接留学を目標としており、高校2年時には、コース全員が4カ月イギリスに留学するプログラムがある。コロナ禍で昨年は実施できなかったが、教会のネットワークを生かし、フィリピンにある

教会のラーニングセンターとオンラインで結んで、マンツーマンでの英会話授業を行った。また、教会の青年部が主催する海外ボランティアに参加して、井戸掘りや教会建設を経験し、卒業後の学びにつながる生徒も多い。世界につながる特色ある学びで、グローバルに活躍できる力を養う。

School Data

〒729-1493
広島県三原市
大和町下徳良296-2
☎0847-33-0311
<https://www.saniku.ac.jp/hiroshima/>
●創立 1977年
●交通 広島空港から車で約20分



▲Homepage

コアネットの目

【沖縄三育中学校】この夏には、沖縄の風土を取り入れ、目指す教育を実践する新校舎が完成する。他者理解にあふれる環境だから、生徒の才能が開花するという期待感がある学校。

【広島三育学院中学校・高等学校】学校教育、寮教育、宗教教育の3つのコンセプトを持ち、ユニークな教育を実践。学校の取り組みをPRしているYouTube動画から、その様子を知ることができる。

城西大学附属 城西中学・高等学校

6年間を通じた国際教育と
体験型学習で自ら伸びる力を付ける

Homepage



高2の台湾修学旅行。台中にある姉妹校の生徒をはじめとする現地の人々との触れ合いは、大きな刺激となるだろう。



右/中3全員参加のオーストラリア研修。ホームステイしながら提携校の通常授業に参加する。

左/中1稲作体験には日本文化、生物学、経済学など多角的な視点の学びがある。



右/自ら進んで学ぶ意欲を大切に、さまざまな指導を実践している。



左/「学校内外の力を結集して、多様な体験型学習をつくっていききたい」と語る神杉旨宣教頭。

from the School

斉藤 栄校長

中学はコースで分けないのも本校の特徴。共に学び、共に高め合うのが建学時からの伝統です。



進化を続ける 城西の国際教育プログラム

大正期に創設された学校らしいりべラルな校風と、戦前から留学生を受け入れてきた国際性が特色の城西大学附属城西中学・高等学校。現在も世界7カ国16校の姉妹校・提携校を持ち、短・中・長期の交換留学プログラムによって毎年多数の生徒が海外へ。他方、常に複数の留学生を迎え入れ、共に学び交流することが日常になっている。創立100周年にあたる2018年には、JOSAI Future Global Leader Program (JFGLP)として、新しいプログラムを打ち出し、国際教育を力強く推し進めている。

JFGLPの中間目標としてオーストラリア海外研修を設定した。中学3年生全員が2週間、一般家庭にホームステイしながら提携校での授業や留学生向けプログラムに参加する。希望すれば4週間の延長も可能だ。親元を離れ海外で一人、異文化の中で学校生活を送った経験は大きな自信につながる。

この海外研修を設定することで、中学3年間の英語学習に明確な目標が生まれる。カリキュラムとしても週7時間の英語の授業のうち3時間をネイティブ教員が担当。朝学習、English skillsや多読、エッセイライティングなどさまざまな学習形態で4技能をバランス良く伸ばしていく。また、他教科と連携しての日本文化の体験型学習や比較文化研究な

ども取り入れ、それらも含めた全体がJFGLPとなっている。

「新型コロナウイルスの影響で今年3月に予定されていたオーストラリア研修は中止となってしまいました。JFGLPの考え方を高校につなげて、6年間を通じた国際教育の形を新たに考えていきたい」と斉藤栄校長。

School Data

〒171-0044
東京都豊島区千早1-10-26
☎03-3973-6331
https://josaigakuen.ac.jp/

- 創立 1918年
- 交通 ●西武池袋線「椎名町」駅から徒歩約7分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「要町」駅から徒歩約6分

高2の2学期の修学旅行（台湾・ハワイ・国内から選択）を、「研修」という形に近づけ、深掘りしていこうという計画も進んでいる。担当する神杉旨宣教頭は、「たとえばハワイでは自然体験や、日系の方から戦争体験を聞くことを計画しています。台湾では、起業が盛んな同地でビジネスアイデアをプレゼンするなど、一歩踏み込んだ活動ができるように準備中です」と語る。

同校が海外研修を重視するのは、非日常での体験・出会いが視野を広げ、自己肯定感を高めさせ、それがキャリア教育の根底になると確信しているからだ。伸び伸びと将来を切り開いていくための力を育む学校だ。

コアネットの目 城西大城西の文化が、自由に発想することを後押ししてくれる▶生徒の発表では教員も想像しない「オリジナリティ」が発揮される場面が多いという。自分の発想に自信を持って、形にすることができるマインドこそが、城西大城西の文化なのだという。先生方も先輩たちも、「自分を表現すること」を当たり前のように後押ししてくれる、学校見学ではそんな学校の雰囲気をぜひ見ていただきたい。



上/王子キャンパス。
右/1834年、順天中学校・高等学校の前身、順天堂塾を創立した和算研究者・福田理軒の名を冠した理軒館にあるラーニングcommons。グループ学習のための環境が整っている。
左/片倉 敦副校長。「英語をツールに世界と向き合える人を育てたい」



右/団地活性化のための写真展開催に協力。大学生との活動で刺激を受けた。
左/「寺子屋子ども食堂」とオンラインでつながる。



左下/時には子ども食堂の配膳をお手伝い。
下/カンボジアでの活動について話し合う。単語学習用のポスターも作製した。



Homepage



福祉と国際をテーマとした学びで世界で活躍できる人材を育てる

順天中学校・高等学校

from the School

英語科 藤井健太先生

たくさんのプロジェクトに挑戦して、やりたいことを見つけ、世界と視野を広げてほしい。



地域貢献活動で自分の可能性を知る

「国際教育」「福祉教育」「進学教育」の三つを教育の柱に掲げる。コロナ禍の2020年度は従来の豊富な海外プログラムから大きく方向転換。「近くでできること」の発想で、「福祉」と「国際」を合わせた多様な活動を展開し、生徒の学びと成長に大きな成果をもたらしている。

その一つが、高校のEクラス（英語選抜類型）で行っている英語探求授業だ。高校1・2年生が合同で5チームに分かれ、問題解決型かつ地域貢献型の学びを行う。例えば一つのチームは、オンラインでカンボジアの子供たちに英語を教える活動を展開した。

「文部科学省の『トビタテ！留学JAPAN』で、中学3年生でカンボジアに短期留学した女子生徒が中心となって活動しています。英語学習環境が整っていない現地の子供たちのために、単語学習用ポスターを作って送ったり、オンライン文化祭ではクラウドファンディングで寄付金を集めてプロジェクトを購入。現地に送り、生徒たちが動画でオンライン英語教育を行ったりしました」と、英語科の藤井健太先生。

また別のグループは、「寺子屋子ども食堂」活動を支援。手作りの英語教材も使い、高校生自らが先生役となった授業を子ども食堂にオンラインで配信。40人近い地域の子供たちの英語学習を手伝っている。

School Data

〒114-0022
東京都北区王子本町1-17-13
03-3908-2966
<https://www.juntten.ed.jp/>

- 創立 1834年
- 交通 ● JR京浜東北線、東京メトロ南北線「王子」駅から徒歩3分
- 東京さくらトラム(都電荒川線)「王子駅前」駅から徒歩3分

ほかにも、豊島五丁目団地活性化のために、東洋大学ライフデザイン学部と共同して団地をテーマに写真展を開いたグループなど、多様な活動を展開。今後も先輩から後輩へと継承して活動が続いていくという。

「一連の活動を通して、生徒たちのプレゼンテーション能力が飛躍的に向上しました。実生活で自分の英語が役立つ喜びや、学校で学んだことは社会に生かせるということを感じること、将来の進路を見いだす子も多くいます」

自ら考えて企画し、困難を克服しながら行動する経験は、新しい大学入試の方向性にも合致。目指す将来へと導く貴重な材料となるだろう。「オーストラリアの高校とオンラインでつながりSDGsについて考察する『グローバルスクールズ・チャレンジ』では部門賞を受賞しました。本校ではこのようなチャレンジの選択肢をたくさん用意しています。自ら選び一歩を踏み出してほしい」と片倉 敦副校長。やりたいことを追求しながら大きく成長できる学校だ。

コアネットの目 チャレンジする場を多く提供、社会貢献に取り組みる ▶「英知を持って国際社会で活躍できる人間を育成する」を教育理念としている同校では、中学生のときから福祉や国際社会についてのさまざまな情報に触れる機会が用意されている。そうした取り組みの結果、海外の子供たちへの英語学習支援等の国際・社会貢献活動につながっている。国際・社会貢献に挑戦したい受験生は、是非一度足を運んでみてはどうだろうか。

武南中学校・高等学校

Homepage



体験と英語発表で国際性を養い
次代のグローバルリーダーを育成



上/英語の学習を通してクリティカルシンキング(考える力)を向上させる「アカデミック英語コース」が、2020年度からスタートした。



左/メディアホールやラーニングcommons、メディアセンターなど、さまざまな学習スタイルに対応できる環境が整う。

from the School

中学校教務主任 津島亜沙子先生

合言葉は「笑顔で挑戦」。大変なことも笑顔で乗り越え、新しい扉を開く生徒を応援します。



米国の大学の講師に学ぶ 大学レベルの英語スキル

創立は1963年。一時期、中学の募集を停止していたが、創立50周年の2013年、新たに中学校を創立し、中高一貫コースを開校した。高校は、サッカー、陸上、水泳などで優秀な成績を収める学校としてもよく知られる。また、所在地の埼玉県蕨市が県最南部に位置することから、都内の中学出願者が多い学校でもある。

「世界に通用する確固たる人間性と知性の教育」を方針とし、力を入れているのは英語学習を中心とするグローバル教育。注目されるのは、昨年度に導入された「グローバルリーダー育成プログラム」である。

「このプログラムは『アカデミック英語コース』と『アジア・アメリカ研修』、そして『フィールドワーク』の3本柱で構成されています」と、中学校の教務主任の津島亜沙子先生が説明する。

「アカデミック英語とは、日常会話ではなく、大学レベルの英語力です。論文を読む、レポートを書く、ディスカッションやプレゼンテーションをするなど、海外大学で授業を受けるためのスキルを養うことを目的としています」

このコースでは、米国カリフォルニア大学デービス校から派遣された講師が授業を行い、高3までの6年間にわたり続けられる。「中3までに英語4技能を磨きます。

高校での海外留学や、海外大学への進学を希望する場合の素地づくりにもなります」と津島先生はいう。

世界の中の日本を知る アジア・アメリカ研修

「アカデミック英語コース」は週1時間だが、同校の英語学習全体の時間は多く、公立校の1・5倍にのぼる。また、生徒一人に一台、タブレットが配布されるなどICT環境も整い、授業に活用されている。英語でも、外国人教員と日本人教員のチームティーチングにICTが活躍。授業では英語で発言・発表する機会を増やし、スピーチコンテストを催すなど、さまざまな形で表現力を高める工夫をしている。

2本目の柱である海外研修は、アジアが中2、アメリカが高1で実施される。アジアはベトナムとカンボジア、アメリカはニューヨークとボストン。「単なる異文化体験ではなく、発展途上国と先進国、双方の実情に触れる」のが狙いだ。

「アジア研修では、現地では日本がどのような社会貢献をしているかを見学します。アメリカ研修でも、現地で活躍する日本人に話を聞く機会を設けています」

世界の中の日本、国際人とは何かを考えることに力点が置かれている。そして、帰国後は在校生や保護者に向けた成果発表会を、テーマごとに分けたプレゼン形式で開催する。

「これは、研修を受けた生徒たちの事後学習の一環ですが、次年に研修

三田国際学園 中学校・高等学校

Homepage



国際性と科学的思考を重視する
「世界標準」の教育的展開

すべての教科で実践する「相互通行型授業」。「君はどう思う？」という問い掛けから始まる探究学習だ。自由な発想と活発な議論で、教室に化学変化が起きる。



緑豊かで閑静な住宅地にあり、充実した学習環境が整う。

from the School

大橋清貫学園長

「発想の自由人たれ」が生徒たちへのメッセージ。一人ひとりの内にある創造性を大切にします。



導き出した結果はプレゼンテーションによって共有される。ICTを活用して魅力的な発表を行う。

開校6年で実証された 三田国際教育の成果

2015年、女子校を共学化して校名を改称。大胆な学校・教育改革を施して開校した三田国際学園。それから6年を経てこの春、第1期生が卒業を迎えた。

注目される合格実績（既卒生を含む）は、国公立大13名、早慶上理ICU 29名、GMARCH 60名。海外大も12名を数えた。

「海外大への進学はほぼ想定していた数字でしたが、全体では予想をはるかに上回る結果でした」と大橋清貫学園長。「本当によくがんばった」と1期生を称賛する。

成果の目覚ましい1期生のがんばりを支えた背景には、グローバル社会を見据えた「世界標準」の教育と、国際色豊かな校内環境がある。

「本校には常勤のネイティブスピーカーの教員が27人います。また本校で『国際生』と呼ぶ帰国生なども、毎年30人〜40人は入学しますから、日常的に英語を使う環境があります。それがひとつの特徴です」

もうひとつの特徴は、教員からのトリガークエストionに始まる授業だ。「教え込む」ことより「自ら考える」プロセスに重きを置く「相互通行型授業」を、同校は全教科で展開している。「もともとトリガークエストionを使うのは、最初のうちだけです。中1の後半になると、生徒たちは自分で問いや仮説を立て、それを調べるようになっていきま

す」と大橋学園長は言う。

そして、その批判的・創造的思考のプロセスをグループディスカッションやプレゼンテーションへとつないでいく。こうした自律的な学びの積み重ねが、予想以上の結果を生んだ。

3クラスの学びを再編し 新たなステップへ

英語教育とサイエンス教育に重点を置く同校は、2022年度から新しいクラス（中学）、コース（高校）編成をスタートさせる。

インターナショナル（IC）、インターナショナルサイエンス（ISC）、そしてメデイカルサイエンステクノロジー（MSTC）である。

開校以来、人気の高いICは、異文化理解と高いグローバル意識の醸成を主題としているが、その国際性が新編成でさらに強まる。

「現在、ICは中学で3分の1が国際生、3分の2が一般入試生ですが、その割合を逆転し、3分の2を国際生にします」とインターナショナル指導部長を兼務する楢島知哉教頭。

「生徒が、環境に応じて成長することがわかりましたので、ICを海外留学並みの環境にします」と言う。入学時に「イマージョン」と「アカデミー」にグループ分けし、前者は中3までに、段階的に主要科目の授業すべてをオールイングリッシュで行うことを目指す。後者は、入学当初より英・数・理・社のすべての授業が英語で受けられる。



帰国子女だけでなく、英語の学習歴がなくても入学できるインターナショナルクラスは、英語力に応じた2グループ編成。



「収集→分析→構築→表現」というサイクルから「基礎研究α」へと進むメディカルサイエンステクノロジークラス。



中1で探究の技法を習得し、中2と中3で「基礎ゼミナール」に取り組み、学園祭でプレゼンテーションやポスターセッションとして発表する。



理科教諭でMST部長の辻敏之先生。



英語科でインターナショナル指導部長の梶島知哉教頭。

学びの多様性が育む 創造性と発信力が光る

また、高校では今年度から、デュアルディプロマプログラムが開始されている。同校の卒業時に、西オーストラリア州の卒業資格も併せて取得できる。

ISCは、科学的な考察に基づく探究の技法を習得することに始まり、3年間で主体性・創造性を養う。併せて、副担任にネイティブスピーカーの教員を置き、国際生も受け入れ、習熟度別に英語の授業を行うなどして、英語力やグローバル感覚が日常的に磨かれる環境をつくる。

中2から中3の「基礎ゼミナール」は、ISCの大きな魅力。興味あるテーマを自ら選び、調査や実験、フィールドワークなどを行い、論文作成と発表をゴールとする。大学のゼミと同様の学びを中学で体験する。

MSTCは、医療従事者や研究者を志す生徒を対象で、中2からスタート。中1の1年間はISCの国際性豊かな環境で学びながら、研究スキルの基礎を習得する。

「本校には理系志望の生徒が多いので、研究的な素養と国際性を、初期の段階から身に付けられるようにするのが狙いです」とMST部長の辻敏之先生。そして「MSTCの『基礎研究α』では、個々にテーマを設定して実践的な研究活動に入っていく」という。担当教員や先輩らとも議論を重ね、サイエンスリテラシーを磨き上げるのだ。

どのクラスでも、中学で自分に課した課題を高校まで持ち越し、探究する生徒が多い。その成果は、校外のコンテストや発表会などで受けてきた評価によく表れている。

高校生対象のものばかりではなく、一般参加のコンクールでの表彰実績も少なくない。ある高校生の研究は、在学中に企業から研究助成を受けたという。映画祭のグランプリ、ポッドダンスや吹奏楽など、学術以外での受賞もある。

「好きなことに打ち込む姿勢と、その発信力がきちんと養われた証だとみています」と大橋学園長は言う。今回の改編は、インターナショナル、MST、本科という従来の3クラスの特色を相互に移植し合う形。

同校が大切にしている「国際性」とサイエンス」を軸として、教育環境の質をさらに高めようというのだ。多様な生徒と多様な学び、そのなかで起こる化学反応により、発揮される生徒たちの創造性。同校はそこに大きな可能性を見ている。

School Data

〒158-0097
東京都世田谷区用賀2-16-1
☎03-3707-5676
<http://www.mita-is.ed.jp/>
●創立 1902年
●交通 東急田園都市線「用賀」駅から徒歩5分

コアネットの目

自由な発想を持ち、挑戦をやめない三田国際学園生の底力▶1期生が大学合格実績でも躍進した。ただ、三田国際学園の6年間で培われる力は学力にとどまらない。コロナ禍で従来通りの形式での開催を断念せざるを得なかった音楽祭は、実行委員の生徒たちの力によって、リモート形式で実施。それは音楽番組しながらだったという。三田国際で育まれる力は、さまざまな場面で大きく花開いている。

山手学院中学校・高等学校

創立時から続く国際交流教育が
将来を考える力を育てる



創立時から続く国際交流教育が
将来を考える力を育てる



中3全員参加の1週間のオーストラリアホームステイ。ホームステイしながら、クイーンズランド州教育省が認めた現地校で交流を行う。



「グローバルリーダープログラム」のポストン研修では、英語でプログラミングを学び、アントレプレナーシップに基づいた授業を受ける。



高2の「北米研修プログラム」では7~8の地域に分かれてアメリカとカナダに出かける。同世代の若者との交流は忘れられない経験になる。



北米研修の3カ月後、リターンビジットで今度はステイ先の町から高校生が来日する。

from the School

国際交流部部长 永野浩樹先生

「国際交流プログラム」と「グローバルリーダープログラム」の両輪で、真の国際人を育てたい。



ホームステイで考える 真のコミュニケーション

鎌倉の山々や富士山が一望できる緑豊かな丘に立つ山手学院中学校・高等学校。6万㎡のキャンパスに校舎や運動施設がゆったりと配置され、豊かな学習環境をつくっている。

教育の大きな柱に掲げているのが国際交流だ。中3では全員がオーストラリアホームステイを体験。クイーンズランド州教育省とプログラムを組み、ホームステイしながらテクノロジーや農業など特色ある10の現地校で交流と学びを深める。

高2全員参加で行われる「北米研修プログラム」は、1969年から続けられているという山手学院ならではのプログラムだ。北米各地に分かれて2週間ホームステイをし、現地の学校の行事に参加する。そして、その3カ月後にはホームステイ先の生徒が来日し、山手生の家庭に滞在するのだ(リターンビジット)。特筆すべきは、現地の学校との交渉からプログラムづくりまで、教員が北米に出向いて交渉するオリジナルプログラムだということだ。訪れる学校は2019年を例にとるとアメリカ3校、カナダ4校で、小さな町に毎年訪れる場合もあり、現地と深い絆が生まれているという。

プログラムの意義を、国際交流部部長の永野浩樹先生はこう語る。「現地の家庭にどっぷりとつかって真のコミュニケーションをとれるのはホームステイならではです。高2

というある程度の経験値や思考力が身に付いてから海外に赴き、家族の一員として過ごす。そして、英語で話す楽しさと伝わらない悔しさを抱えて帰ってきます。3カ月後のリターンビジットに向けて学習意欲を高めますが、やはり思ったようには伝えられずにもどかしさを味わう。この経験を通して、英語に取り組む姿勢や日本文化を伝えることの大切さを再認識するのです」

加えて大きいのが将来を考える力が付くことだという。目先の受験だけでなく、何事にも自発的に取り組む力が育つのだ。

昨年から始めた「グローバルリーダープログラム」も国際教育の一環だ。アントレプレナーシップやSDGs、ウェブプログラミング、哲学対話などをピックアップし、中3と高1を対象に土曜講座として非認知能力と学ぶ姿勢を養う。

創立以来続けられてきた伝統ある国際教育は、世界へ羽ばたく生徒たちを力強く支えてくれることだろう。

School Data

〒247-0013 神奈川県横浜市栄区上郷町460
☎045-891-2111
https://www.yamate-gakuin.ac.jp/

- 創立 1966年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「港南台」駅から徒歩12分
- 横浜市営バス45、111系統ほか「横浜女子短期大学前」下車、徒歩4分
- 神奈川中央交通バス大船～金沢八景線ほか「山手学院入口」下車すぐ

20年後の世界で求められる資質・能力を育成するGLPが充実 ▶ 2021入試にて神奈川県で最も中学受験生を集めた。昨年はコロナ禍において、50年実施してきた「北米研修プログラム」が中止になったものの、GLP(グローバルリーダープログラム)が充実。プロジェクトチームで正解のない課題に挑戦したり、SDGsを学び英語でディスカッションするなど、山手学院の学びは進化し続けている。



松蔭中学校・高等学校

「英語の松蔭」の原点に回帰した セミナー・インターナショナルスクール



中1からプレゼンの機会が多く、パワーポイントを使って自分で制作する。休校中にはオンラインプレゼンも実施した。校外学習の内容も生徒が話し合っって企画をまとめ上げる。



制服に憧れて入学する生徒も多い。特に爽やかな夏服は人気がある。

右／毎週土曜は、聖ミカエル国際学校との連携授業をオールイングリッシュで行う。

下／世界中の英語話者とオンラインで会話をする授業。多様な文化・価値観に触れる機会としても活用している。



from the School

浅井宣光校長

“Open Heart, Open Mind”。
勇気と知恵を備え、たくましく
生きる女性を育てます。



将来につながる 「使える英語」を育成

1892年の設立以来、キリスト教主義に基づく女子教育で、人間力と英語力の強化を進めてきた松蔭中学校・高等学校。昨年から導入した新ストリーム制は、英語初心者向けの「デイベロブメンタル・ストリーム(DS)」と、インターナショナルスクールと日本の学校の良さを融合した「セミナー・インターナショナルスクール」ともいえるべき「グローバル・ストリーム(GS)」。

浅井宣光校長曰く「これは鍛えようとする能力の差で、1年を経て互いに刺激を受け合う関係もできました」。

DSは従来の松蔭の英語教育を学び、「国語探求」という授業で読解力・語彙力・表現力など国語力を高めていく。

GSではネイティブ教員による授業はもちろん、目を引くのが週5回、毎日実施されるオンライン英会話「ICT English」だ。コミュニケーション力を高め、探究力を身に付けるプロジェクト形式。ここでは世界各国の人とオンラインでつながり、例えば「王子動物園前にあるコンビニは24時間営業にすべきか」といった設定の下、質問する。これをもとに中1からゼミ形式で議論、レポート作成、発表などを毎週展開。中3になるとジェンダーや安全保障などもテーマとして扱い、グローバルな視点加わる。こうして生徒たちは、「使える」英語の習得とともに、多

様な文化や価値観も学んでいく。また土曜には聖ミカエル国際学校による英語イマージョン教育も行う。

休校期間中はオンラインで授業やGL(グローバルリーダー)探究に取り組んだ。1年を振り返り、生徒からは「英語を話すことに慣れた」「PCスキルが上がった」という声がかかれた。「意識しているのはクリエイティブティをどう育てていくか」と、GS主任の篠原弘樹先生は語る。これはベースとなる知識がなければ難しい。また英語力を高めるためには、国語力が欠かせない。そのため「朝の音読」では時事ニュースを読んで語彙を増やし、小説を読んで感性にまつわる表現を得るようにしている。

ほかにも「市販の防災バッグの中に何を加えるか」を考えるといった授業も。これは神戸の震災学習でもあり、販売元企業からのフィードバックをもらうことで、社会とのつながりを持たせる。

二つのストリームのアプローチは違っても、ゴールは同じ。それは「自信を持って、社会貢献できる女性」を育てること。6年間の学びで彼女たちは自分の未来を美しく描き出す。

School Data

〒657-0805
兵庫県神戸市灘区青谷町3-4-47
☎078-861-1105
http://www.shoin-jhs.ac.jp/

- 創立 1892年
- 交通 ● 阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩15分
- JR神戸線「灘」駅から徒歩18分
- 阪神本線「岩屋」駅から徒歩20分

コアネットの目

2つのストリームで看板の「英語教育」がさらに充実 ▶ キリスト教主義に基づく人間教育と英語教育を柱とする同校は、神戸では誰もが知る伝統ある女子校。2つのストリームの学びは常に生徒たちの向学心を刺激し、コミュニケーション力と探究力を培う。「使える英語」を身にまとった卒業生の活躍が今から楽しみだ。



デジタルテクノロジーが これまでの教育を解体・再編していく

小学校でプログラミングが必修化され、

教育の現場でデジタルテクノロジーの大きな変革が進み始めています。

サイエンス作家の竹内薫さんは、日本語、英語とプログラミング言語の

「トライリンガル教育」を打ち出し、自ら学校を創設しました。

これからの子供たちに必要なのは、クリエイティブなプログラミングだと語る竹内さん。

コアネット教育総合研究所でEDUのCTO導入活用支援などを担当する

岡田育也さんが、お話を伺いました。

これからの時代に必要な 三つの言語で学ぶ

岡田 今日はまず竹内さんが開校された「YES International School Trilingual Kids」(以下、YES)で、小学校中・高学年の英語によるプログラミング授業を見学させていただきました。プログラミングを英語で教えるイマージョン教育も印象的でしたし、内容も発展的だと感じました。

竹内 今日の授業は、ブレンドラーという3DCGのソフトを使ってみる内容で、新学期初日だったため、子供たちに質問して前学期の復習をする形でした。この先生は実用的なことを教えてくれる方です。私は数学とプログラミングを融合させたような授業をしますし、ほかの先生はプログラミング言語としてパイソンを教えます。低学年はスクラッチから、コーディングは5年生から始めます。

岡田 率直に言って、公立では今日のような授業を展開するための環境、人材が不足しています。そこが課題であるわけですが、その点はどうとらえていますか。

竹内 うちの場合、プログラミングの授業は週4回ありますが、教員は基本的にIT技術者出身です。私はプログラミングはSE、プログラマーだった人が教えるべきだと考えていて、おそらく日本の公立学校などもそうしないと無理ではないでしょうか。引退したIT技術者の中には教えたいと希望する人もいるはずなので、その方たちが教員免許がないために教えられないのはどうなのか、と思います。

岡田 そうですね。私学の場合は、第一線で活躍されたエンジニアやスーパーコンピュータの開発者などを招いて特別授業をするなど、特別な人材

を活用する学校もありますが、従来の学校の枠の中では難しい課題です。

そもそもYESは、日本語と英語、プログラミングをこれからの時代に必要な三つの言語として位置付け、「トライリンガル教育」を打ち出した新しい形の学校です。今、なぜこの3言語を重視するのか、あらためて伺わせてください。

竹内 前提としてあるのは「第4次産業革命」です。今の子供たちは、AIと共存する未来を生き抜いていかなければなりません。そのためにはAIを使いこなし、AIの及ばない分野、人間だけに可能なクリエイティブな仕事ができるようになる必要があります。

その基礎となるのが、日本で育つ多くの子供たちが思考に使う日本語と、AIの仕組みを理解するためのプログラミング、それもクリエイティブなプログラミングです。しかも、クリエイティブなプログラミングができるようになるかどうかの差は数学力ですから、数学と融合させて学ぶ……というよりプログラミングというのは、数学という理系の世界共通言語を学ぶことでもあるのです。そして英語は、世界共通言語の一つとしてとても重要です。また、プログラミングの土台にもなっていますので、英語でプログラミングを学ぶことは理にかなっています。しかし、この三つの言語を小学校からカリキュラムに組み込んでいる学校はどこにもなかったたので、自分でつくりました。

自分で取りに行った知識は定着する

岡田 今日、授業を拝見していて、対話を重視されているなど強く感じました。プログラミングというのと、どうしてもツールの使い方などを教えることに終始しがちな学校が多いように思いますが、

ツールを使用して「何をやるのか」を重視されている印象です。

竹内 そこがまさに一番大切な点です。クリエイティブを育てるためには、受け身の暗記型学習ではダメで、覚えなければいけないことを自分で探すことから始まります。課題や疑問を自分で設定し、解決を目指すプロジェクト型、探究型の授業が、私たちの学校の基本です。

岡田 どの教科でもそうなんですね。

竹内 そうです。たとえば社会科の授業でも「みんなで地球温暖化について考えよう」「人種差別について考えよう」などテーマを設定して、その問題に関する歴史や理科などを含めた情報を取りに行き、みんなでディスカッションし、自分なりの考えをまとめて発表する。そこまでが一つのセットです。

プロジェクトを通じて、知識はどんどん入ってきます。だから、教科書どおりに教える必要はなくて、学習指導要領に記された教育内容や目標は教員が知っていればいい。教科書のままに授業をつくらず、小学校6年間のうちに、いろいろなプロジェクトを通じて習得させていけばいい。それをどうやるのが、教員の腕の見せどころだと思います。

もちろんこの方法では教科書的な基本の知識を網羅しきれず、欠けていく部分があるかもしれませんが、

せん。でも、全部網羅することに意味があるのか？とも思うのです。授業で習い、暗記してテストで

答えが書けても、その知識をいつまで覚えているのか疑問です。しかし、自分で取りに行った知識は定着します。多少欠ける部分があっても、自分の中にずっと残って使える知識があるほうが、クリエイティブな発想につながります。なにより、探究型授業のほうの子供たちは楽しみます。楽しくやったものしか残らないというのが、私の根本的な考え方です。

岡田 たしかにそうですね。探究型授業を体系的に整理できていない学級があると思いますが、これからはICT教材を活用するなどして、プロジェクト型、教科横断型の学びを進める方向にいくでしょう。EdTechはそこを補うものにもなるかもしれません。

竹内 教育関係者の中にもわかっている方はいると思います。

ベストワンではなくオンリーワンを目指す

岡田 私学は変化への対応も早く、EdTechの活用に意欲的ですし、入試においても従来の暗記型ではなく、英語入試も含め、さまざまな形で生徒たちの能力、可能性を判断しようとしています。竹内さんは、今後の社会において必要な資質能力

はどのようにお考えですか？

竹内 基本的には、オンリーワンになるというところ。これまでの社会で人はベストワンを目指してきたけれど、ベストワンというのは、



竹内 薫さん
Takeuchi Kaoru

YESインターナショナルスクール
校長

1960年東京都生まれ。サイエンス作家。理学博士。東京大学教養学部、同理学部を卒業。カナダ・マギル大学大学院博士課程修了(高エネルギー物理学専攻)。科学や数学の案内人として活躍。主な著書に「99・9%は仮説」「数学×思考=ざっくりと」など。2016年、自身の子供を学ばせる学校をつくりたいと、横浜市に「YESインターナショナルスクール」を開校、校長を務める。



小学生にタイピングに慣れさせる時間を取っている(YESにて)。

数値化による選別の結果でしょう。その時代は終わったし、数値自体が幻想だと思います。実際に社会で活躍している人たちはみんなクリエイティブだし、オンリーワンで生きています。

岡田 数値化される基軸よりも、日々の仕事の中で課題を見つけて解決していける人、新しい価値を見いだす発想を持てる人ということですね。クリエイティブを育てるために、保護者の方や学校関係者へお伝えすることはありますか。

竹内 子供たちには遊びが足りていないと思います。

岡田 先ほどの授業や子供たちの様子を見てみると、プログラミングも楽しんでいてという感覚がしました。

竹内 そう、遊びですね。楽しいからやっているのであって、子供たちはなにも将来に役に立つからプログラミングをやっているわけではありません。

遊びといえば、私はルービックキューブが好きで、子供たちとも遊ぶのですが、あれは実はアルゴリズムを覚える遊びです。でも子供たちはアルゴリズムとか数学だとは思っていない。私が一番簡単な方法でまず完成させてみせ、あとは子供たちが自分たちでいじくっていきます。そこで僕が間違えて、「こういう動きを120回やると元に戻るよ」と伝えると、次の週に子供たちが、「先生、ずっと教えてやってみたら、126回でした」と告げに来る。その発見が遊びです。ルービックキューブが揃うパターンは何種類あるか？ という疑問も出てきて、「それを計算するプログラミングがあるよ」と言うと、子供たちは驚いて興味を持ちます。

岡田 子供たちに教える人は、プログラミングも数学も楽しめる人がいいですね。

竹内 教える側が、数学が楽しいという感覚を持っていることは大事ですね。

岡田 今日のコンピュータグラフィックスの授業でも、子供たちは立体イラストが変形していく様子を面白がりながら、X軸、Y軸の概念を無理なくつかんでいる気がしました。



岡田育也さん
Okada Ikuya

コアネット教育総合研究所
新教育推進室プロジェクトリーダー
EdTech推進・導入サポートを担当

竹内 そうなんです。教科書的に言えば、それは算数ではなく数学の範囲になるわけですが、そんな区分は子供たちの学びに関係ありません。

ネットのリスクと アウトドア教育の関係

岡田 一方で、EdTechが進むと、子供が早くからインターネットを利用することになるので、不安だという保護者の方も少なくありません。

竹内 大人がアクセス制限をかけて、きちんと管理・運用しなければいけないことは間違いありません。しかし、子供がどんな情報に触れるかなど、完全にコントロールすることはできないし、多少の危険・失敗を体験させることも大事だと、個人的には思います。

岡田 リスクに触れさせながら、事故にならないようにさせるバランスですね。

竹内 それはネット環境に限らないことで、実はうちの学校がもう一つ力を入れていることに、アウトドア教育があります。死にもつながりかねない自然の中の危険を学ぶことは重要です。安全なことばかりやっていたら、いざというときに命を落としてしまうかもしれない。死なないためにはどうするかというサバイバル術は、ネット教育にも通じるものがあります。

岡田 なるほど、ネットワークの大海に出るという意味では、まさにコンピュータの世界はアウトドアなんです。

竹内 そうです、やってみないとわからないからやらせないとも始まらないということですね。

岡田 未来を生きる子供たちにとって、プログラミングは必要不可欠。これからはその中身を見極める時代になる。今日のお話でそう実感しました。ありがとうございました。

城北中学校・高等学校



ICT教育の環境を整備
創造性を養う学びを中学生から



大型モニターやプロジェクター、移動式の小型ホワイトボードなどが完備された「iRoom」。アクティブラーニングやグループワークを行う環境が整う。



例年6月に行われる体育祭。棒倒しや騎馬戦、綱引き、リレーなど迫力のある競技で競う。



上／全教室に65インチの電子黒板を設置。ICTを活用した授業が行われている。

from the School

清水 団教頭

生徒にも教員にも「これをしてはダメ」という制約があまりない学校です。



左／広報企画部長の坂内浩之先生。

中3の研修旅行プラン企画・プレゼン大会の様子。ICT機器を使いこなし、英語でプレゼンを行うグループが多数あった。



自己実現を楽しむ感性をICTの活用で育む

教育目標に「人間形成と大学進学」を掲げる城北中学校・高等学校。世の中の大学進学率がまだ低かった昭和初期、上級校への進学支援を目的として創立された。その精神は今日も引き継がれて、生徒数が2000人に及ぶ大規模な男子校だが、進学に向けた丁寧な学習指導には定評がある。

「一方、人として大きく成長する礎として大切にしているのが『自立と自律』です」と語るのは今年度、教頭に就任した清水 団先生。

「精神的な自立性が高いと、進学や将来に備え、何をすべきか自分で考えられるようになります」と言う。

生徒の発意、自主性を重んじる同校では、その下支えとして2016年から3カ年計画でICT環境の整備を図った。iPadの導入、校内のWiFi化、そしてICTを活用するアクティブラーニングの専用教室「iRoom」も設備した。iPadは、WiFi環境がなくてもインターネットに接続できるセルラタイプを採用。「WiFiのダウンで授業が止まるような状況は、絶対に避けたいからです」と清水教頭。この選択は、くしくも昨年のコロナ禍の休校時に功を奏した。WiFi環境やデバイスの整っていない家庭に学校のiPadを貸し出すことで、全生徒に対してオンライン授業を実施できたのだ。

教育現場でのICT活用には、より綿密な個別指導を可能にするメリットがある。だが、同校はそれよりも学習への動機付けやクリエイティブティを養うためのツールとしてこれに着目している。

「従来『こうした方がいいけど、難しいかな』と手控えていたことが、ICTの活用で可能になる。そういう例はたくさんあります。『ICTでこれができる』という体験から『ならばこれも実現できるだろう』と発想を広げることや、それに取り組むワクワク感を醸成することが、ICT活用の方向性として大切な視点だと思っています」と清水教頭は言う。

例えばコロナ禍の昨年、中3の研修旅行が延期され、生徒主体でコースプランをつくり替えることになった。3〜4人の班ごとに作業しながら「休み中もオンライン用のスライド作りに励んでいた」と話してくれたのは、広報企画部長の坂内浩之先生。「できるかな?」から「できる!」が前提となる学びへ。やりたいことを実現していく楽しさを育む——それが同校の教育姿勢だ。

School Data

〒174-8711

東京都板橋区東新町2-28-1

☎03-3956-3157

https://www.johoku.ac.jp

●創立 1941年

●交通

- 東武東上線「上板橋」駅から徒歩約10分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅から徒歩約20分

コアネットの目

生徒のクリエイティビティを尊重してくれる、自由で伸び伸びとした校風▶大学進学を前提として高い目標を持ちながら過ごす学校生活。しかし、校風は自由で伸び伸びとしており、個性を重んじてくれる。だからこそ、生徒たちは自分のやりたいことを実現でき、それを先生方が丁寧にフォローしてくれる、そんな成長の場が整っている。

瀧野川女子学園中学高等学校

Homepage



伝統女子校がICT教育校へ
創造性と起業家精神を養う学び



教室にはHDディスプレイに加え、2枚の大型4KHDRディスプレイと壁一面のホワイトボードが備わっている。

2019~2021年 大学合格実績

- 筑波大学
- 埼玉大学
- 宇都宮大学
- 上智大学
- 東京女子医科大学(医学部)
- 東京理科大学
- 東京薬科大学(薬学部)
- 学習院大学
- 法政大学
- 東京女子大学
- 日本女子大学 など

from the School

山口龍介副校長

体験を通した学びで、学校の勉強が社会でどう役立つのか実感することを大切にしています。



生徒が望む人生のために
教育をアップデート

北区滝野川に瀧野川女子学園中学高等学校の前身、瀧野川実科女学校が創設されたのは、関東大震災からわずか3年後の1926(大正15)年のこと。創設者山口さとはは元小学校教員で5人の子を持つ37歳の女性だった。復興特需の中、宿願をかなえる好機を見だし、資本家でもない一人の主婦が、自宅の2階で開学したのが始まりだ。

「その起業家精神は、当校にずっと受け継がれており、女性が望む人生を歩むために学校はどんなことができるのかを考え続けています。さらには、その精神を現代に適合させるとどんな教育になるのか、そこを突き詰めて、この10年、学校改革を進めてきました」と言うのは、創設者の曾孫にあたる山口龍介副校長。

改革の核となったのは、最先端ICT教育の導入だ。東京工業大学大学院でロボット工学を研究していた山口副校長にとつて、テクノロジーで教育をアップデートしていくのは自明の理であったという。そして今、同校のICT教育は、建学の精神に基づいた独自の展開を見せている。

何歩も先を行く
ICT化のメリットとは

現在、同校では全普通教室に大型ディスプレイ3台を設置。全教員・生徒に配布されたタブレットをベースに授業が行われている。生徒は、

教員があらかじめクラウドに上げているドキュメントで予習し、授業の冒頭でその確認を行う。あとの時間は問題演習などにとっぷり使う。たとえば数学の演習では、生徒がタブレット上にタッチペンで書いた立式の過程を教師が確認し、「おもしろい解法を考えている人がいるよ、説明してもらおう」とディスプレイに映して共有したり、ここが難しいという部分をグループで活発に話し合ったり。演習部分を個別の宿題にするのではなく、双方向的な授業の中心に据えることで格段に理解が進み、進度も速くなるという。

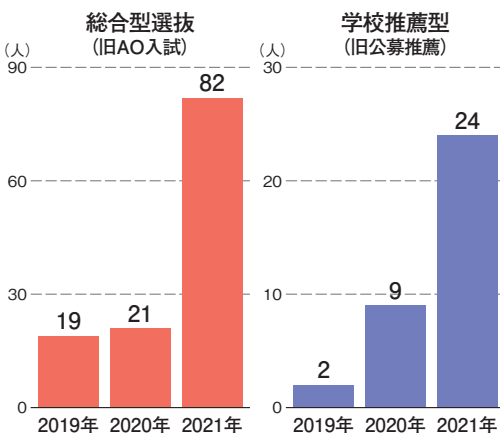
「こうしたICT活用授業は、実科女学校からの伝統で、本校の授業がもともと演習・実習を重要視してきたからこそスムーズに実現できたのです」と山口副校長。

社会科学ではビジネスアプリや画像・動画素材を使ってディスカッションし、英語科では、英語で話す・書くの時間が増加。確実に英語力アップにつながっている。

また、この授業形態は生徒の到達度が細かく見えるので、今年から中間試験を廃止した。試験準備や答案返却に使っている時間を通常授業に使いたいという方向性は、極めて合理的といえるだろう。

「創造性教育」「ゼミ制度」
独自の教育が光る

同校の独自性が表れているカリキュラムはまだある。中1〜高2で必修の「情報」(週1)と6年間必修の





日本人教員4人、ネイティブ教員7人がチームを組んで、英語4技能を育む。



「事業化実習」で作った商品を文化祭で販売。出資金を出し合って会社を設立、商品を作って販売。収支決算も行う授業から得るものは大きい。



上/理想の街を創る授業では、チームで話し合い、フィールドワークを行って、思いを形にしていく。



左/「創造性教育」で製作したロボットでロボットグランプリに出場。

より実社会に近づくのは、高2の「事業化実習」だ。15人ほどのチームに分かれ、出資金を出し合って模倣株式会社を設立。学園祭への出店とハワイ大学でのチャリティバザーに向けてオリジナル商品を製作。価格を決めて販売し、収支決算をまとめる。最後に行われる学年発表会は株主総会さながらだという。

もう一つ同校の特色としてあげられるのが、ICT化でカリキュラム

総合型選抜の大学入試で合格者が約4倍に

製作で競うのも貴重な経験だ。

目指すはロボットグランプリ(日本機械学会主催)の大道芸ロボット競技部門だ。人を楽しませたかどうかで評価されるエンターテインメントロボット作りの部門で、女子ならではのアイデアで、大学生とロボット製作で競うのも貴重な経験だ。

さらに、世の中に新しい商品や仕事を皆と生み出す方法を学ぶ授業が「創造性教育」だ。「プレゼンして終わりの、頭の中やネット空間での創造ではなく、仲間と一緒に現実社会に向き合い、手を使って試行錯誤しながら考え、社会に新しい何かを創り出す授業です。学年ごとに異なるテーマに挑戦して、中2ではロボットを作ります」

「創造性教育」(週1、高2は週2)だ。「情報」の授業では、プログラミングを中心とした情報技術を中心にから実習し、ゲームプログラミング、プレゼンやCMなど動画に挑戦、成果物を作っていく。

に余裕ができたことにより導入された「ゼミ制度」だ。学習指導要領を超えて、受験科目に直結する講座をはじめ、大学レベルの文学、歴史、芸術、語学など、30以上のゼミが揃い、教職員や外部講師が担当する。そこで深掘りした学びが推薦入試、総合型入試で生きてくるのは間違いない。大学入試でいえば、推薦・総合型選抜に比重が移っている現状があり、実際、総合型選抜では前年比約4倍の合格実績を上げている。

生徒たちは、6年間の学校生活を通じて自ずと自分のキャリア、人生について思考し、学部・学科も前向きに選択するという。「本校の生徒はおとなしい子も活発な子もいろいろいますが、それぞれの良い部分をさらに引き出す学校です。生徒一人ひとりが自分の望む人生をつかみ取れるように、未知の事柄にも先生と生徒と一緒に喜々として挑戦する。それが私たちの学校です」と言う山口副校長の言葉に力がこもっている。これからの飛躍が期待できる学校だ。

School Data

〒114-0016
東京都北区上中里1-27-7
☎03-3910-6315
<https://www.takinogawa.ed.jp>

- 創立 1926年
- 交通 ● JR京浜東北線「上中里」駅から徒歩2分
- 東京メトロ南北線「西ヶ原」駅から徒歩8分
- JR山手線・東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩12分

コアネットの目

実社会で活躍する力を育む、工夫を凝らした学びが光るICT化先進校▶2010年から「教育のICT化」に着手した同校は、そのメリットが隅々まで浸透した授業スタイルが魅力だ。先進的なICT化は、学びの「質」と「量」を大きく変化させ、大学合格実績にも良い影響をもたらしている。工夫を凝らした体験学習で独自性が光る「創造性教育」は、新しい価値を生み出すことが求められるこれからの時代にふさわしい教育として期待が持てる。

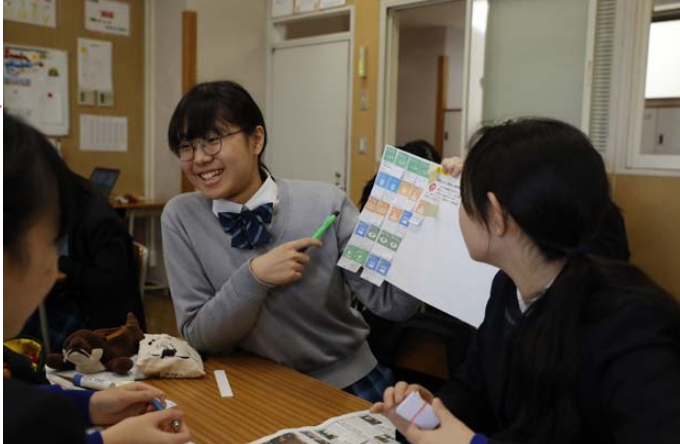
和洋九段女子中学校高等学校

Homepage



オンライン授業で飛躍を遂げた PBL型授業の取り組み

自由な発想を育むPBL型の双方向対話型授業を、全教科で実践している。コロナ禍でもZoomを利用して実施。主体的に学ぶ姿勢を育む。



左／全生徒がiPadを持ち、情報収集やプレゼンテーションの資料作りなど、あらゆる場面でICT教育が展開されている。
下／茶道や華道などを学び、日本の伝統文化を体験する。



PBL型の双方向対話型授業が行われている、壁面すべてがホワイトボードのフューチャールーム。2019年から「PBL型入試」を導入。



from the School

中込 真校長

問題解決を人任せにせず、何にも隷属しない自立心を本校で培ってほしいです。



コロナ禍でも成果続々！ オンライン文化祭も開催

創立120余年。女子教育の伝統校としての精神を大切にしつつ、グローバル教育を推進し、ICT教育にもいち早く取り組んできた和洋九段女子中学校高等学校。
昨年度は4月早々に中高の全授業オンライン化を実現する、鮮やかな対応を見せた。中込 真校長が次のように振り返る。

「全生徒へのタブレット端末配布が直前に完了したところでした。オンライン向きの題材を選ぶなど、各教科の先生方が工夫を凝らして授業を行うことができました。オンライン化によって、通学時間を勉強に使えるメリットも大きく、ぐーんと伸びた子もいます」

和洋九段の大きな特色の一つに、全教科でのPBL型（課題解決型）授業がある。「なぜ?」「どうして?」と問いを設定し、個人で思考し、それをグループで議論。最終的にグループの考えをまとめ、プレゼンテーションして検証する双方向対話型の学びだが、コロナ禍でどのように指導を行ったのだろうか。

「Zoomの会議室機能を活用すれば、グループでの議論もできます。PBLに不慣れた新入生には、PBL型入試で入ってきた子たちがリーダーシップを発揮し、議論を牽引してくれました。また、Zoomで担任との個別面談の時間を頻繁に設けたことで、教員と生徒の関係が

緊密になりました。オンラインを活用することで、誰ひとり取り残さないという本校の考えが具現化され、保護者へのアンケートでも好評でした」

昨年10月には、生徒の強い要望を受け、オンライン文化祭も開催した。高校生が司会進行役を務める、海外青年協力隊員による講演や、農業体験プログラムの実施先との「地方再生」をめぐる討論会などを実施。また、自由なテーマで制作に取り組んだ動画上映は140本にも及び、大盛況のうちに幕を閉じた。

ほかにも、中1のグローバルクラスに生徒が、オーストラリアの姉妹校の授業にZoomで参加したり、生徒主体で企画する、オンラインによる他校・大学・企業とのセッションワークなども次々と実現した。ピンチをチャンスに！コロナ禍にも負けない、女性が持つしなやかな強さを引き出し、伸ばす。女子教育の伝統校ならではの底力だ。

School Data

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-12-12
☎03-3262-4161
<https://www.wayokudan.ed.jp/>
●創立 1897年
●交通 ●東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約3分
●JR総武線「飯田橋」駅から徒歩約8分
●東京メトロ有楽町線・南北線・都営大江戸線「飯田橋」駅から徒歩約8分

コアネットの目 他人に判断を任せない、自立した人間を目指す▶生徒に自立のための知識を学んでもらうことを目的として、企業などとのコラボを実施している。近隣にあるグローバル企業の本社、NPO法人などに生徒が個人やグループで赴き、コラボについて交渉する。この訪問を通して、学校だけでは得られない知識を習得している。また、学校の近くには大使館が多いこともあり、グローバル教育の第一歩として訪問を行っている。



神奈川大学附属中・高等学校

充実したICT教育環境を土台に
学び続ける楽しさを知る6年間



上/先進的なICT教育で知られる。キーボードが着脱式のタブレットPCはSurface Goを使用。
左/高大連携授業のクラゲの遺伝子組み換え実験の様子。神奈川大学教授による専門性が深まる学び。



高台にあるキャンパスは緑に囲まれた自然豊かな環境だ。



全国中学高校Webコンテストには毎年参加。1998年から23年連続受賞している。好きなことをとことん突き詰める校風がある。



英語ではeラーニングシステム College Pathwayを使って語彙力、構文力、表現力、リスニング力を付けていく。

from the School

小林道夫副校長

情報教育の遅れは生徒の将来に大きく影響しますので、強い責任感を持って進めています。



突然の休校でも 即日オンライン授業が可能

生徒の9割は他大を受験する進学校として知られる神奈川大学附属中・高等学校。ICT教育の先進校でもあり、昨年は新型コロナウイルスによる一斉休校時に即日オンラインに切り替えた学校として注目された。

小林道夫副校長は、情報教育のカリキュラムを一から構築し、その実践・研究を学外にも発信してきたパイオニアだ。「初期の情報教育はネット環境もなく、使えるソフトもないのでプログラミングを教えるしかなかったのです」と小林副校長。中3でプログラミング授業(センサーロボットの制御)を定着させたのは1989年のことだ。

現在は中1・2で基礎(セキュリティ・情報モラル・タイピング技術など)を固め、学年が上がるにしたがってコンピュータの本質を理解し、課題解決に導く独自の情報教育を展開している。「得意な生徒だけがスキルを身に付けるのではなく、すべての生徒が一定水準に到達することを目指しています」

一方、学校全体のICT化は校内LANを整備した2000年以降、教務のICT化と教員研修から始まった。生徒へのタブレットPC配布は、先行している学校の活用事例を検討した後に2018年からスタートした。ICTありきではなく、手段としてどう活用するか、全員にメリットがある方法は何かを重視する導入

ロードマップを描いてきたのだ。

現在、教育活動はすべてクラウド上で管理し、使用している主なアプリは「Microsoft 365」Classi、ロイロノート、スタディサプリ、College Pathwayなど。あらかじめ教材や課題を配信しておく反転授業が基本で、急に休校になっても翌日から「いつもの授業」が続けられる体制が整っている。昨年の休校中は映像教材が増産され、各教員が持っているチャンネルに計3500本もの動画が上がったという。また、生徒とのコミュニケーションもClassiなどを使うことでより濃密に。「一人ひとりに適した声かけができ、情報を教員間で共有できることは大きなメリットです」と小林副校長。

学ぶ意欲を刺激し、学ぶ楽しさを知ってほしい。その効果は模試の結果にも如実に表れ、難関大進学実績も上向いている。同時に海外協定大学推薦制度(UPA)を利用した海外大進学も増加(例年10名前後)。ICT教育が英語力強化、進路選択の多様さにも確実につながっている。

School Data

〒226-0014
神奈川県横浜市緑区台村町800
☎045-934-6211
http://www.fhs.kanagawa-u.ac.jp/

- 創立 1984年
- 交通 ● JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から徒歩15分
- 横浜市営バス240系統・相鉄バス旭15「森の台小学校入口」下車、徒歩3分

コアネットの目

どんなときでも学びを止めないICT教育推進校の今後の成果に期待 ▶ 2021年には2月1日午後入試を実施し、受験生の人気を集めた同校は、大学附属という名がつくものの、高校募集をしない中高6年完全一貫教育を行う進学校だ。海外大や国公立大への進学希望者も増えており、1学年の生徒数200名程度ながら、「国公立大合格100名」を目標に掲げ、さらなる躍進が期待できる。

青稜中学校・高等学校

変化を求めて挑戦を続ける
学校の姿勢が生徒の成長を助ける



Homepage

左/オンライン用に動画を作成する教員。
下/登校選択制を採った時期にも、授業の様子を配信した。
コロナ禍によってICT導入が一息に進んだ。



「ゼミナール授業」の様子。教員が、担当教科に関係なく自分の好きなテーマを掘り下げる。マニアックさに生徒の評判も上々だ。

右/放課後の自習スペースSラボ。家では気が散ってしまう生徒も勉強に集中できる。学校内で学びを完結させる仕組みだ。



下/充実した施設を活用してクラブ活動も活発に行われている。



from the School

青田泰明校長

挑戦から始まる成功を味わい、何事にも挑戦する姿勢を身に付けてもらいたい。



生徒に刺激を与える 学校と企業のコラボ

2年前、創立者を曾祖父に持つ青田泰明氏が校長に就任。副校長として歴代校長を支えて10年、学校一丸となって進めてきた改革をさらに強く推し進めている。

昨年春、コロナ禍での休校時には「学びを止めない、学習の機会をつぶさない」を合言葉に、すぐさま教師一丸となってオリジナル授業動画を作成し、配信した。特に新1年生にはオンラインのレクリエーションなどを密に行い、学校に親しみを持ってもらいながら、登校が始まったときにスムーズに友達となじめるよう細やかに配慮した。

「やる気を出させるのに効果的だったのがオンライン自習室です。学習する生徒の手元を映して分割画面でアップするもので、友達が頑張っている様子を見て、自分も頑張ろうと学習へのモチベーションにつながりました。休校で友達に会えない寂しさや満たされなさが、画面を通して充足されたようで、気持ちのケアにもつながりました」と青田校長。

授業でも斬新な取り組みを次々と打ち出している。その一つが、昨年からは始めた「ゼミナール授業」だ。多彩な個性を持つ教員が、自分の趣味や特技を題材にしてゼミ形式の授業を展開。中2、中3合同の25人程度の少人数で週2時間、教科とは離れて1年を通して探究型授業を行う。昨年度は、サブカルチャーを題材に

した読解型学習、数学の謎解きパズルなど14ゼミを開講。青田校長もSDGsの講座を担当。有名企業から講師を招いて話を聞き、ワークショップ、ディスカッションを経て発表を行った。こうした授業を通して、読解力や思考力、表現力を育てると同時に、教師との距離も圧倒的に縮まった。本年度は15ゼミを開講する予定だ。

昨年度からは、ゼミに招いた企業と学校のコラボレーションにも挑戦。生徒たちの意見を取り入れながら、グリコとエコスプーンの開発、サントリと天然水だけの自販機設置、JTBとバーチャル修学旅行を企画。それぞれ実現させたという。

「学校という場を通して、企業との企画・実験を行い、そこから得る恩恵を生徒たちにもたらしたい。挑戦する学校の姿勢を見せることで、生徒たちにも挑戦する心を持ってもらいたいのです」
青田校長が導く大胆な学校改革。どんな化学反応を起こすのか、期待が集まる。

School Data

- 〒142-8550 東京都品川区二葉1-6-6
- ☎03-3782-1502
- https://www.seiryo-js.ed.jp/
- 創立 1938年
- 交通 ●東急大井町線「下神明」駅から徒歩約1分
- JR京浜東北線・りんかい線「大井町」駅から徒歩約7分
- JR横須賀線「西大井」駅から徒歩約10分

コアネットの目

生徒も挑戦、教員も挑戦▶教員の個性を生かす「ゼミナール授業」に代表されるように、学校、そして教員の挑戦が目目される。生徒に挑戦してもらうためにも教員が挑戦していくべきという姿勢は、このコロナ禍でも遺憾なく発揮されている。今後ますます挑戦が続いていく同校で学ぶことで、何事にもチャレンジする心が育まれるだろう。



タブレット端末を効果的に利用し、
生徒の自主性を育む

園田学園中学校・高等学校



上/3月に行われた「タブレット発表会」。「ペットボトルはどのくらい有効利用されている」「海のゴミはどこからやってくる」など、同じようなテーマを扱っていても、そこは生徒の個性が出て視点が違い、それぞれの結論へと導いていく。

from the School

数学担当 吉村 章先生

ICTを活用することで知識の詰め込みではなく、生徒自身が考え、行動する自主性を育みます。



左/2018年に完成した新校舎は全館Wi-Fiを完備。内装に木を多用し、落ち着きと温かみがある。

ICT環境を活用し 主体的な学びを

創立以来80年を超える園田学園中学校・高等学校は、日本の伝統文化、7つの習慣J、生活表の取り組み、放課後学習、学力推移テスト、体験学習、英語力、勉強と部活動の両立といった8つの学びが特徴。近年は変わりゆく女子教育において、新たなニーズで社会貢献できる人材育成にも着手している。

その最たるものがICT教育だ。2016年より一人一台のタブレット端末を中学校から導入し、2年後の新校舎竣工を機に全館・全教室で最新のICT環境を完備。「今ではすべての授業で、タブレットが活用されています。それにより自分で考え、伝える力が身に付き、学年が上がるごとに提出物の完成度も高まっています」と語る吉村 章先生。

コロナ禍の休校時も、積み重ねたICT教育が大きなアドバンテージとなった。新入生には保護者の端末にロイロノートなどのアプリを入れてもらい、そこから生徒に課題が届くようにし、通常授業に遅れることなく進められた。5月からはZoomによるオンライン授業を開始。一日の終わりに教員同士で必ずミーティングを行い、情報共有して授業内容もアップデートさせた。

中学校では毎年学年末、2日間にわたり「タブレット発表会」が行われる。これはタブレットを活用した5分間のプレゼンで、昨年はコロナ

禍の影響で実施できなかったため、1・2年生ともにはじめての発表会となった。生徒は課題である「SDGs」について調べ、自分の興味のあるテーマにどう落とし込むかを決め、情報収集して整理・分析したものを発表する。画像を組み合わせて、内容に沿った見せ方を工夫して発表する姿は堂々としており、日頃の学びの成果が存分に発揮されていた。

陸上やバドミントン、テニスなど全国大会レベルのクラブが揃う、園田学園のモットーは「文武両道」。高校では特別進学・進学・総合の3コースがあり、特進コースでも部活動と勉強の両立できる体制を採っている。入学後すぐに行われる学年縦割りの「ファミリー活動」も、少人数の学校ならではの活動。3年生がリーダーとなって文化祭や体育祭などの行事に取り組み、一丸となりひとつの目標に向かうことの素晴らしさを学ぶ。同時にファミリーのなかで、自分の長所を活かした役割への自覚も芽生えるという。ICTを活用した主体性を育む学習と多彩な経験。それは次世代を生きる彼女たちにとって、かけがえのないものとなる。

School Data

〒661-0012
兵庫県尼崎市南塚口町1-24-16
☎06-6428-2242
<https://www.sonodagakuen.ed.jp>

- 創立 1938年
- 交通
 - 阪急神戸線・伊丹線「塚口」駅から徒歩8分
 - JR宝塚線「塚口」駅から徒歩約16分

近畿大学附属 高等学校・中学校

Homepage

**コロナ禍で気付いた
学校の存在意義と強み**



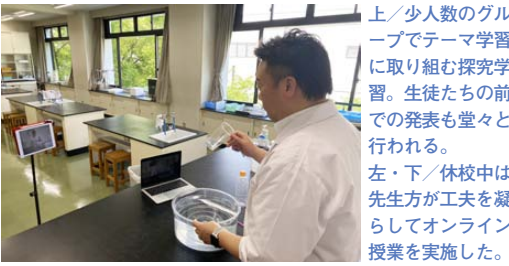
英語の4技能をバランスよく育てるプログラム[Cambridge English]を中学校の全コースで採用
 *Better Learning Partner(ケンブリッジ大学出版)認定



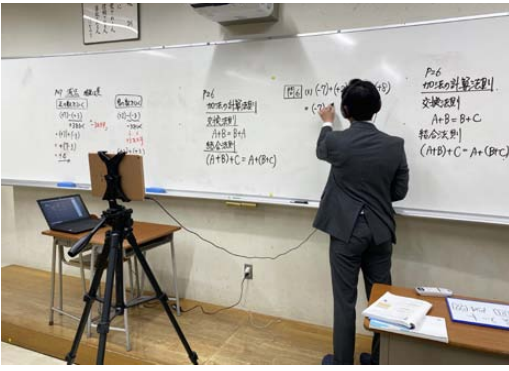
2014年から全生徒にiPadを配布。生徒たちは双方向授業や調べ学習などに活用している。

from the School

中川京一校長
 ICTも活用しながら自立した学習者となり、卒業後も学び続ける力を育みます。



上/少人数のグループでテーマ学習に取り組む探究学習。生徒たちの前で発表も堂々と行われる。
 左・下/休校中は先生方が工夫を凝らしてオンライン授業を実施した。



休校中もオンライン授業で 学びを止めない

2014年からデジタルツールを学びの道具として授業に活用してきたICT先進校。休校時も、スムーズにオンライン授業に移行した。「生徒たちの学びを止めない。生活リズムを守る。そして学校への帰属意識を育む。この3点を大切にしました」と中川京一校長。

休校中は毎日、学校の時間割通りオンライン授業を行った。生徒たちは朝、ホームルームの時間になる自宅のタブレットの前に座る。入試企画部長の原隆博先生は、「朝のホームルームは特に大事にしました。Zoomを使って生徒たちに声をかけ、体調を聞いたり、こんなクラスにしていこうといった話をして、学級づくりをしていきました。生徒からの質問があれば、夕方Zoomで話す時間を取って対応しました」と振り返る。

オンライン授業の内容は教科によってさまざまだったが、どの教科も工夫を凝らし、回数を重ねることに進化していったという。タブレットを使い慣れていた生徒たちも、問題なくオンライン授業に対応した。新入生には、担任や学校の施設などを紹介する動画を配信するなどして、不安を取り除きながら、学校への帰属意識を持たせる工夫も。「学校が再開すると、新入生たちもスムーズに学校生活になじんでくれました」と中川校長。オンライン授業を経験

したことで、学校再開後の授業でもすべての先生がこれまで以上にタブレットを活用できるようになった。だが、今回のコロナ禍は、想像以上に大きな変化をもたらしたと中川校長は言う。

「コロナ禍は既成概念を見直すきっかけとなりました。オンラインでも十分に授業ができることがわかった今、あらためて生徒が毎日登校する意義や、対面授業の価値が問われています。私は、友達や先生とのリアルなコミュニケーションを通して、生徒の心を育てる場所が学校で、この部分をさらに大切にすべきだと考えています。また、これからは教員が教えることよりも、生徒が自ら学ぶ力を育てることが、より重要になるでしょう。それには学習への動機づけが必要で、学ぶことは面白いと感じさせるような授業の工夫が大切。そのツールとしてデジタルを使いこなし、一人ひとりを自立した学習者に育てるのが本校の役目です」

地に足の着いたデジタル活用が、同校のさらなる進化を促進させる。

School Data

- 〒578-0944 大阪府東大阪市若江西新町5-3-1
- ☎06-6722-1261
- http://www.jsh.kindai.ac.jp/
- 創立 1947年
- 交通 ●近鉄大阪線「長瀬」駅から徒歩約20分
- 近鉄奈良線「八戸ノ里」駅から徒歩約20分
- ※近大シャトルバス約5分
通学バスの運行あり(詳細はホームページ)

清教学園中学校・高等学校



先進校が次のステージに進んだ
本当の意味でのICT活用



上/オンラインで他校の生徒たちと本を紹介し合う「読書交流会」に参加。

右/昨年の休校で、ベテランから新任まであらゆる年代の教師が、「生徒のために」とオンライン授業に取り組み、休校中もスムーズに学習を進めることができた。



11月には図書館総合展にもオンラインで参加した。

右/「中3生だけはやらせてあげたい」という先生たちの思いが結実。昨年の合唱コンクールは広い舞台で間隔を空け、マスク着用で歌い上げた。

下/学校再開後もさまざまな場面でオンラインを活用。昨年の文化祭はオンラインを駆使。動画配信される出し物を教室で静かに見た。



台湾の生徒たちとオンラインで交流。国際理解を深めた。



from the School

森野章二校長

活用ありきでなく、得意を伸ばすためにICTを「文房具のように」扱うことが重要です。



主体的な学びの実現へ 教員の意識も変化

中学生の祈りが発端となり開校した、キリスト教主義の学校という背景を持つ清教学園。屈指の進学実績を誇り、部活動も非常に盛ん。文武両道の実践で生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばしている。スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト校に認定され、ICT教育では先駆的な存在だ。校内に大規模なWiFiインターネットワークを構築し、高校生全員がBYODの形で学校に自分のデバイスを持ち込んでいる。今回のコロナ禍でも、ICTの力が遺憾なく発揮された。

休校中はホームルームから始まり午前中4時間の授業、一日の振り返りタイムまでを正課とし、放課後は担任との懇談、質問の時間とした。慣れてくると生徒の希望を受けて5月には5時間授業へ変更。形式も教師に一任され、リアルタイム、課題配信、オンデマンドを組み合わせた。この休校中の対応に生徒は高い満足を得たと答えており、保護者からも感謝の言葉が寄せられた。

「今回、ピンチはチャンスという言葉を実感した」と語る森野章二校長。「これまで手掛けたかと思いつながら進まなかったことが、コロナ禍の下、強行せざるを得なかった。昨年だけで2〜3年分進んだ気がします」

学校再開後も活動で制約に直面するたびに「オンラインでできないか」と、多くの教員が柔軟に考えるようになったという。休校中に使用したGoogle Classroomによるコミュニケーションも定着した。また、休校中実施したオンデマンド配信に、アダプティブラーニングの可能性を感じ、補講に取り入れるなどの変化も。休校前はICT活用ありきの発想もありましたが、それは本末転倒。学習をより効率的に行い、深い学びを実現するための文房具として、今後はさらにICTを使いこなしていきたい」と森野校長。

清教はこれまでSGH校として4カ国の学校と姉妹校交流を行い、年間300名を超える海外からのゲスト招聘や、国際的に活躍する著名人による講演などを行ってきた。コロナ禍においても10月に台湾屏東県立中正国民中学校と、また高校では都立白鷗高校との探究活動の交流会をオンラインで実施するなど、ICTを活用しながら交流のあり方を模索した。今年4月からは中学でもiPadによるBYODが導入された。先進校としての確たる教育ビジョンと、それに基づいてICTを使いこなせる同校ならではの、さらなる進化に期待が高まる。

School Data

〒586-8585

大阪府河内長野市末広町623

☎0721-62-6828

<https://www.seikyo.ed.jp/>

●創立 1951年

●交通 南海高野線、近鉄長野線「河内長野」駅から専用通路を通過して徒歩10分

コロナ禍で学校も変わる 固定観念を捨て、 新たな目で学校を探したい

コアナット教育総合研究所副所長 川畑浩之

私立校の人気上昇

コロナ禍に見舞われた今年の中学受験。当初は受験者数が減るのでは、との予測もありましたが、ふたを開けてみれば予想に反して首都圏の私立の受験者数は増加しました。その要因として考えられるのは、やはりコロナの影響です。地元の公立中学はICTの整備が遅れていて、休校中などの対応に不安がある。ICTの利活用が進んでいる私立のほうがよいのでは、と判断し

たご家庭が多かったのだと思います。コロナによって一気に世の中のありようが変わった昨年。私立の中高一貫校は、突然の休校にも「生徒の学びを止めない」を合言葉に、ICTを活用して柔軟に対応していきました。オンラインで授業の配信を始め、海外体験プログラムが実施できなくても、オンラインで海外の人たちとのつながりを持つ。全校生徒が集まる体育祭が無理なら、学年で分けて分散開催する。このような臨機応変な対応力で、私立学校はコロナ禍という危機を乗り越えてきました。この流れは、この先も変わらないでしょう。もちろん文科省のGIGAスクール構想が前倒しされ、公立学校でも教育のデジタ

ル化は進みますが、まだ私立とはかなり開きがあるのが現状です。**学校の変化を見逃さない** コロナ禍にあつて、学校が大きく変わり始めている今、学校選びには、変化への対応力を見る視点が欠かせません。保護者の方には、「この学校はこうだ」といった固定観念や先入観を捨て、新たな目で一つひとつの学校を見直していただきたいと思えます。そのためには学校が出している広告や、ホームページ、オンラインで開催される学校説明会、在校生徒による学校紹介の動画など、学校側が発信する情報をうまくキャッチすること。ただし、SNSの口コミサイトの情報は、偏ったものも多いので注意が必要です。客観的な情報を得ることを心掛けてください。学校のホームページには、「受験生の皆

さまへ」といったページを設け、そこに学校の目指すところから、進路実績まで、受験生が欲しいすべての情報をまとめているところがあります。そういうサイトも忘れずにチェックしてください。そして、コロナ禍とはいえ、やはり一度は実際に学校を見学に行くことをお勧めします。また、学校側に、「探究の時間にどんなことを取り上げる予定か」と聞いてみるのもいいでしょう。探究は、子供たちが社会に出てから必要とされる力を身に付けさせる時間。親御さんが、「こんな授業なら自分も受けてみたい」と思うようなテーマがあれば、学校を選ぶひとつのヒントになるはずです。コロナ禍というピンチをチャンスと捉え、建学の精神を守りつつ、変化を恐れずに努力を続ける学校。そのような学校をぜひ見つけてください。

関西の 中学入試の規模

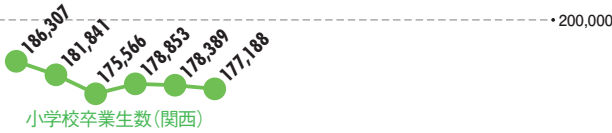
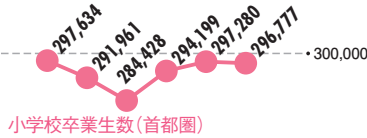
日能研関西 進学情報室提供

調査対象／大阪府、兵庫県、
京都府、奈良県、
和歌山県、滋賀県

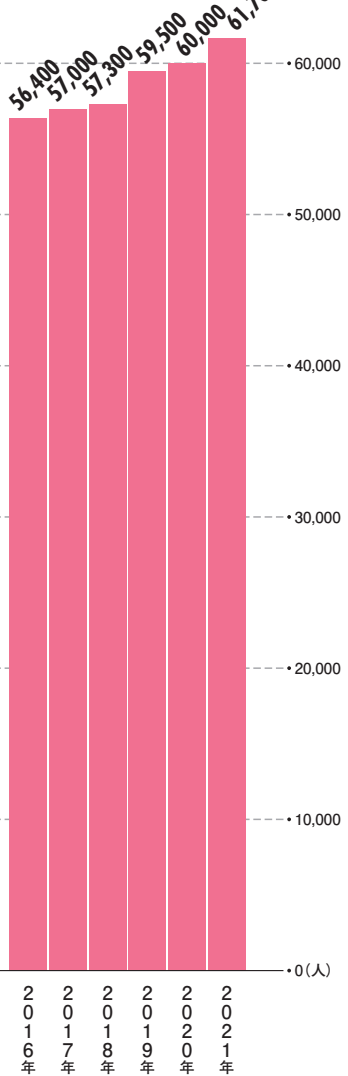
首都圏の 中学入試の規模

日能研関東 中学情報部提供

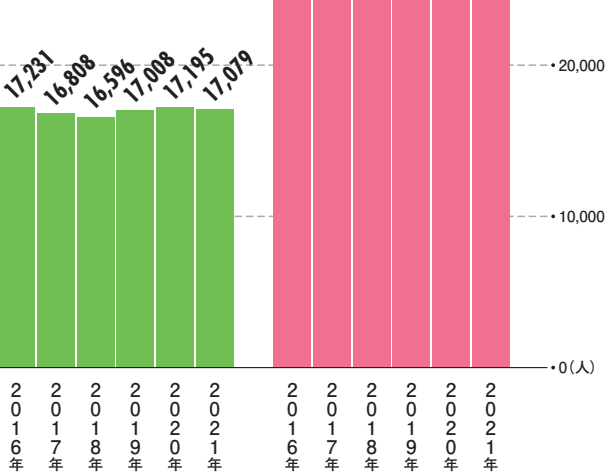
調査対象／東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県



受験者数(首都圏)



受験者数(関西)



East 首都圏

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
 私立ならではの教育が魅力の首都圏の中高一貫校38校



成城中学校・成城高等学校

Homepage



新学習指導要領をにらんだ
カリキュラムを展開



中1で行われる臨海学校は、大正時代から続く伝統行事だ。高2から選抜された指導員が、リーダーシップを発揮する。



教員全員にタブレットが配布されるなど、ICT化も進んでいる。



文武両道主義で部活も盛ん。ほとんどの部が校内で活動している。

右/中3から高2の希望者を対象に夏休みに実施されるエンパワーメント・プログラム。議論・企画・発表を英語で行い、自己確立を目指す。

下/リーダーとして必要な資質・能力を育成するオーストラリア・グローバルリーダー研修。中3から高2の希望者が対象。



from the School

入試広報副室長 宮本八太郎先生

やりたいことを見据え、新しい自分に挑戦していく、そんな中高6年間で私たちが支えます。



豊富な高校の選択授業 先取り授業も中学で展開

昨年度、創立135周年を迎えた伝統ある男子校、成城中学校・成城高等学校。最近のエポックは、2019年度以降の高校募集を取りやめたことだ。今年度からは、中高完全一貫校となった。

入試広報副室長の宮本八太郎先生は「生徒を丁寧育てるため」と完全一貫校化について述べる。

「中学男子は、伸び始めると速いのですが、それまでがゆっくりペース。ですから中1から中2の2年間で、成長に向けた土台づくりに力を入れていたのですが、高校からの入学ではなかなかそこに手をかけられない、というのが理由の一つです」

もう一つの理由に、新学習指導要領への対応がある。求められる探究や情報活用、文理融合型の学習を丹念に展開しようとすると、高校からでは時間が足りない。それらについても授業内容を先取りして、中学から素地づくりを始めようと意図したことが背景にある。これに伴ってカリキュラムも見直された。従来は高2で文系・理系に分かれ、高3でさらに国公立志望と私立志望に分ける4コース制がとられていたが、高3でのコース分けは廃止したのだ。

「代わりに選択制の授業をたくさん設けました。例えば文系のコースでも理系と一緒に数学の授業を選べますから、入試科目に数学がある文系学部などは、その選択によって受験

が有利になる場合もあります」

また、受験をサポートする夏期と冬期の進学講習では、予備校並みの講座数が用意されている。

「この進学講習を受講し、校外で塾に通うことなく、東大に進学した生徒もいます」と宮本先生は言う。加えて今年度からは、高3の習熟度別授業を増やした。進学に向けた生徒へのサポートが手厚い。

一方、数学統計のように、高校の単元の一部を中1から先取りして実施する授業もある。表現力を磨く新授業として、中3では「国語表現」、高1では「英語表現」が、新たに取り入れられてもいる。

自己と向き合い、仲間を知る中1の臨海学校は、教員の約半数、高2の50人ほどが新入生の挑戦を支援する伝統行事。社会性を育むことに始まり、中2までに能動的な学習習慣をつける。校内や海外での体験型プログラムによるグローバル教育は、自己が確立されていく中3から高2の間に実施。男子の成長に合わせて展開される学びと体験は、男子校ならではの魅力である。

School Data

〒162-8670
東京都新宿区原町3-87
☎03-3341-6141
<http://www.seijogakko.ed.jp/>

- 創立 1885年
- 交通 都営大江戸線「牛込柳町」駅西口から徒歩約1分

コアネットの目

成城の「人間教育」はさらなる高みへ▶男子ならではの成長に合わせて、6年かけてじっくりグローバル時代のリーダーを育てる。そのプログラムのほとんどが同校のオリジナルだ。創立以来守り続けてきた「人間教育」を重んじる伝統は、中高完全一貫化により一層高い次元で引き継がれ、生徒たちを「成城らしく」育てている。



東京都立大学付属 中学校・高等学校

男子教育のプロフェッショナルが 6年間で夢の実現へと導く



高1希望者のニュージーランド語学研修。パディと呼ばれる現地校の生徒から生活や勉強のサポートを受けて、現地校の全授業に出席する。



中高合同で活動しているクラブも多い。勉強もクラブも思い切り打ち込める環境がある。



左上／中学のキャリア・スタディでは企業研修を実施。見て感じて学ぶ。左中／弁論大会。クラスの代表者が登壇し生徒全員が審査員となる。左下／新聞を使った授業。学びの材料はどこにでもある。

from the School

主幹教諭 久保田 隆先生

夢中になれること、自由、そして挑戦の場をたくさん与え、生きた非認知能力を育てます。



常に生徒を励まし続け大きく伸ばす6年間

難関大学を目指した教育プログラムで合格実績は年々飛躍的に上昇。今年度も過去最高の成果を上げた。思春期男子の心に寄り添う指導は保護者からの信頼もあつい。

「生徒たちの夢の実現を後押しするためのポイントが、本校には三つあります。一つ目が教員と生徒の距離が近い、『師近距離』です」と久保田先生は説明する。

勉強に「つまずき」そうな生徒を取り残さないために、「いいものは皆でシェアしよう」と、生徒からアンケートで勉強法やノートの取り方のコツを集めて良い例を紹介するなど、皆で学習する姿勢を大切にしている。

生徒への心配りはコロナ禍でも如実に表れた。休校が始まってすぐ、教材一式と課題に、教員からの励ましメッセージを添えて、宅配便で全生徒に発送。教員が作成した700本に及ぶ授業動画を配信したほか、ホームルームや個人面談もZoomで行い、自宅待機で不安な生徒を励まし続けた。思春期男子育成のプロフェッショナル集団として、常に生徒に寄り添う教員の姿勢は、学校への信頼と生徒の精神力を育んでいく。

二つ目のポイントが、非認知能力の育成だ。「勉強も部活も100…100」をキャッチフレーズに、何ごとにも全力で取り組む経験は、受験時の突破力、忍耐力、最後の追い込みの集中力につながる。非認知能

力涵養のため、コロナ禍においても人と会うことを重視。検温、教室の換気、黙食、消毒、二酸化炭素測定器の全教室設置など対策を徹底し、授業や部活はもちろん、文化祭、体育祭、修学旅行、卒業式も敢行。クラスターを発生させることなく乗り切った経験は、生徒たちに大きな自信をもたらした。

三つ目は幅広い選択肢だ。勉強、クラブ活動、学校行事、国際理解教育などあらゆる場面で複数の選択肢を与え、自分で考えて行動することを徹底している。

「文化祭や弁論大会、キャリア学習など多くの機会を通して、生き生きと頑張る先輩を間近に見るのも大きな経験です。先輩が素晴らしい結果を出す姿を見て、自分もやればできると頑張る。学校全体にいい回転が生まれています」

先生や仲間に見守られながら自分の目標やミッションを見つけ、自己決定を重ねていく。6年間で力強く成長する生徒たちは、さらなる輝かしい歴史を刻んでいくことだろう。

School Data

〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
☎03-3415-0104(代)
https://www.tcu-jsh.ed.jp/

- 創立 1951年
- 交通 ●小田急線「成城学園前」駅から徒歩約10分
- 東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅から徒歩約20分、「東京都立大学付属中高前」下車すぐ

共立女子中学高等学校

Homepage

一人ひとりの可能性を大きく広げる
本質に触れる多様な学びが



上/1800人を収容する伝統ある共立講堂では、伝統芸能など本物に触れる多様な企画が行われる。
 左/高1油彩課題「バロック調自画像」で自分と向き合う。



中1から外国人講師による少人数制の英会話授業が始まる。スピーチやグループ発表も行う。



共立祭は学校見学の良いチャンス。共立らしい伸び伸びとした雰囲気の中、各部の発表が行われる。

前田好子高等学校教頭。共立は昔から読書教育に力を入れています。高校生ときはあまり興味を持てなかった古典の価値も、大人になって再認識しています。



from the School

中城芳裕中学校教頭

美術を体系的に学ぶことは異文化理解につながり、グローバル社会で生きる土台になります。



充実したカリキュラムと豊富な体験学習

今年で創立135年を迎える共立女子。「社会に広く貢献できる自立した人材の育成」を目標に掲げ、3万6000人以上の卒業生を送り出し、各界で活躍する卒業生たちは枚挙にいとまがない。OGたちが母校を振り返って一様に語るのは、その学びの広さだ。主要5教科に偏らないカリキュラムや、副教科における授業内容のレベルの高さ、共立講堂での音楽・演劇鑑賞、礼法、各種研修、活発な部活動等々。学びの領域を広げて自己の可能性を探る6年間、「共立女子のリベラルアーツ」の価値は、計り知れない。

たとえば美術科の授業では中1からグライユという古典技法を学ぶ。最初にグレースケールで明暗をつけて立体を描き、後から彩色していくこの技法は西洋古典絵画に共通するもの。ダビンチもフェルメールもこうやって描いたと、その写実性の秘密が明かされる授業だ。「自分の手で実際に描いてみて、体験的に理解することが大事だと考えています」と美術教員であり中学校教頭の中城芳裕先生。美術科は、中城先生を中心に30年間「美術教育の在り方」を追求してきた。中2の油彩課題「想定自画像」では、まず絵の中の自分がどのような状況・気持ちであるのか文章で表現させる。2009年卒の詩人マーサ・ナカムラさん（第23回中原中也賞受賞）は、このときの「目

に見えないものを自分の力で引っ張り出す」体験が忘れられないと語っている（2021学校案内）より。

高等学校教頭の前田好子先生（英語科）もOG。中1の映画会で見た「マイ・フェア・レディ」の強烈な印象が忘れられないという。高校時代に素晴らしい先生とたくさん出会い、「私も共立女子の教員になる」と決めていたそう。

「いろいろなタイプの生徒がそれぞれに力を伸ばし、いざというときの団結と頑張りがすごい」といふ部分は今も昔も変わりません。私も卒業生を大勢送り出してきましたが、社会学や経済学に興味を持ち進路を選択する生徒、どのようなキャリアを歩むにも法律は大事だからと法学部に進む生徒、理系の専門職を目指す生徒など、しっかりと将来を見据える生徒が増えていますね」

キャリア教育の成果が積み重なり、ロールモデルに事欠かないのは、変革の時代における伝統女子校の強みだろう。

School Data

〒101-8433 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
 ☎03-3237-2744(代)
www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/

- 創立 1886年
- 交通 ● 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩3分
- 東京メトロ東西線「竹橋」駅から徒歩5分
- JR「水道橋」駅・「御茶ノ水」駅から徒歩15分

コアネットの目

まるでひとつの文具のように、学校生活になじむiPad▶ICT教育の充実も魅力だ。全生徒がiPadを所持し、朝テスト、資料のデジタル化、作品提出などに活用。全教室に電子黒板機能付きプロジェクターを導入し、ICT支援員も常駐するなど環境整備にも抜かりがない。学校生活に浸透した生徒たちのiPad活用の様子は、学校公式Facebookでもぜひご覧いただきたい。



共立女子第二中学校高等学校

リアルな体験を重視した学びで
社会で活躍できる人材を育てる



上/恵まれた自然環境と、4つの実験室を備えた学習環境が整っている。理科教育に力を入れ、考察力を養う。
右/さまざまなアクティビティを取り入れながら、英語4技能統合型授業を展開。2022年度から「英語コース」が誕生する。



豊かな感性を身に付ける女子教育。「礼法」で礼儀作法を、華道や茶道などを通して「和」の作法を学ぶ。

右/自然豊かな環境のなかで、体験重視の教育が最大の魅力だ。



下/主体的な探究活動に取り組んでいる。ICTを活用して、論理的思考力や問題解決力を身に付けていく。

キャンパス内にあるファームでの野菜作り。自分たちが栽培した野菜を調理実習で使用することも。



from the School

入試広報部主任 戸口義也先生
本校は引き出しの多い学校。自分らしさを発揮できる場所が、必ず見つかるはずです。



最先端のICT教育と 伝統の体験型教育が同居

135年前、「女性の社会的自立」を目指して創立された共立女子学園の薫陶を受け継ぐ、共立女子第二中学校高等学校。コロナ禍が続く今年、同校では入学希望者が増えた。入試広報部主任の戸口義也先生はその理由を、「本校ならではの、安心の環境」と、近年の女子大付属校の人気復興が関係している」と分析する。

まず、八王子市郊外に位置するキャンパスは、東京ドーム5個分の広さ。校舎は完全密閉時でも1時間に4回、教室内が自動換気される安全設計だ。しかも各学年1クラス30〜35名程度の少人数制。「密」とは無縁の学習環境に安心感を抱き、子供の入学を決めた保護者も多かった。また、臨時休校を余儀なくされた昨年度、個人保有のデバイスを活用できるBYODと、全ホームルーム教室に最新型のプロジェクターを導入。オンラインと対面、どのような条件下でも授業内容を充実化できるよう、ICT環境の強化を図った。

女子大付属人気の背景には、ジェンダー問題や男女共同参画事業などに端を発する、自立型女子育成への関心の高まりがある。共立女子大は、建築が学べる家政学部や国際学部、看護学部、ビジネス学部など多彩な学部があり特に注目度が高いのだ。そんななか、2022年度から高校に「英語コース」と「共立進学コース」(各1クラス30名)が新設される。

「英語コース」の目玉は、世界中で語学教育を展開する「ベルリッツ」と提携して行う授業の導入と、全員参加のニュージールランドチーム留学(3ヵ月間)だ。海外大学への進学も見据え、英検準1級レベルの英語力習得を目指す。一方の「共立進学コース」は、高3で共立女子大の講義を受講できる制度(KWU高大連携プログラム)が魅力だ。これにより進学後、余裕を持って留学や資格試験にチャレンジができる。

中学・高校を通して各教科や課外活動で行われる、体験重視の学びも定評がある。例えば、生徒自ら脚本や演出も手掛ける中1の英語劇、3年間で100回にも及ぶ中学の理科実験、キャンパス内にあるファームでの野菜作り、和室で礼儀作法などを学ぶ「礼法」の授業などだ。「リアルな体験と紐付けられた学びは、ICT教育全盛の時代にこそ、人間力を育てるうえで非常に大切だ」と戸口先生。ハード面でもソフト面でも、10年20年先を見据えた、実り豊かな女子教育を実践する、引き出しの多い学校なのである。

School Data
 〒193-8666
 東京都八王子市元八王子町1-710
☎042-661-9952
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/>

- 創立 1886年
- 交通 JR中央線・京王線「高尾」駅、JR中央線「八王子」駅南口からスクールバスあり。みなみ野・七国循環ルートも運行 ※スクールバスは無料

十文字中学・高等学校

女子教育の原点を大切にしつつ
未来に貢献できる人材を育成する

Homepage



中1〜高2まで学年ごとに設定されたテーマに沿って探究学習を進める。プレゼンテーション力、ディベート力を養う。



左/理数教育にも力を
入れている。実験・観
察・演習を行うなかで、
理数的思考力を身に付
ける。
下/短期から長期まで
海外研修プログラムが
揃っている。

右/生徒広報委員会の
メンバーが、学校説明
会の受付から学校紹介
のプレゼンテーション、
校内案内を担当した。



下/5階建ての本校舎
は中央部分が吹き抜け
になっている。窓は大
きく、廊下も広く、開
放的な環境だ。



from the School

横尾康治校長

あなたが活躍できる場所が必ず
見つかる十文字で、自らの資質
を伸ばしてください。



探究力のベースを養う 中学3年間の学び

1922(大正11)年に女子教育の先駆者・十文字ことが創立し、来年100周年を迎える十文字中学・高等学校。その建学の精神「身をきたへ心きたへて世の中にたちてかひある人と生きなむ」は、校歌として大切に歌い継がれている。「誰かの役に立ち、喜んでもらえることは、自分の喜びや生きがいにつながる。そんな意味が込められています。時代とともに教育の形は変遷しましたが、今一度、本校の原点を見つめ直し、女子教育の黎明期だった大正時代の女性のように、学ぶこと、成長することはこんなに楽しく価値あることなんだと、「学び」を自ら希求する生徒を育てたいですね」

そう語るのは、今年度、新校長に就任した横尾康治先生だ。内発的な学習意欲を重んじる十文字の教育ポリシーは、近年の探究活動に色濃く反映されている。

例えば、一昨年度スタートした高校の「総合的な探究の時間」では、SDGsの取り組みに熱心な企業に着眼した生徒が直接コンタクトを取り、会社訪問。それが縁で現在は協働して課題解決に取り組み、ユニークな探究活動へと発展している。さらに課外活動では、高校生約100名が登録する「生徒広報委員」が、中学の学校説明会などで活躍中だ。「十文字の良さをいかにアピールしたいらいいか、マネジメントからブレ

ゼン内容や方法論まで生徒たちに考えさせ、当日の校内案内も任せたりして、保護者や入学希望者に大好評でした。自信とやりがいとを喚起する得がたい体験になったようです」

十文字生の探究力、調査力、発信力のベースとなるのが、中1で取り組む校外学習だ。上野動物園で一つの動物を観察し、発見と考察の成果を発表。「なぜ? どうして?」という疑問を持ち、調べたことから自分なりの答えを導き出す。探究学習の素地を培う学びといえる。

School Data

〒170-0004
東京都豊島区北大塚1-10-33
☎03-3918-0511
<https://js.jumonji-u.ac.jp/>

- 創立 1922年
- 交通
 - JR山手線「巢鴨」駅・「大塚」駅から徒歩約5分
 - 都営地下鉄三田線「巢鴨」駅から徒歩約5分
 - 都電荒川線「大塚駅前」駅から徒歩約5分

また、中学3年間をかけてキャリア教育も実施。中1では自分の13年の人生を振り返り、「自分史」を作成・発表。中2では職業調べを行い、将来の進路を思い描き、中3で世の中の課題を見つけ、自分流の答えを考案しつつ、社会に貢献したいことを論文にまとめる。

「生徒たちの素直さ、ひたむきさは十文字の『宝』です」と横尾校長。自ら考える力を育み、未来に必要とされる資質を磨いてくれる学校だ。



グローバルプログラムの目玉は、中2全員参加の海外キャンパス「昭和ポストン」を拠点とした12日間の研修。中1から事前学習を始め、中3でまとめ・発表を行う。昨年度はコロナ禍のため、オンラインで行った。



Homepage



女子の進路選択の幅を広げる
独自の特色ある教育制度が魅力

昭和女子大学附属 昭和中学校・高等学校



「スーパーサイエンスコース」が設置され、高度なサイエンスプログラムを展開。医学、理数系進学を目指す生徒をサポートする。

右/キャンパス内には米国州立テンブル大学ジャパンキャンパスとブリティッシュスクールもあり、国際色豊かだ。



下/ブリティッシュスクールとのコラボ企画「おにぎりアクション」のポスター。



中3の秋、世界自然遺産である屋久島でフィールドワークに挑戦。特色のある生態系や自然美を調査する。



from the School

真下峯子校長

寛容に、そして柔軟に。世界を見る目と好奇心を本校で育ててください。



国際色豊かな学習環境と 進路選択の幅広さが特色

建学の精神「世の光となろう」を掲げる、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校。世田谷から世界への合言葉の通り、キャンパスには、米国州立テンブル大学ジャパンキャンパスとブリティッシュスクールもある、国際色豊かな環境だ。さらに、米国ポストンに大学キャンパス（昭和ポストン）を有し、中高の海外研修の拠点となっている。

世界的な感染症拡大で海外研修を実施できなかった昨年度、昭和のグローバルな学習環境が大いに効力を発揮した。同じキャンパス内のテンブル大学生の協力の下、英検®指導講座を開催。ブリティッシュスクールとの学術連携や文化交流も深まった。例年、中学2年生が全員参加する12日間のポストン研修は、オンラインで現地校と結んで行う形式に変更。習熟度別の英会話レッスンを実施し、ポストンの文化についても学んだ。真下峯子校長が振り返る。

「オンラインの場合は時差がネックですが、現地の先生方が本校の時間に合わせて対応してくれました。今後も、事前・事後学習にぜひオンラインを活用したいですね」

一人ひとりが希望する未来に進めるように、「本科コース」「グローバル留学コース」に加えて、今年度より、高校のみだった「スーパーサイエンスコース」を中1から設置。医療や情報、研究職などの理数分野で

活躍する女性が増えてきている今、中学の段階から充実した特別プログラムを提供し、理数系への進路選択の幅を広げる狙いがある。

高校では、独自の「五修生」が注目を集めている。中高6年間のカリキュラムを5年で修了し、高3に籍を置きながら昭和女子大に進学できる制度だ。これに、昭和女子大のダブルディグリー・プログラム（同大で3年、海外の協定大学で2年学ぶと、単位互換により両方の大学の学位を取得できる）を併用すれば、同級生と卒業は一緒。しかし、大学院進学や留学への余裕が生まれ、キャリア形成の可能性がぐっと広がる。

「女の子が、こうなりたい」と願う将来を実現でき、これからの社会でもっと活躍できるように、進路の選択肢をできるだけ増やしてあげたい。それが本校の教育理念です」と、真下校長。女子の向学心と挑戦への突破力を育ててくれる学校だ。

School Data

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
☎03-3411-5115(中高部代表)
<https://jhs.swu.ac.jp/>

- 創立 1920年
- 交通 ●東急田園都市線「三軒茶屋」駅から徒歩約7分
- 「渋谷」駅から下記方面行きバスを利用し、「昭和女子大」下車すぐ(上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布)
- 「目黒」駅・「祐天寺」駅から三軒茶屋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分
- 「下北沢」駅から駒沢陸橋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分

コアネットの目

女子校人気を牽引している昭和女子、次の一手にも注目▶これからの時代に必要とされる資質・能力を育成するためのユニークな教育プログラムがある。女性のキャリア教育の実績は、群を抜く。国内外の大学との提携プログラムは、コロナ禍のなかでも充実。特に、昭和女子大学との連携による「五修生」は、時代を先取りした教育プログラムであり、注目されている。

穎明館中学高等学校

Homepage



夢の実現へと挑み続ける
「EMK未来プロジェクト」



中3から設置されたアドバンスクラス。中2の成績を基に、学年上位者でクラスを編成する。



上/放課後の自学
自習をサポートする「EMK未来サポ
ート」。集中して
学習に取り組める、
仕切りの付いた個
別ブースを完備。



左/世界に羽ばたく
真のグローバル
リーダーを目指し
て、6年間のさま
ざまな学びがある。



400mトラック付きの人工芝のグラウンド。ほかにも温水プールや天文ドームなど、充実した設備も魅力だ。

※プロジェクトに冠したEMKは、Experience(経験)、Morality(道徳)、Knowledge(知識)の頭文字を組み合わせたもの。穎明館のイニシャルにも掛けている。

右/グローバル教育をさらに強化し、オンライン英会話システムも取り入れた。



下/高1では第2外国語(フランス語と中国語)を選択することもできる。



from the School

橋本好広校長

緑豊かな環境のなかで、生き生きと、伸び伸びと、自分の夢を育んでください。



学校改革を支える 新たな五つの取り組み

豊かな多摩の自然に抱かれるようにキャンパスが広がる、穎明館中学高等学校は、「国際社会に羽ばたく真のリーダーを育成する」という建学の精神の下、1985年に開校。近年、東大などの難関国公立大、医学部、難関有名私立大への合格者を数多く輩出している、男女共学の進学校だ。

2019年度からは、より進化した教育を目指し、「EMK未来プロジェクト」を推進している。柱は、「進学指導の進化」「放課後学習支援の強化」「グローバル教育の活性化」「ICT教育の充実化」「探究学習の整備」の五つだ。橋本好広校長の解説を交え、具体的に見ていこう。

進路指導では、クラス単位で習熟度別授業を実施するほか、中3からは難関大学への進学を見据えた授業を行う「アドバンスクラス」を設置。スポーツのように勉学も切磋琢磨し、互いに高め合おうという気持ちを育成する狙いがある。

「EMK未来サポート」と銘打った放課後学習支援システムにも注目だ。図書館内に仕切りの付いた自習専用ブースを整備。希望登録制で利用できる自学自習の場を提供している。「低学年のうちに学習習慣をしっかりと定着させるために、中学1、2年生は全員登録です。19時まで利用できるので、部活(18時まで)終了後に駆け込み、自習していく生徒も多

いです」と橋本校長。

開校以来、高1全員参加の「USA・カナダ体験学習」ほか、多彩なプログラムを実施しているグローバル教育には、新たにオンライン英会話を導入。海外大学推薦制度の整備も行った。また、高1の希望者を対象に週1回、第2外国語(フランス語・中国語)と英会話の講座を開講している点も見逃せない。

ICT教育、探究学習については、「すでに実施しているレゴマインドストームを活用したプログラミング授業に加え、今年度からはタブレット端末を活用した授業も行います。さらに、中学1年から3年生まで毎年実施している宿泊体験学習(香平、広島、奈良・京都)や、SDGsも視野に入れた穎明館独自の探究学習にも力を入れています」

学校改革の先に見据えているのは、生徒一人ひとりの夢の実現。大学受験はその登竜門であり、「だからこそ進路指導にも力が入る」と橋本校長。ますます進化する穎明館の今後目が離せない。

School Data

〒193-0944
東京都八王子市館町2600
☎042-664-6000
<https://www.emk.ac.jp>

- 創立 1985年
- 交通
 - JR中央線・京王高尾線「高尾」駅から京王バスで約15分
 - JR横浜線・相模線・京王相模原線「橋本」駅からスクールバスで約25分

コアネットの目

恵まれた環境で、未来のリーダーを育成し続ける多摩地区の名門私学▶創立者の堀越克明の祖父であり、本校の教学の祖である堀越修一郎のビジョンの下に開校された穎明館。学力向上や幅広い教養の養成はもとより、深みのある人格形成を通して、社会に貢献するリーダーを育成し続けている。難関大学への進学だけにとどまらない、私学らしい「価値」を持つ新しい穎明館から目が離せない。



桜丘中学・高等学校

プレゼンテーションの経験を積み
問題解決能力を伸ばす



上/英語の授業は少人数で。単語の習得もゲーム感覚で競わせるなど、タブレットを活用。
左/MC制度がプレゼン力の基礎を形作っている。



ICTの導入が早かった桜丘中学・高等学校。コロナ禍での休校期間もすぐにオンラインに移行できた。

右/クラブ活動も盛ん。運動部21、文化部20(一部高校のみ)が活動中。



下/国内で行うイングリッシュキャンプ(中3)では、とにかく英語を使う練習をする。最終日には自信がついてくる。

英語科の岩元 彩先生。ネイティブの先生と日本人の先生のチームワークが自慢だそう。



from the School

一貫教育推進課長 藤岡和宏先生

人型ロボット「Pepper」君のプログラミングにも中3で取り組んでいます。



MC制度をベースに
自信をつける生徒たち

「自立した個人の育成」を教育目標とする桜丘中学・高等学校。いち早くICT化を進め、英語教育にも力を入れてきた学校である。また、タブレットを用いたグループワークやプレゼンテーションなど、実践的な「問題解決型」授業を行うための特別教室「SLC (Sakuragaoka Learning Commons)」をはじめ、施設・設備の充実度も高い。

それらICT環境を生かし、今年度から取り組んでいるのが「中学プロジェクト」だ。2019年度から高校の科目に加わった「探究」では、自ら立てた課題を掘り下げ、その結果を発表する授業を行っている。これに準じた授業を中学でも展開しようという取り組みだ。

「具体的には、プレゼン力を高めることを目標とします」と言うのは、同プロジェクトを担当する藤岡和宏先生。プレゼンは、テーマの背景や現状、問題点などを調べ、それに対する自分なりの解決法や考えを相手に伝わりやすく、組み立てて表現するといった作業を要する。

「プレゼンスキルを身に付け、自らの考えを論理的にまとめていく経験を積む。それを中3の論文作成につなげていこうと考えています。実は本校は以前からその素地づくりに取り組んできています」と藤岡先生。

その一例が9年前から導入しているMC制度。MCは日直のことだが、

「自律した個人の育成」を教育目標とする桜丘中学・高等学校。いち早くICT化を進め、英語教育にも力を入れてきた学校である。また、タブレットを用いたグループワークやプレゼンテーションなど、実践的な「問題解決型」授業を行うための特別教室「SLC (Sakuragaoka Learning Commons)」をはじめ、施設・設備の充実度も高い。

それらICT環境を生かし、今年度から取り組んでいるのが「中学プロジェクト」だ。2019年度から高校の科目に加わった「探究」では、自ら立てた課題を掘り下げ、その結果を発表する授業を行っている。これに準じた授業を中学でも展開しようという取り組みだ。

「具体的には、プレゼン力を高めることを目標とします」と言うのは、同プロジェクトを担当する藤岡和宏先生。プレゼンは、テーマの背景や現状、問題点などを調べ、それに対する自分なりの解決法や考えを相手に伝わりやすく、組み立てて表現するといった作業を要する。

「プレゼンスキルを身に付け、自らの考えを論理的にまとめていく経験を積む。それを中3の論文作成につなげていこうと考えています。実は本校は以前からその素地づくりに取り組んできています」と藤岡先生。

その一例が9年前から導入しているMC制度。MCは日直のことだが、

いわゆるなんでも係ではなく、リーダーとしてクラスの庶務を取り仕切る役割をする。このMCには朝礼あるいは終礼で、与えられたテーマで自分のスピーチが課せられている。「ですから、本校の生徒はこれまでも、人前で話すことには慣れていません。この数分のスピーチのためにプレゼンソフトで資料を作ってくる生徒もいます」と言う。

また、同校が力を入れる英語の授業でもプレゼンの機会が多い。英語科の岩元彩先生は言う。

「本校の英語は週7時間のうち5時間をネイティブ教員の授業が占めます。楽しい授業を心掛け、入学時点で英語に苦手意識を持つ生徒も、徐々に英語を話すことに抵抗がなくなり、ますます『間違ってもいいから話す』というのが普通になっていくのです」

そんな環境下で始まる中学の探究型授業は、教科の垣根を越えて教員が学びを支援することになる。大きな成果が期待される取り組みである。

いわゆるなんでも係ではなく、リーダーとしてクラスの庶務を取り仕切る役割をする。このMCには朝礼あるいは終礼で、与えられたテーマで自分のスピーチが課せられている。「ですから、本校の生徒はこれまでも、人前で話すことには慣れていません。この数分のスピーチのためにプレゼンソフトで資料を作ってくる生徒もいます」と言う。

また、同校が力を入れる英語の授業でもプレゼンの機会が多い。英語科の岩元彩先生は言う。

「本校の英語は週7時間のうち5時間をネイティブ教員の授業が占めます。楽しい授業を心掛け、入学時点で英語に苦手意識を持つ生徒も、徐々に英語を話すことに抵抗がなくなり、ますます『間違ってもいいから話す』というのが普通になっていくのです」

そんな環境下で始まる中学の探究型授業は、教科の垣根を越えて教員が学びを支援することになる。大きな成果が期待される取り組みである。

いわゆるなんでも係ではなく、リーダーとしてクラスの庶務を取り仕切る役割をする。このMCには朝礼あるいは終礼で、与えられたテーマで自分のスピーチが課せられている。「ですから、本校の生徒はこれまでも、人前で話すことには慣れていません。この数分のスピーチのためにプレゼンソフトで資料を作ってくる生徒もいます」と言う。

また、同校が力を入れる英語の授業でもプレゼンの機会が多い。英語科の岩元彩先生は言う。

「本校の英語は週7時間のうち5時間をネイティブ教員の授業が占めます。楽しい授業を心掛け、入学時点で英語に苦手意識を持つ生徒も、徐々に英語を話すことに抵抗がなくなり、ますます『間違ってもいいから話す』というのが普通になっていくのです」

そんな環境下で始まる中学の探究型授業は、教科の垣根を越えて教員が学びを支援することになる。大きな成果が期待される取り組みである。

School Data

〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
☎03-3910-6161
<https://sakuragaoka.ac.jp/>

- 創立 1924年
- 交通
 - JR京浜東北線「王子」駅から徒歩7分、東京メトロ南北線「王子」駅から徒歩8分
 - 都営三田線「西巢鴨」駅から徒歩8分
 - 都電荒川線「滝野川一丁目」停留場から徒歩1分
 - 「池袋」駅から都営バスで10分

コアネットの目

生徒の可能性を引き出し、個性を輝かせる学校▶学習面でのフォロー体制に力を入れている。卒業までの間に偏差値を26も引き上げた生徒も。国立大学やGMARCHをはじめとする難関私立大学への進学実績も年々伸ばしている。ICTを活用した英語教育にも定評がある。生徒の個性や自主性を育むプレゼン教育では、おとなしい生徒も積極的に。桜丘マジックにかかるのも悪くない。

Homepage



品川翔英中学校・高等学校

教育改革に取り組み
学び続ける「Learners」を育てる



上/1人1台タブレットを持ち、調べ学習からアクティブラーニング、家庭学習まで、さまざまな場面でICTを活用する。
右/生徒の好奇心を刺激し、「学び続ける意欲と能力」を、学び合いのなかで育てる。



上/演劇の手法を用いて、表現力、協働性、コミュニケーション力、多様性など非認知能力を学ぶ「ドラマエデュケーション」。



右/理科教諭で「Learner's Time」を担当する村上亜矢子教頭。

PBL(探究学習)はペアワークやグループワークを重視し、時間をかけて取り組んでいる。主体的な学びから、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も身に付く。



from the School

柴田哲彦校長

失敗を恐れず、失敗からたくさん学んでください。品川翔英は君たちを支えます!



非認知能力を引き出し 可能性の開花を促す

昨年度、女子教育80年以上の歴史を持つ小野学園が、校名を品川翔英中学校・高等学校へと変更。校訓も「自主・創造・貢献」に改め、男女共学校として新たなスタートを切った。これに伴い、大規模な教育内容の刷新が進められている。大鈍を振るうのは、これまで幾多の学校改革に携わり、民間企業でも活躍した経験を持つ柴田哲彦校長だ。

「変革のコンセプトは、学び続けるラーナーズ(Learners)学習者たち」の育成です。見通しの立てづらい時代をたくましく生き抜くには、与えられる教育に従うだけではだめ。新たな価値を創造し、社会に貢献できるラーナーであり続ける必要があります。子供たちが持つ見えない力、見えにくい力を最大限に引き出す教育へと、大胆に舵を切りました」

新カリキュラムの目玉は、水曜日午後と土曜日を使い、課題研究に取り組む中学の「Learner's Time(ラーナーズタイム)」。探究学習としては異例の週6コマを設け、生徒の可能性の開花を後押しする。グローバル企業が集中する品川の立地を生かしたファイルドワークも重視。企画担当の村上亜矢子教頭によれば、キャリア教育の一環として、インターンシップのある企業と協定し、国際ビジネスの世界に触れるなど、一歩踏み込んだ職業体験も計画中だという。活動の評価には、近年注目を集め

る「ルーブリック評価」を導入。自主性、協調性、やり抜く力など、数値では測れない非認知能力を見える化し、生徒と教師が学びの達成度を確認し合いながら、さらなる学習意欲を促していく。

学力面でのサポート体制も一新した。担任制を見直し、学年教師団がチームで担当し、多角的な視点で生徒一人ひとりの理解度・習熟度に目を配る。メンター制も採用し、進路や学習に関して生徒は自分が選んだメンターと、一年を通じて面談などで関わっていく。定期テストの廃止も変革の一つだ。代わりに小テストと単元テストを頻繁に行い、スモールステップで学習の定着度を確認しながら、計画的に学習する姿勢を身に付けさせる。

「本校の変革はすべて、生徒たちの多様性を尊重し、できるだけ多くの選択肢を与えるためのもの。自分の好き、や興味に向かって貪欲にトライしてほしい」と柴田校長。既存の枠にとらわれない、品川翔英の挑戦に今後も注目したい。

School Data

〒140-0015
東京都品川区西大井1-6-13
☎03-3774-1151
https://shinagawa-shouei.ac.jp/
●創立 1932年
●交通 ●JR横須賀線・JR総武線快速・JR湘南新宿ライン・相鉄線「西大井」駅から徒歩6分
●JR京浜東北線・りんかい線・東急大井町線「大井町」駅から徒歩12分

創価中学校・高等学校

Homepage



「誰も置き去りにしない」精神で
特色ある探究型授業を展開



中学の英会話では、3人の外国人講師がチームティーチングで授業。



創価大学理工学部の就職希望の学生が中学生に授業を行う理科実験教室。

from the School

江間宏治中学校校長

「創造性豊かな世界市民」の育成を目指し、中高6年間の探究学習を展開しています。



言語技術を体系的に学び
探究する力を伸ばす

「創造性豊かな世界市民の育成」というミッションを掲げ、知恵と勇氣、慈悲を持った人材を育てることを目指している。

「創価中学校では『対話力』、『課題を発見し解決する力』、『やり抜く力』、『貢献する力』の四つの資質・能力を育成する教育活動を展開しています」と江間宏治中学校校長。生徒たちが普段の生活で大切にしているのが、「誰も置き去りにしない」精神だ。

本年度からは中学校で新カリキュラムがスタート。目玉となるのが言語技術と探究学習を融合したハイブリッド型授業「言語・探究」だ。

「生徒たちが生きていくこれからの時代に求められるのは、主体的に課題を発見して解決する力と、互いを尊重し協働していく対話力です。そこで重要になるのが言葉論理的に運用するための言語技術ですが、実はこのスキルはこれまでの国語教育ではあまり重視されてきませんでした。ここをしっかりと学ぶことで、論理的思考や表現力が育ちます。さらに、思考力を鍛え創造力を育てる探究学習と組み合わせることで、創造性豊かな世界市民を育てたいと考えています」と江間校長。

言語技術では、つくば言語技術教育研究所の知見を基に、楽しみながら言語スキルを体系的に学んでいく探究学習では中1ではSDGsについて学び、中2では「教育と探求社」

の探究プログラム「クエストエデュケーション」にグループで取り組む。中3は個人の興味関心に基づいたテーマ設定を行い、卒業研究論文作成に挑戦する。

高校ではさらに学びを深め、社会や世界に向けての資質や能力を培う「世界市民探究ⅡGCIS（ジーシス）」に挑む。テーマは「私が世界を変えていく」。教科横断型の探究科を設け、価値創造や主体性、リサーチリテラシー、プレゼンテーションスキルなどを総合的に学ぶ。初年度となった昨年は、コロナ禍においてもオンラインでグループワークや専門家へのインタビューを行い、大きな成長を遂げたという。

「学びを通じて信頼関係をつくる力人を幸せにする力を育てたい。カリキュラムの内容以上に、友達とかかわり友達の課題と一緒に解決しようという姿勢が、本校の探究学習を特色あるものにしていきます」と高等学校の石野正好先生。

誰も置き去りにすることなく、友人と共に学ぶ6年間は、かけがえないものとなるだろう。

School Data

〒187-0032
東京都小平市小川町1-860 (中学校)
☎042-341-2611
<https://tokyo-junior.soka.ed.jp>
〒187-0024
東京都小平市たかの台2-1 (高等学校)
☎042-342-2611
<https://tokyo-senior.soka.ed.jp>
●創立 1968年
●交通 西武国分寺線「鷹の台」駅から徒歩10分

コアネットの目

充実した語学教育で実現する多様な進学実績▶言語技術の習得等、語学教育に力を入れている同校では、英語教育にも力を入れている。同じ教科書を異なる手法で1年間に5周学習するラウンド学習を実施。中学校卒業段階で英検®準2級を取得する生徒は70%を超えている。これらの成果は大学合格実績にも表れており、2020年度は国公立大学に22名、海外大学12名、早慶上理とGMARCHには50名が合格している。



帝京大学中学校・高等学校

少人数教育の強みを生かし
全生徒の学力アップを図る進学校



中高大連携の教養プログラムは、大学教授から話を聞き、勉強と研究の違いを知り、視野を広げる。



右/高1で実施される
ニュージーランド語学
研修は、参加率95%。
ホームステイをしながら、
現地で英語を学ぶ。
30年以上続くプログラムだ。



下/加藤教頭が顧問の
南米音楽部は、長年続く「
自称、日本唯一の部活」だ。



from the School

加藤哲也 中学教頭

Face to Faceの温もりに、
オンラインの利便性を加味して
バランスの良い教育を行います。



学習習慣を付けるための朝講座の取り組みをはじめ、
少人数制ならではのきめ細かな指導は、
生徒一人ひとりの学力を伸ばす。

学校主催の夏期講習や 朝講座で手厚くサポート

近年、東大・京大などの国立大や私立難関大への進学実績を着実に上げていく帝京大学中学校・高等学校。その背景には、中高合わせて生徒数約900人、1クラス約30人の少人数教育を生かした、きめ細かな学習指導体制がある。

中学の朝講座はその手始め。英単語・数学・漢字の小テストを実施し、基準点に満たない生徒は到達するまで再テストや補習が課される。

「小さな目標を立ててコツコツと勉強する学習習慣を身に付けさせることが狙いです。『中学の朝講座のおかげで、勉強すべきときは集中して勉強し、遊ぶときは気持ち良く遊ぶ、メリハリのある学校生活を送れた』という卒業生の声もよく聞かれます」と加藤哲也中学校教頭。

英語4技能のレベルアップを目指し、定期試験で実施されるスピーキングテストや、記述力・論理的思考力の育成を目的とした中3の卒業論文作成など、中学のうちから大学受験を見据えた学びも目立つ。

なかでも帝京大中高ならではの特色がよく表れているのが、全校生徒を対象に無料で実施される、学校主催の夏期講習だ。中1から高3まで、教科別、レベル別に多彩な講座を開講。中学では学年ごとに15〜20講座、高校では各人各様の要望に応じて、100講座以上を開講する年も。ほぼ100%の生徒が参加するという。

School Data

〒192-0361
東京都八王子市越野322
☎042-676-9511
<https://www.teikyo-u.ed.jp/>

- 創立 1931年
- 交通 ● 京王相模原線「京王堀之内」駅から徒歩23分
- JR中央線「豊田」駅、京王線「平山城址公園」駅、小田急多摩線・京王相模原線「多摩センター」駅からスクールバス

「塾や予備校と違い、生徒の学力を熟知した教員が指導に当たるため、一人ひとりの得意を伸ばし、苦手を克服する指導ができます」(加藤教頭)

高校では、卒業生が自らの経験を基にレクチャーする、進路講演会を実施。受験勉強に関する具体的なアドバイスから、合格体験談、実際の大学生活やその後のキャリアデザインまで、身近な存在である卒業生が親身になって語ってくれるので、進学に対する動機付けが固まり、学習意欲がいつそう高まる。

進学校でありながら、クラブ活動が盛んな点も、同校の大きな魅力だ。自らも南米音楽部の顧問を務める加藤教頭が次のように語る。

「他校にはないユニークな部活が多いのが特徴です。中高の部活を通して、コミュニケーション力、すなわち人間力を磨き、関係が一生続く良き仲間をつくってほしいですね」

勉強一辺倒ではない、おほかたでアットホームな校風。それもまた保護者の信頼を集める理由の一つだ。

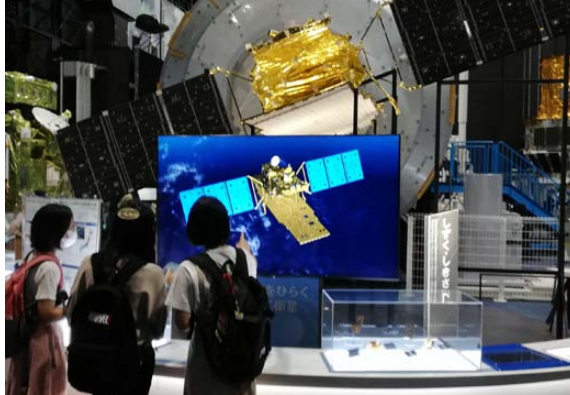
コアネットの目 自然豊かな環境と丁寧な学習フォローで着実に成長できる▶この学校の注目すべき点は、中学入学時から卒業までの6年間で学力が大きく伸びることだ。先生たちの生徒第一主義の姿勢が生徒との信頼関係を築いており、朝講座はじめ、きめ細かな指導システムの下で生徒の学力が着実に向上する。そして、充実した多くの学校行事は一生の宝物となるだろう。

東京農業大学 第一高等学校中等部

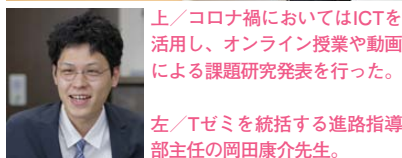
Home page 
**学びを広げる「一中一高ゼミ」に
 最難関校の受験対策ゼミを開設**



「一中一高ゼミ」の「探求学習 with JAXA」は、JAXAの職員を講師として、昨年度からスタート。筑波宇宙センターの見学や、自ら選んだテーマでチームごとに調べ学習を行い発表した。



学外のコンテストやコンクールに積極的に参加。第64回日本学生科学賞大会(中学の部)では、生物部の2チームが同時に優秀賞に輝いた。研究テーマは、「イチヨウ黄葉と年輪幅変動の相関」と「キングヨ稚魚の赤が濃くなる環境」。



上/コロナ禍においてはICTを活用し、オンライン授業や動画による課題研究発表を行った。

左/Tゼミを統括する進路指導部主任の岡田康介先生。



「本物に触れる」をテーマにした体験学習。中1では厚木にある専用農場で稲作を体感する。



from the School

進路指導部部长 奥田修司先生

「一中一高ゼミ」も「Tゼミ」も、興味関心を育て、将来につながる学びの経験を大切にしています。



**同じ志を持つ仲間を知り
切磋琢磨する環境づくり**

教育理念の「知耕実学」は、本物に触れる「実学」を通して、自らの「知」を「耕す」人間力を養うこと。さまざまな分野の課題研究や国際教育、理科実験に力を注ぐ。一方、「稲作」や「お米の科学」「味噌作り」「醤油を科学する」など、大学と連携した本物に触れる体験学習も多い。また、学年・教科の枠を超えた課外授業「一中一高ゼミ」も、同校の特色で、実学の学びを舍らしない。

「『知を広げる』『知を深める』を目的に、教員が得意とする分野のテーマで開講し、希望する生徒が自由に参加できます。講義だけでなく、表現力を育成するためにディベートやプレゼンテーションを行うゼミもあります」と進路指導部部長の奥田修司先生。

「放課後や長期休みに開催しています。個々の興味・関心から知識・教養の幅を広げてもらうことが目的」だという。

専門的なゼミから「ロックンロール入門」や「映画・ドラマに学ぶ現代思想」など趣味的なもの、JAXA(宇宙航空研究開発機構)と連携した探究学習ゼミまで内容は多彩だ。

最近の話題は、この「一中一高ゼミ」に「Tゼミ」が加わったことだ。東大・京大などの最難関大学を志望する高3に向けた特別ゼミ。志望大学に合わせた受験対策を行い、記述・論述問題の対策では1対1の添

削指導もする。

「受験対策は合格のためだけでなく、自身の将来像を明らかにしていく作業でもあります。目標を持って学ぶ自覚を高めてほしい」と奥田先生。一方、「Tゼミ」で国語を担当する岡田康介先生は、「同じ志を持つ仲間がいることを知ってほしい」と語る。

「近年、東大や京大を志望する生徒が増えています。ほかにも内心、最難関校を目指したいという生徒も少なくないはず。その仲間の存在を知られば切磋琢磨できるし、追隨する生徒も出てくるはず。最難関校に臆せず挑戦する気概を育みたいと思っています」

併せて、最難関校入試と同レベルの校内模試「D模試」も実施。試験後にはその解説も行う。「D模試」は高2以下の生徒も受けられる。「一中一高ゼミ」による学びを深め、広げる土壌から「Tゼミ」へ。次なるステップの展開が進んでいる。

School Data

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-33-1
 ☎03-3425-4481(代)
<https://www.nodai-1-h.ed.jp/>

- 創立 1891年
- 交通
 - 小田急線「経堂」駅から徒歩約15分
 - 東急世田谷線「上町」駅から徒歩約15分
 - 東急田園都市線「桜新町」駅から徒歩約20分
 - 東急田園都市線「用賀」駅、JR「渋谷」駅の各駅から東急バスか小田急バスで、「農大前」または「農大一高前」下車、徒歩約3分

コアネットの目

2021年春、過去最多の難関私立大の合格実績を更新した注目校▶今春、早慶上理GMARCHに425名と、過去最多の合格実績を更新した同校。コロナ禍においても、双方向のオンライン授業や、メールでの質問対応など、先生のきめ細かな対応で、生徒の学びを止めることなく前進し続けてきたことが大学合格実績の躍進につながっている。進化する「広く深い学び」の実践にも期待。



Homepage



桐光学園中学校・高等学校

男女別学の良さを堅持する進学校 探求を知る「大学訪問授業」に特色

上/全生徒がクロームブック(ノートパソコン)を1台ずつ持ち、アクティブラーニングなどICT教育を実践する。
左/独自の「TOKO SDGs」を策定したTOKO SDGs委員会では、各項目に関して知識を得て、自分の意見を考え、意見交換をすることで、生徒自身が主体的に学んで自己を高める。



右/2019年にインターハイ優勝を果たした高校サッカー部。中村俊輔選手などを輩出。クラブ活動も盛んだ。



下/年間約600もの講習が用意されている。希望や目的に応じて受講できる。



羽生善治氏、池上彰氏、谷川俊太郎氏ら、さまざまな分野で活躍する講師による「大学訪問授業」。他校にはないプログラムだ。



from the School

中野 浩学校長

「好きなこと」は、逆境も乗り越えさせてくれる一生の宝物。6年間でそれを見出してほしい。



知識の使い方を実践する「TOKO SDGs」

「他者との関わりのおかげで自己を高めていこう」「失敗を恐れず失敗から学んでいこう」「一生続けられる好きなことを見つけよう」

この三つを教育目標に掲げる同校は毎年、難関校を含む国立公立大学の合格者を多数送り出している進学校。2018年には創立40周年を迎え、ICT導入、全面人工芝サッカー場やメイキングラウンドなどの学校環境が更新された。

授業は男女別学、学校行事や委員会、文化部などは男女共同。「男子校、女子校、共学校の良さを兼ね備えた学校」と中野浩学校長は言う。

「成長過程では、男女それぞれに特性があります。男子は全体をおおよそ把握させて、そこから細かく教えていくと理解しやすい。女子は逆に少しずつ積み重ねをしてまとめていく勉強法が向いています。それぞれ特性に合わせたほうが、生徒も教員も無理がなくて効率的なのです」

そんな同校の特色のひとつが「大学訪問授業」。多様な学問分野における第一人者を招いて行われる体験授業だ。希望者が対象だが、年間20回以上も開催、その内容を書籍化しているという例はほかにない。講師も有名大学の教授をはじめ、ノーベル化学賞の根岸英一氏、新国立競技場設計の隈研吾氏、俳人の夏井いつき氏など錚々たる顔ぶれだ。「生徒たちの心に引っかかり傷をつけ

る」のが、この授業の狙いだと同野学校長。「講話の全部がわからなくてもかまわない。講師が何に興味を抱いてその分野を選び、何を求めているのかを体感してほしい」と言う。この授業が進路や将来の指針になったという生徒が少なくない。

さらに、これも他校に例を見ないのが「TOKO SDGs」の導入。2015年に国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の中高生版を独自に策定。「生徒と教員と一緒に、課題の抽出から解決法までを考えていく授業」として、放課後の講習に取り入れた。本格的なスタートは今年度からだだが、準備段階で設けたTOKO SDGs委員会には、中1から高3まで予想をはるかに超える200人の応募があった。

国際的な行動指針となるSDGs。中野学校長は「知識を蓄えるだけではなく、蓄えた知識を使う経験、そして他者を認め、他者と協働して課題を解決する姿勢を、将来を担う生徒たちに植え付けたい」と言う。今後は、TOKO SDGsを「大学訪問授業」や教科の授業とも結び付けていこうとも考えている。

School Data

〒215-8555
神奈川県川崎市
麻生区栗木3-12-1
☎044-987-0519
http://www.toko.ed.jp

- 創立 1978年
- 交通 ● 小田急多摩線「栗平」駅から徒歩約12分
- 京王相模原線「若葉台」駅、小田急多摩線「黒川」駅からスクールバス運行

生徒の興味・関心を刺激する機会が豊富▶同校では、生徒自らの意思で選び受講する「講習制度」がある。「(地理的な視点による)フィールドワーク」「エルガリを弾こう」「実験!化学合成研究室」といった、知的的好奇心や探究心の喚起を目的としたユニークな講習のほか、「現代文 東大添削講習」「理科 東京工業大学対策」「英語 共通テストリスニング」といった学力向上、大学入試対策を目的とした講習まで、幅広く開講している。

Homepage



日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校

付属校ならではの6年間で
着実に英語力を身に付ける



上/中1の国際理解教育でのオンライン英会話。
左/校内で行われた「国内語学研修」。各教室に分かれ、留学生を迎えてグループ学習を実施。



高1では付属校の強みを生かした高大連携授業を実施。希望に基づき大学の授業を受ける。

右/恵まれた環境を生かしたフィールドワークも魅力。中1では畑の整地から野菜の栽培、収穫までを体験。



下/中2のフィールドワークは食品加工や畜産を体験する。専門知識を持つ大学スタッフの協力による。



400mトラックに1200席の観客席を設けたNFグラウンド。



from the School

英語科主任 松村美和子先生

誰もが英語を好きになり、英語によって視野が広がるような教育をしたいと考えています。



多様なアプローチで国際理解力を育む

キャンパスに足を運ぶと、恵まれた環境に圧倒される。日本大学生物資源科学部を含む広大な湘南キャンパス（東京ドーム12個分）には最新設備が揃い、大学施設を利用した自然科学系のフィールドワークなども体験できる。

一方、近年力を入れているのが英語教育と国際理解教育だ。中1〜高3まで段階ごとに最適なカリキュラムを練り、課外活動や研修・留学、資格取得支援まで含めた多層的な教育が行われている。英語科主任・松村美和子先生に詳細を伺った。

「まず中1では基礎基本を徹底。聞く・話す・読む・書くの4技能を丁寧に学んでいきます。今年度より中1でも週1回習熟度別少人数授業を実施しています。重要視している音読も音声ファイルで提出できるようになりましたので（19年にChromebokを導入、一人ひとりの力、課題がしつかりとらえられるようになりまし

た」
中1でつまずくと苦手意識を持ちがちな英語だが、最初の一步は自信を失わずに進ませる。そして、ある程度力が付いた12月の段階で、「国際理解教育プログラム」に参加。これは、ネイティブ教員による集中授業で、一日6時間英語だけで過ごす2日間。ゲームや映画を楽しみながら、言語はコミュニケーションの道具だと実感させることが狙いだ。

この「国際理解教育プログラム」を土台にして、中2からはネイティブ教員による英会話授業がスタート。ICTも活用した濃密かつ興味深い授業が週に1回あることで、教科としての英語が難解になってきても、「英会話が好き」という生徒がほとんどだという。

また、同校は英検®の準会場であるため、いつもの教室で受験できるのも利点。希望者には対策講座も実施し、中学卒業までに準2級、高校卒業までに2級以上の取得を目指すスコア型の検定としては、中2、中3全員がGTECを受検している。

「昨年海外研修は実施できなかったが、「できることはやっていこう」と、感染症対策を万全にして「国内語学研修」（中3〜高2対象）を実施。留学生を迎えたグループワークに、参加生徒の満足度は100%。日常とは違う時間から生まれる達成感は格別だったようだ。

「これからもさまざまな教育機会をつくっていききたい」と松村先生。ソフトもハードも揃った大学付属校への期待は大きい。

School Data

〒252-0885
神奈川県藤沢市亀井野1866
☎0466-81-0125
(中学校)
☎0466-81-0123
(高校)
<https://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp>

- 創立 1949年
- 交通 小田急線「六会日大前」駅から徒歩約8分

コアネットの目 フィールドワークを通した本物の学びが、主体的な学びの土台に▶付属校でありながら、約半数が外部進学。国公立大、難関私立大の進学実績も伸ばしている。日本大学への進学を希望した生徒の進学実績は98%。なかでも獣医学科への進学実績は付属26校中1位と、理系が強いのも特徴だ。付属校の環境を生かしたフィールドワークは、生徒の知的好奇心を刺激し、目的ある学習者を育てている。

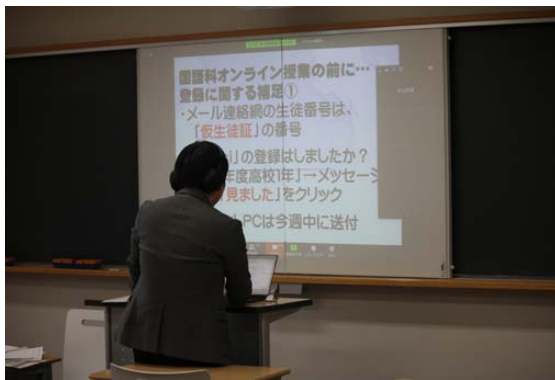


文教大学付属 中学校・高等学校

自ら学び方を見いだし、6年間で
将来を切り拓く力を身に付ける



上/先生方も生徒たちも電子黒板やタブレットを使いこなし、充実したICT教育が展開されている。
左/部活動は同好会も含めて約30ある。写真はダンス部。



コロナ禍のなかでも、昨年の4月中旬からZoomやYouTubeを駆使してオンライン授業を開始。さまざまな場面で、ICT教育の成果が出た。

from the School

銅谷新吾校長

建学の精神である人間愛の心を持ち、未来の社会に貢献できる人材を育てます。



キャンパスは、「PORT(港)」がコンセプトになっている。写真は、食堂のある「East Port」。

学校改革の成果を礎に 一つ上のステージへ

「自分を慈しむのと同じように他者を愛し、思いやりを大切に人間を育てたい。困難な時代だからこそ、校訓である『人間愛』を礎とした本校の教育方針が、ますます重要になっていくと考えます」

今年度、文教大学付属中学校・高等学校の新校長に就任した銅谷新吾先生の言葉だ。

同校はこの10年間、学力の底上げを目的とした放課後学習支援制度、キャリア教育やグローバル教育の充実化など、さまざまな分野で学校改革に取り組んできた。

生徒の「主体的な学び」のツールとして導入したICT活用も柱の一つだ。その成果が昨年4月、顕著に表れた。緊急事態宣言発令から6日後の13日、早々とオンライン授業を開始。ICTを導入した学校のなかでも、飛び抜けて早い対応だった。「中高の1、2年生にタブレットが行き渡っていたこともありすが、すぐさまオンライン授業のカリキュラムが組めたのは、それより以前から、全教員がICT教育の研修を重ねてきた成果です。臨時休校中でも生徒に学校への帰属意識を持たせ、主体的な学びを促す。その両面でICTの存在意義を実感できました」

オンライン課外活動も活発化した。例えば、Zoomを使った「先生の趣味講座」にはクラスの枠を超えて多くの生徒が集い、オンライン文化

祭では中1から高2の全クラスが参加し、自由なテーマで動画を制作。特設サイトで配信した。また、受験生の保護者に向けて、Zoomを使用したオンライン学校案内・施設見学も実施。どの企画も生徒たちの発案したものだ。

10年間の学校改革の成果を礎に、同校は、生徒の主体性をさらに伸ばすことを目標として、次なるステップへ向けて、新構想プロジェクトに取り組んでいる。キーワードは「発見力・思考力・行動力・探究力・表現力の五つの文教コンピテンシー」だ。「今までのように、教わって力を付けるのではなく、自分自身で学び方を身に付けるためには、この五つの力をさらに伸ばしていく必要があります。今後、各科目の授業、グローバル教育、キャリア教育、学校行事とあらゆる教育活動に落とし込んでいきます」と神戸航副校長。

将来、社会に貢献できる人間になるには、いかに学んだらいいのか。その答えを自ら発見する文教大学付属中高の6年間は、未来を切り拓く道しるべとなるだろう。

School Data

〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
☎03-3783-5511(代)
<https://www.bunkyo.ac.jp/jsh/>

- 創立 1927年
- 交通 ●東急大井町線・東急池上線「旗の台」駅から徒歩約3分
- 東急大井町線「荏原町」駅から徒歩約3分
- 都営浅草線「中延」駅から徒歩約8分

法政大学第二中・高等学校

Homepage



10年一貫教育で未来を見据える
大学付属校の豊かな学び



左／中学理科では実験を重視。中1では1人で2種類の顕微鏡を利用する。使い方から丁寧に指導される。

下／調べ、討論し、発表する力を育成する拠点となる図書館。自習室でプレゼンの練習。



中3の研修旅行はこれまで4つのコースに分かれていたが、今年度から広島に統一。平和と地方文化について探究する予定だ。

右／国際交流委員会を設置。世界各地から受け入れている留学生のサポートや、海外の中高生との交流、途上国への支援活動などの拠点となっている。

下／フェンシング部は中高合わせて70名近い部員が所属。創部は1952年。全日本チャンピオンも多く輩出している名門だ。



from the School

五十嵐 聡校長

勉強にのめり込む、部活で頑張る、趣味を究める等々、様々な友人との出会いがある学校です。



自主・自立の精神を育む 教科学習とクラブ活動

共学校化から6年目、全学年に男女生徒が揃った法政大学第二中・高等学校。大学接続は有資格者全入制（成績と英語外部試験などの評価）で、毎年およそ90%の生徒が法政大学に進学する。中高大一貫教育ならではの学びの深さ・幅広さ、体験の豊かさが同校の最大の特色だ。

なかでも基礎学力をしっかりと固める段階の中学校を重視。1クラス30人以下の少人数編成で、日々の教科学習そのものを充実させている。「たとえば理科は実物に触れて考えることを大切にしています」と理科教員でもある五十嵐聡校長。中学理科は3年間で70回以上の実験を行い、1クラスに教員2名がつく手厚さだ。「いつも想定どおりの実験結果が出るわけではなく、大事なのはなぜ教科書とは違う結果が出るのかを考えること。毎回実験ノートを提出してもらいますが、生徒の考察から教員が学ぶことも少なくありません」

ほかにも、数学では立体模型を作製するなど、手を使って思考力を深める授業が展開されている。

「今年度から中学での総合の時間を見直しています。中1では情報リテラシーやパソコンの基礎、図書館の使い方など探究型学習の土台を築こうという狙いです」

また、これまで目的地選択制だった中3の研修旅行を広島に統一。テーマを決めての事前事後学習を拡充

するように変更した。

一方、同校に入学する生徒たちの多くが期待を寄せているのがクラブ活動であろう。中学でスキー競技、フェンシング、硬式テニスなどが設置されている学校は希少だ。陸上、バドミントンなど含め、全国レベルで活躍している部も多い。外部コーチなど指導者の体制が厚いのも魅力だが、特筆すべきは部活動も生徒会組織の一部として生徒主体で運営されていることだ。部長・副部长・マネジャーは部の幹部としてマネジャー会議等に出席。部同士の連携や交渉などにあたるという。「生徒会活動が活発に機能しているのも本校の特長で、先日は生徒会がとったアンケートを基にオンライン授業について学校側に要望が出されました」と五十嵐校長。それもまた同校の校風「法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」が育まれている一つの証しかもしれない。

School Data

〒211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町6-1

☎044-711-4321 (代)

http://www.hosei2.ed.jp/

- 創立 1939年
- 交通
 - JR南武線「武蔵小杉」駅西口から徒歩約12分
 - JR横須賀線（総武快速線・湘南新宿ライン・相鉄線直通）「武蔵小杉」駅横須賀線口から徒歩約15分
 - 東急東横線（みなとみらい線・東京メトロ副都心線・東武東上線・西武池袋線直通）、東急目黒線（東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道・都営三田線直通）「武蔵小杉」駅南口から徒歩約10分

コアネットの目

運動部だけじゃない、世界大会出場実績もある文化部も活躍 ▶ 法政大学第二中・高等学校というと、ゴルフ部、ハンドボール部、フェンシング部ほか運動部の華々しい活躍が目立つが、文化部も充実。世界大会出場実績のある物理部や全国大会優勝実績のある放送部なども活躍している。10年一貫教育の、好きなことを存分に追求できる環境で、自由な学びができることも魅力のひとつだ。



立正大学付属 立正中学校・高等学校

毎朝の「読む、書く、話す」で
考える力を養う「R」プログラム



「R-プログラム」では、コラムリーディングと1分間スピーチを行い、「調べる」「読み取る」「表現する」の3つの力を磨く。学年が上がるにつれて、社会的、時事的、道徳的なテーマに向き合い、データ分析にも取り組む。

全教室に電子黒板を設置し、ICT機器を活用した授業を行っている。対話型のアクティブラーニングでは、生徒たちは楽しみながら、より集中して学べる授業が展開されている。

from the School

大場一人校長

学習者用デジタル教科書の導入に備えてICT環境を整え、活用の研究も進めています。



充実した設備のなかで多くのクラブが活動中。写真は、2019年度に関東大会に出場した弓道部と立正祭での書道部のパフォーマンス。



高校教頭で進路指導部長の平林重郎先生。



中学教頭で教務部長の島村雄一先生。



新型コロナウイルス禍への対応で 個別指導がより綿密に

教育目標は「仲間とともに、社会のために。自分の力を発揮する人を育てる」こと。「行学二道」を建学の精神とし、100年を超える歴史を持つ伝統校の立正大学付属立正中学校・高等学校。同校の特色のひとつは、2013年から継続している「R」プログラム。これにより、生徒の学びが深まりを見せている。「R」プログラムは、Research（調べ）、Read（読み取る）、Report（表現する）のスキルを伸ばすことが目的。新聞の社説やコラムなどを読み、自分の言葉に置き換えて文章化し、皆の前で発表する。

毎朝20分間のショートホームルームに実施され、テーマによってはロングホームルームに引き継がれて、より考察を深めることもある。「学力の基礎は国語力です。『読む、書く、話す』一連の作業は、すなわち『考える』こと。社会生活に欠かせないスキルです」と大場一人校長。中高生の読解力低下が懸念されるなか、試験問題を素早く正しく理解するためにも必要なトレーニングを、生徒の日課としているのだ。

「読解力、表現力が身に付くだけではなく、他者の話に耳を傾ける姿勢、多様な考えを受け入れる感性も身に付きます」とは、このプログラムを開発・推進してきた島村雄一中学教頭。探究学習のグループワークなどにも、その力は反映されるという。

School Data

〒143-8557
東京都大田区西馬込1-5-1
☎03-6303-7683
https://www.rissho-hs.ac.jp/

- 創立 1904年
- 交通 都営浅草線「西馬込」駅から徒歩約5分

一方、同校はICTの導入も進んでいる。昨年度来のコロナ禍における短縮授業、リモート授業に役立つが、「R」プログラムも継続され、そこに発見があった。

「例えば、新型コロナウイルス感染者に対する差別。生徒の文章を添削・評価するだけではなく、そこからテーマについて個別に対話する機会が、ICTの活用で増えました」

不測の事態に陥ったときこそ、人に倫理が問われる。「では、どうすればいいのか」と個別にやりとりし、生徒と一緒に考える意義は大きい。

また、同校は感染リスクを抑えるため、昼食なしで一日の授業を終える短縮授業を実施したが、そこでも新たな展開があった。進路指導部長の平林重郎高校教頭は言う。

「時間短縮で生徒の集中力が高まりました。加えて、授業の演習部分を在宅でのリモート学習にすることで、より細やかに個別指導ができる環境が整いました」

逆境にあつての成長。それを同校は、教育環境の充足に向けて生かそうと取り組んでいる。

コアネットの目 安心して任せることができる、複数の目で生徒を見守る学校▶同校では、クラス担任、教科担任、クラブ顧問等、複数の目で生徒一人ひとりに気を配り、徹底的に面倒を見る。もしも悩みがあれば、生徒だけでなく、保護者もカウンセリングの先生に話ができる環境がある。さらに、ICT機器を活用して気軽に相談することもできる。安心して通える環境だからこそ、生徒たちは得意なことを伸ばし、夢に向かっていくことができるだろう。

West 関西

大阪府、兵庫県

私立ならではの教育が魅力の関西の中高一貫校19校





上/昼夜兼行で歩き通す「100km歩行」。



左/主体的・対話的な深い学びを実現するアクティブラーニングを行っている。



毎日の朝礼で「講話」をする平岡校長。コロナ禍の昨年は全生徒のグラウンド整列は取りやめ、教室自席にて校内放送で講話を聴く形に。



クラブ活動も盛ん。インターハイに出場している新体操部は、国公立大学進学も果たす文武両道のクラブだ。



インターハイで何度も優勝しているヨット部。在学中に世界大会へ出場した卒業生もいる。

Homepage



正しい倫理観とブレない軸を持つ
人間教育こそ、清風の教育

清風中学校・高等学校

from the School

平岡宏一校長

信頼され、人のために力を発揮できる人物を育てることが、本校の教育の使命です。



「自利利他」の精神に 基づいた高い志を育成

創立以来、仏教を基盤とした人格形成を教育方針とする清風中学校・高等学校。難関大学への高い進学実績とともに、クラブ活動も非常に盛んな文武両道の学校として知られる。そしてかつてない激動の時代、同校の人間教育に注目が集まっている。「教育の根幹は人を育てることではないでしょうか。思いやりのある人、正しい判断力を有する人、鋭い断行力を発揮できる人を育てることは、時代に左右されることのない普遍的なものです」と語る平岡宏一校長。

勉強の目的は大学進学だけではない。何を学び、どのような人物になりたいか、その志が大切なのだという。「当校の教育の根底にある『自利利他』の精神とは、人のお役に立つために、自分を高めたいというものです」。自分の利益ばかりを追求してしまう視点を他者に向けたとき、心豊かな人生を送るための目標が見つかる。この自分の高め方として受け継がれるのが、「核心に触れるまで努力する」という言葉。

「他者のために力を尽くせるよう、核心に触れるまで努力して自己を高める。それこそが自利利他の精神であり、今、求められるグローバル人材の定義そのものなのです」

高野山真言宗僧侶でもある平岡校長は、毎日の朝礼で「講話」を行う。年間200回、清風の教えが生徒の心に浸透するように、自身が体験し

たエピソードを織り交ぜながら語りかけている。「頭ごなしに押し付けるのではなく、納得するまで繰り返すことによって、生徒のなかに高い倫理観が育まれ、生きる姿勢が変わってきます」。「正しい倫理観とブレない軸」、それを6年間かけて身に付けさせるのが、清風の教育であり、こうした揺るぎない教育方針は、生徒たちの目標の実現に大きく寄与している。

また清風は行事に熱心に取り組むことでも有名だ。中学3年間で60以上の行事があり、これにより自主性・協調性・体力をバランスよく備えた「人間力」が養われる。「100km歩行」という行事では、昼夜兼行で学校から高野山まで、先人が歩んだ道のりを体力と気力をふりしぼって進む。「生徒たちの間には一体感と厚い友情が芽生え、同行する先生たちへの信頼感が生まれます。困難を乗り越え、達成感を得る体験こそ、生きる力の根源となるものです」。不安定な現代に求められる人間教育がここにある。

School Data

〒543-0031
大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16
☎06-6771-5757
<https://www.seifu.ac.jp/>

- 創立 1945年
- 交通
 - 近鉄・阪神なんば線「大阪上本町」駅から徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅から徒歩約7分
 - JR大阪環状線「鶴橋」駅から徒歩約12分

コアネットの目

激動する時代にこそ骨太な人間教育の厚みが活きる▶大阪を代表する文武両道の男子校として、仏教に基づく人間教育と進学実績に定評がある。毎朝の校長講話が浸透し、生徒一人ひとりに高い倫理観、ブレない軸が生まれる。数々の行事で困難を乗り越えた体験も、人生を切り拓く力になるだろう。

甲南女子中学校・高等学校

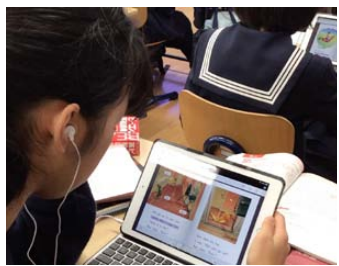
Homepage



未来を生きる力を育む
名門女子校「102年目の決意」



グラウンドを全面人工芝に改修。神戸の海を見下ろす閑静な立地が自慢だ。



上/中2は広島で平和学習を行い、現地の人との対話を重視し、視野を広げ、学んだことを発表する。
左/授業支援ソフトを活用し、双方向授業を活性化。タブレットを道具として活用している。



自分に限界を設けず、何事にも挑戦する姿勢があらゆるところで見られる。

from the School

中林千景副校長

自分たちはなんでもできる。中高生の間にその自信を身に付けられるのが女子校の良さです。



自分で集めた情報を基に、表現できる人材を育成

昨年、創立100周年を迎えた甲

南女子中学校・高等学校。社会で必要とされる品位を持ち、個性を放つ自立した女性を輩出し続ける伝統校であると同時に、時代を見据えて教育を進化させ、いつの時代も魅力的な校風をつくっている。

国公立大学を目指す「Sアドバンスト」、甲南女子大や国公立大・私立大など幅広い進路に対応する「スタンダード」の2コースからなり、それぞれの進路にフィットした学習体制を敷く。近年は東大、京大、阪大などの国公立大学や医学部へ毎年合格者を出すなど、進学実績も目覚ましい成果を挙げている。

建学の精神「まことの人間をつくる」はそのままに、変わりゆく時代の価値観に合わせてアップデートを続ける学習環境も魅力のひとつだ。今年から一人一台のタブレット環境を整え、「Google Workspace for Education」や授業支援システム「MetaMoji Classroom」を導入して多くの教科で使用。コロナ禍の休校中も協同学習が可能になった。

「今は教師から与えられたものをこなすだけでなく、自分に足りないものは何かを考え、自主的に取り組むべき時代。だからこそ自己判断できる生徒を育て社会に送り出したい」。副校長の中林千景先生はそう語る。さらに同校では「あえて二兎を追う」とも。「学校生活、部活、行事も勉

強同様に一生懸命取り組んでほしい。それが人間性を涵養します。社会で仕事をして貢献するには、両方が必要です」

多様な文化的背景を持つ人々と円滑なコミュニケーションがとれる力の育成にも注力し、その下地づくりとして相手の立場を考えながら自分の気持ちや意見を率直に伝える訓練「アサーション」を、中学生に実施。中2以降の総合学習では「平和」「環境」などについて自分たちで課題を設定し、調べ、発表していく。これはグループワークで進められ、仲間と力を合わせて成し遂げる力や、チームのメンバーに影響を与えるリーダーシップの育成など、今の時代に必要とされる学びを目指す。

「究極の目標は自立した女性を育成すること。生徒は自分に限界を設けることなく、やりたいことに向かって伸びてほしい」。6年間で自らをつくり、自らへの理解を深めることで、目まぐるしく変化する時代を、自分らしく、たくましく生きていくことができる。「自立した女性の育成」、それは次の100年も揺らぐことのない甲南女子の誇りだ。

School Data
 〒658-0001
 兵庫県神戸市東灘区森北町5-6-1
 ☎078-411-2531
<http://www.konan-gs.ed.jp/>
 ●創立 1920年
 ●交通 ●阪急神戸線「芦屋川」駅から徒歩約15分
 ●JR神戸線「甲南山手」駅から徒歩約10分



上/自分のため、人のために頑張っている生徒の行いを見逃さず、校長の名前で生徒の自宅に送られる小さな表彰状「プライドカード」。

左/年間行事も多彩。3学期には箏曲部の演奏をはじめ、読み手、審判もすべて生徒が行う百人一首大会も。

Homepage



「美意識」を育む教育
考える力と表現力を身に付け

樟蔭中学校・高等学校



右/クラブ活動に集中できる環境を整えた「身体表現コース」。ダンスと新体操、バントワリング、ボンボンチアの4つのクラブがあり、全国レベルを誇っている。



下/毎朝10分間、朝の学習として音読や百マス計算などを行う。心を落ち着かせる効果があるという。



上/生徒たちが自主的にウガンダ支援の活動を行う「ウガンダプロジェクト」。

左/国際教養コースではICT教材も活用しながら豊富な英語授業が用意されている。



from the School

楠野宣孝校長

生徒が自分の中に確固たる判断基準＝美意識を持ち、それを表現できるように育てていきます。



さまざまな体験が
美意識を向上させる

大正期、船場の子女に教育を受けさせたいとの機運が高まり、樟蔭学園の礎を築いた森平蔵は、私財を投じて私立の高等女学校を設立。戦後の学制改革などを経て、幼稚園・中学校・高校・大学・大学院からなる女子の総合学園として発展した。「当校のモットーは「知・情・意を兼ね備えた女性を育む」。高い知性と豊かな情操を備え、強い意志を持った女性を育てることです。知性だけでは、人に影響を与えることはできません。そこで求められるのが情、つまり豊かな情操です」。そう語る楠野宣孝校長。

豊かな情操や強い意志を持つこと、すなわち独自の判断基準を育むために「美と表現」を教育の指針とし、さらに「美意識」というキーワードを挙げる。ここでいう美意識とは表層的なものではなく、すべての事象に対する価値判断を指す。一人ひとりが確固たる判断基準を持ち、それを美意識として育てていく。

具体的な取り組みとしては、陰徳を積み、それを教員が認め、褒め育てる教育がある。そのひとつが、生徒の小さな頑張りに対して贈られる「プライドカード」という表彰状の郵送。こつこつ努力を続ける生徒を称えたいと8年前から始め、発送数は間もなく3000通に達する。些細な頑張りや変化を見逃さずに褒めることで、普段は目立たない生徒も

School Data
 〒577-8550
 大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
☎06-6723-8185
http://www.osaka-shoin.ac.jp/
 ●創立 1917年
 ●交通 ●近鉄奈良線「河内小阪」駅から徒歩4分
 ●JRおおさか東線「JR河内永和」駅から徒歩5分

自己肯定感を高めることができ、それが美意識の萌芽となる。中学校では、英語教育が充実し、国公立・難関私立大学への進学を目指す「国際教養」、基礎学力を定着させ、大阪樟蔭女子大学や有名私立大学へ進学する「総合進学」、個々の能力や個性を伸ばし、豊かな感性と人間性を培う「身体表現」の3コースが設けられ、生徒のさまざまなニーズに応えている。ユニークなのは3コースの生徒がクラスに混在すること。国語・数学・英語以外はクラス単位で授業を受け、毎年クラス替えもある。

同校ではボランティア活動にも積極的だが、これも美意識の表現といえる。創立100周年にスタートした「ウガンダプロジェクト」が発展し、ボランティア活動に取り組み有志の団体CSAを結成。学校周辺の清掃からウガンダ支援のための文房具回収・寄贈や募金活動などを自主的に行っている。目的を見つけ、何をするべきかを考え、行動に移す。こうした取り組みが、一人ひとりの資質を引き出し、高い美意識を育てていく。

Homepage



追手門学院 大手前中学校・高等学校

先進的な授業改革を推進
自ら学ぶ力と探究力を育む



大阪市の中心、大阪城の三の丸跡に位置する同校。前身である大阪借行社附属小学校がこの地に設立された歴史を持つ。



火曜から金曜の6時限終了後の25分間と、土曜の3時限の50分間をOM(追手門モジュール)として設定。iPadを使った振り返りや自学自習、担任とのキャリアカウンセリングなどにあてている。



自主的に取り組むテーマを設定し、仲間と力を合わせて解決に向けた道筋を立てていくプロジェクト型授業。プレゼンテーションで発表し、クラス内で意見を交換する。



詰め込み型の授業とは異なり、生徒同士が共に考え、意見を交換して主体的学びを深めていく。

from the School

主幹教諭 福島哲也先生

教員は伴走者。一人ひとりに合った学び・サポートを実践し、未来を切り拓く力を培います。



「学び合う」集団をつくる 個別最適化授業を実践

2020年に創立70周年を迎えた同校。教育理念「独立自強・社会有為」に基づき、礼儀・礼節や素直な心を育む伝統の「志の教育」を継承しながら、学校改革を推進する。その核となるのが学校コンピテンシー(資質・能力)。「For me」「For you」「For us」の三つの観点に分類し作成した学校コンピテンシーは、最上位目標の「探究力」を育む指標となっている。

学校コンピテンシーを育むために、教科や学年、学校、文化の違いなどの枠を超え、豊かな発想やアイデアと未来への「志」をつくる学びを通して、自ら問いを立て、答えを導き出す力を養う「グローバルサイエンス教育」を展開。一人の例外もなくすべての生徒が探究力を身に付けること、生徒の第一志望進路を実現することを目指している。また2020年には未来型の中学校として世界が目指すミレニアムスクールと、日本ではじめて連携した。

同校の大きな特徴は、各教科の授業を学校コンピテンシー育成の場として位置づけ、生徒が自ら学びに向かうよう導くことを重視している点にある。主幹教諭である数学科の福島哲也先生は、「教師間でも学び合っている」と話す。

「私はあらかじめ確認テストの日程と範囲を伝え、それに向けて生徒一人ひとりが最適な学びを選択できる授業を行っています。教科書に沿った各単元の説明は動画にまとめ、一斉に説明する時間は必要最低限に。授業動画を見直す生徒もいれば、わからないところを質問する生徒もいる。一人で集中して問題を解く生徒もいます。ひとつの授業の中に、個別型(二者授業、共同型(一緒に行う)、プロジェクト型(共に探究する)の三つの学びが融合しているのだ。

さらに授業の最後には、必ずリフレクションの時間を設け、知識・技能の習得状況や自分自身がチャレンジしたこと、振り返ること、できるようになったことを振り返る。また意欲向上や勉強法のアドバイスといった個々のサポートは、放課後に設けたOM(追手門モジュール)と呼ばれる時間に、生徒との1対1の面談を通して行う。ほぼ毎日行われるOMは、一人ひとりを大切に、勇気づける時間。「答えのない時代に、最適解を見つける力を付けさせたい。そのために教師も並走していきます」(福島先生)

先進的な授業による、同校のさらなる飛躍への挑戦に注目したい。

School Data

〒540-0008
大阪府大阪市中央区
大手前1-3-20
☎06-6942-2235
https://www.otemon-js.ed.jp/

- 創立 1950年
- 交通 ● 大阪メトロ谷町線・京阪電車「天満橋」駅から徒歩5分
- JR東西線「大阪城北詰」駅から徒歩10分

コアネットの目 グローバルサイエンス教育で全生徒の探究力を伸ばす▶ 伝統の「志の教育」を継承しつつ、「探究力」を生徒全員に獲得させる教育目標掲げる。大阪城三の丸跡という好立地にあり、これまでも先進教育の実践に注力してきた。全校を挙げての授業改革の効果にも注目したい。



上/キャンパス内のすべてが、先生が「教える教室」から、生徒が「学ぶスペース」へ。

左/教室はオープン。特徴的なのが、物入れや荷物を掛けるフックのない特注の机。レイアウトを自由に変えられるようにするためだ。



文科省も視察に来た新校舎。まとまった図書館はなく、各フロアの中央に、写真のような本のコーナーが設けられている。授業に関連する書籍のコーナーを作るなど、生徒たちが気軽に本に触れる環境ができている。



未来に向かう巨大なクルーズ船のような、優美な外観の校舎。

from the School

辻本義広教頭

「生徒は生徒の中で育つ」をモットーに、教師はそのきっかけづくりを全力でサポートします。



学校の役割を問い直し 授業スタイルを革新

学校の存在意義が問われる時代。

偏差値や進学実績をはじめ、大学をゴールとする教育から脱却し、学びの本質につながる次世代の教育を行っているのが追手門学院だ。社会が大きく変貌するなか、活躍できる人材も変化する。この「社会から求められる人材育成」に真正面から向き合い、本格的な改革を進めている。

「教育の本質を追求しよう」を合言葉とする同校、次世代の学校の役割として、次の三つを挙げた。「一つは基礎学力の向上。二つ目は集団生活での意識向上。最後が社会に貢献できる人材の育成。この三つをバランスよく進めるために、授業は個別・協働・プロジェクト型の学びを融合させて進めています」（辻本義広教頭）。具体的には50分の授業を10・15分程度のタイムに分け、最初の10分はインプット、次がワーク、最後にアウトプットして進行していく。インプットにあたるのが板書によるレクチャー型授業だが、ICTを活用して資料は事前に配布し、反転授業も取り入れ効率よく進められる。ワークは、個人的に思考することや、仲間と相談すること、アイデア出しから始まり、仲間との共有や教え合い、学び合いを行っている。教科によっては、プレゼンテーションなどのアウトプットの機会も設定している。

このサイクルを回すことで、生徒一人ひとりが主体的に物事に取り組

みながら学び続ける力、思考力、判断力、対話力、創造力、自己理解、思いやりを育んでいく。さらに、これらを支えるのが「リフレクション」

（振り返りを通して気付きを得る）。学んだこと、考えたことなどを振り返り、自分に気付き、次の行動に移すことで学びを深めていく。同校は22年度から、このサイクルをさらに進化させた新コースを立ち上げる予定だ。

2019年に完成した新校舎は、同校が目指す学びの姿を体現している。教室を隔てる壁は一部可動式で、レイアウトを自在に変えることができ、クラス・学年を超えて生徒同士の新しい交流が生まれやすい環境。各フロアに壁もドアもないティーチヤーステーションを設けており、生徒が話しかけやすい工夫も。「ここまで丁寧に取り組んでいる学校は、全国どこを探しても追手門以外ないと思います」と辻本教頭は自負する。次の時代に求められる教育要素が相互に結び合う、新しい未来型学習拠点を実現した同校。本格的な教育改革ののろしが上がっている。

School Data

〒567-0013
大阪府茨木市太田東芝町1-1
☎072-697-8185
https://www.otemon-jh.ed.jp/

- 創立 1947年
- 交通
 - JR京都線「総持寺」駅から徒歩約20分
 - 阪急京都本線「総持寺」駅から徒歩約25分
 - 阪急京都本線「茨木市」駅から近鉄バスで約15分、「追大総持寺キャンパス前」下車すぐ

開明中学校・高等学校

Homepage



多彩な体験で学びの土台をつくり 生徒の知的好奇心を育む



上/昨年は中止になったが、「しまなみ海道夜間歩行」はたくさんの保護者の協力の下に行われている。



左/コロナ禍でも高2の修学旅行は実施。北海道夕張市で地域再生のアイデアを発表、地元役場の人たちと交流。



和歌山県の加太湾で2日間かけて行う「理科実習」。海で生物や地層を観察、宿泊先のホテルでは海洋生物に関する実験を行う。



合唱部の定期演奏会は、生徒たちが「どうすれば安全にできるか」を考え、工夫して開催した。

from the School

林 佳孝校長

本校の生徒は、目指す進路を自分で見出し、努力してやり遂げる強みがあります。



行事を通じて磨く 体力、好奇心、協調性

「行事の開明」として知られる開明中学校・高等学校。中学時代に多彩な行事を体験することで成長期の体力、好奇心、協調性を育て、学びの土台を育んできた。日帰りや学校内で実施するものは年間10回、宿泊行事が各学年、毎年2回と、ほぼ毎月行事が実施される。

中2の「理科実習」は和歌山県の加太湾に宿泊し、海洋生物を採集。宿舎で観察や解剖を行い、最後にはレポートにまとめて発表するという高度な探究型行事。また中学生生活のハイライトとなる中3の「しまなみ海道夜間歩行」は、広島県山口島の海洋センターから愛媛県今治市の糸山公園まで約43kmのしまなみ海道を、夜通し14時間かけて歩くというもので、仲間と励まし合い達成する喜びを体感する。

「行事は学びとの出会いの場だ」と林 佳孝校長は語る。「行事を通じてさまざまなものに興味を抱き、みんなで作くり上げていく。最後まで受験勉強を頑張ろうという強い気持ちは、仲間の存在と、こういった体験が育むものなのです」

それを実証するのが、同校の進学実績だ。今年も東京大学に1名、京都大学に19名、国公立大医学科に8名（防衛医大1名を含む）が合格し、開明大学への進学率をアップさせている。授業においても、生徒が自分から「知りたい、学びたい」と思える

刺激を、教員がいかに与えられるかを追求している。「自主的に学びへの欲求が生まれてこそ、アクティブラーニング。そのためにはヤマ場をつくるような授業の展開や、教師の指導法も重要になってきます」

昨年はコロナ禍で、いくつかの行事を中止せざるを得なかったが、体育祭や文化祭など、こういう状況下でも生徒を思い、しっかりと対策して実施されたものも多い。高校2年生は時期をずらして北海道夕張市への修学旅行を敢行。クラブ活動でも生徒が知恵を出し合い、成功させた行事もある。吹奏楽部や合唱部の定期演奏会は、入場制限をし、舞台と客席の間を広く取って開催された。努力のかいあって、成功のうちに幕を閉じたときは感無量だったという。開明が大切に育んできた、「諦めない心」が発揮された瞬間だ。困難に立ち向かい、力を合わせて乗り越える。そんな経験は、社会に出てからも、きつとさまざまなシーンで生かされていくだろう。

School Data

〒536-0006
大阪府大阪市城東区野江1-9-9
☎06-6932-4461
https://www.kaimei.ed.jp/

- 創立 1914年
- 交通
- JR・京阪「京橋」駅から徒歩約8分
- JRおおさか東線「JR野江」駅・京阪本線「野江」駅から徒歩約12分
- 大阪メトロ長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目」駅・谷町線「野江内代」駅から徒歩約12分

コアネットの目

行事や授業中の刺激を通じて育む向学心が、群を抜く進学実績に結実▶国公立大合格等の進学実績に定評がある。成長期の体と心を鍛える名物行事も大きな魅力だ。コロナ禍があっても、「諦めない心」を持った生徒たちの課題に挑む姿勢は健在。生徒・教師・保護者が一丸となって創る教育は注目し値する。



今年から制服を一新。ますます人気が出そうだ。

希望する大学に合格した先輩たちのアドバイスをまとめた「合格体験記」。共通テストの結果から在学中の定期考査の順位まで掲載され、後輩たちに熱いエールを送る。



「ここでは生徒自身の「学びたいこと」との出会いが重要となる。そのため中学では本物体験を多彩に用意。地元農家の協力のもと田植えから収穫まで行い、同時に農業が抱える問題について考え、屋久島での修学旅行では縄文杉を目指して約20kmを10



上/2022年春に完成予定の中央共用棟。周囲の自然に溶け込んだデザインだ。



左/新校舎には、生徒たちが自由に学び合えるスペースがあちこちにある。

右/中3の修学旅行は屋久島へ。10時間近く歩いて縄文杉を目指す。



下/中1は地元農家と連携して米作りを体験。収穫した米は「倉の愛舞」と名付けられた。



from the School

入試広報部部長 松村健司先生

探究を掘り下げる環境が整ったなか、関倉らしい「地に足の着いた教育」を行っていきます。



生徒の好奇心を刺激する多彩なプログラム

自然と調和した豊かな校地12万㎡。その中で育まれる、のびやかな学びこそ、関西大倉らしさ。2022年に創立120周年を迎える同校では、記念事業として新校舎が建設された。開放的な自習スペースやコミュニケーションラボラウンジでは、放課後も勉強する生徒の姿が多く見られる。来年度完成の中央共用棟は中高共通の学習センターで、図書館やサイエンスラウンジが新たに整備される。

同校は歴史ある進学校として、毎年200名前後の国立大学合格者を輩出する。この進学実績につながる細やかな学習・進路指導が行われ、面倒見の良い校風でも知られる。新校舎には職員室前に質問ラウンジがあり、進路指導室もそばに設置され、生徒の個別フォローは万全だ。

中学校では中3進級時に成績上位約40名を選抜し、東大・京大・阪大・医歯薬学部を目指すSクラスを編成。しかし関西大倉が目指すのは「主体的な学び」だ。入試広報部の松村健司部長は「進学実績も大切ですが、生徒が学びたいこと、目指す進路に向けて応援していきたい」と語る。

ここでは生徒自身の「学びたいこと」との出会いが重要となる。そのため中学では本物体験を多彩に用意。地元農家の協力のもと田植えから収穫まで行い、同時に農業が抱える問題について考え、屋久島での修学旅行では縄文杉を目指して約20kmを10時間かけて往復する。高校では「企業探究」がある。これは企業からビジネス課題をもらい、約半年かけた調査や実習を経て、ビジネスプランを提案するもの。また京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンスリサーチセンターとのプロジェクト「野生動物学初歩実習」では、興味に基づいたテーマを設定し、長期間にわたって観察を続け、データと考察をまとめた発表やディスカッションを通して主体性を身に付ける。

昨年の休校中は配信やリアルタイム授業とプリント郵送を併用し、ハイブリッドで対応。新校舎完成後は最新のICT環境が整ったなかで、中・高生ともに一人一台のタブレットを活用している。中学生は春休み5日間、バングラデシユの生徒とPBL型オンライン国際交流授業を実施（希望者）。対話を通して価値観の違いを少しずつ認識し、最終的には課題と自分自身を紐付けられるようにとの狙いだ。こういった多岐にわたるプログラムを用意し、豊かな学びの大地に生徒が興味を抱く種を蒔き続けていく。

School Data

〒567-0052
大阪府茨木市山2-14-1
☎072-643-6321
https://www.kankura.jp/

- 創立 1902年
- 交通 ●阪急宝塚線「石橋阪大前」駅、北大阪急行・大阪モノレール「千里中央」駅、阪急千里線「北千里」駅、JR京都線「茨木」駅、阪急京都線「茨木市」駅からスクールバス



豊かな自然と共生する新校舎で生徒の無限の可能性を引き出す

関西大倉中学校・高等学校

Homepage



三田学園中学校・高等学校

多彩な仕掛けと強固な絆の下
「自分発、未来を創る人になる」



上／甲子園球場12個分もの広大な敷地を誇る。2万4000㎡もの人工芝を敷き詰めたグラウンドが自慢。

右／写真の建物は1912(明治45)年の学園創立時からある中学本館。今も中学1年生がここで学んでいる。



文化祭が中止になったのを受け、図書館紹介PVを作った図書委員のメンバー。左から委員長の久利幸人さん、塩出侑大さん、藤本莉穂さん。1937年に造られた歴史ある図書館を、探索するような内容が好評だ。

右／5年前からiPadを導入。生徒たちも十分慣れていたので、休校時も乗り切ることができた。



下／物理部はロボカップジュニア日本大会オンライン2021で優勝の快挙！



from the School

松井忠幸校長

多彩なプログラムを通じて、自ら学び、チャレンジする姿勢を育んでいます。



伝統と革新の融合により スローガンを実践

豊かな自然を誇る16万㎡という広大な校地に、歴史的建造物と最新施設が共存するキャンパス。恵まれた環境のなか、100余年受け継がれる建学の精神「質実剛健・親愛包容」に基づき、社会に貢献できる人材の育成を進める三田学園。

中学は早期から高い学力を養成する「Sコース」、基礎的な内容に重点を置き着実に学力を育む「Aコース」からなり、担任全員で学年指導にあたる学年担任制で6年間を見通した教育指導を実践する。学習サポートをはじめ面倒見のよさにも定評があり、今春は110名が国立大学に合格。関関同立の合格者数は394名と過去最高になった。

その原動力は、同校が掲げる「自分発、未来を創る人になる」の実践にある。「自分発」とは、自ら積極的に考え行動する姿勢のこと。未来を創る」という言葉には、夢を実現し次代を築き上げてほしいという思いが込められている。

「その起点、スイッチとなるような多彩なプログラムを用意しています」と松井忠幸校長。5年前から一人一台のiPadを導入し、授業で積極的に活用。グローバル教育のプログラムは、多様な海外留学生と交流する中2の国内宿泊研修「グローバルヴィレッジ」、シンガポール修学旅行のほか、中3・高1の希望者を対象にオーストラリア、高1・高

2の希望者を対象にカナダで行う海外研修など。京都大学「iCeMS」とのコラボレーションをはじめ、高大連携教育も精力的に行っている。

その成果か、ここ数年は生徒による「自分発」の活動が増えてきたという。2020年度は休校中の5月に、高校3年生の発案で、教員のサポートの下「三田学園発 社会を支える人たちに感謝の思いを伝えようプロジェクト」が発足。有志から寄せられた手紙やイラスト、写真を動画にして公開するとともに、三田市民病院に感謝の思いを届けた。また図書委員の高校2年生は、文化祭の中止に伴い、図書紹介動画を作成。委員長の久利幸人さんは、「国の登録有形文化財である図書館の雰囲気を変えたいと考え、先生に申し出ました」と話す。

「生徒たちがやりたいことをバックアップしようというのが教員の共通認識。『先生なら受け入れてくれる』という信頼関係があるのでしょ」(松井校長)

同校ならではの教員と生徒の絆が、学校生活を通して芽生えた主体性を引き出し、伸ばしている。

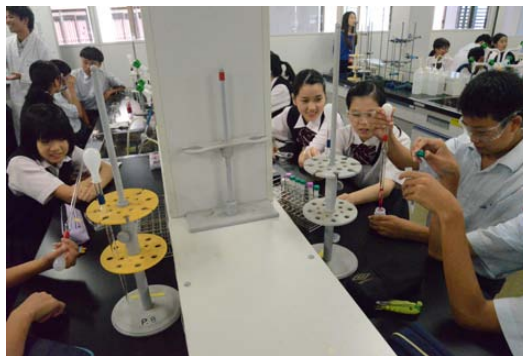
School Data

〒669-1535
兵庫県三田市南が丘2-13-65
☎079-564-2291
https://www.sandagakuen.ed.jp/
●創立 1912年
●交通 神戸電鉄「横山」駅から徒歩1分



常翔学園中学校・高等学校

中学開校11年目の改革 「常翔気流」に乗りさらなる高みへ



「本物に触れる」をテーマに行われるサイエンスプログラム。



2017年から生徒1人1台のタブレットを導入、ICT教育を進めている。

from the School

根来和弘教頭

改革に着手し、時代が求める進学校へと進化し続けます。



上/課題解決を通して探究心を育む「常翔キャリアアップチャレンジ」。左/グループの大学と連携して行われる大学体験プログラム。大学での研究内容を体感する。



設備の充実した校舎。すぐ横に淀川が流れている。

キャリア教育を先駆け 時代が求める進学校へ

来年100周年を迎える学校法人常翔学園。2011年の中学校開校以来、進学実績、特色教育、面倒見の良さで高い評価を受けてきた。この10年の難関大学進学率の躍進は目を見張るものがある。ICT教育にも積極的に17年から一人一台iPadを導入、休校期間も時間割通りにオンライン授業を実施した。「中学校はさらに進化します」。そう語るのは根来和弘教頭。まずは新コースの設置。これまでの「I類」「II類」が「特進I類」「特進II類」と改称され、東大・京大・阪大・医学部医学科など最難関大学への現役合格を目指す「スーパージ」コースが誕生する。

同校は特色教育の先駆的存在でもある。独自の教育理念「自主・自律の精神と幅広い職業観を養う」を掲げ、高校では20年近く前からキャリア教育に取り組んできた。現在は中高6年間かけた「常翔キャリアアップチャレンジ」がある。同一法人内大学として大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学を擁し、そのスケールメリットを生かした中高大連携などの教育プログラムを用意。6年間で社会や企業、働くということを学び体験する。その結果、生徒自身が「将来こういう分野で、こんな仕事をしたい」という明確なビジョンを持ち、自ら進路を導き出すのだ。来年からはプログラム内容も刷新。

中学の各学年を前期と後期に分け、半期ごとに六つのSTEAM教育がスタート。さらに高校では大学さながらのゼミ形式による「ガリレオプラン」、行政と一緒に社会課題に取り組み「大阪シティプロジェクト」があり、より高度な探究学習につなげていく。

常翔学園では中学開設時から定員を超える入学希望者が集まり、年々増加中。その要因として在校生の保護者からの「一人ひとりをしっかり見て指導してくれる」との高評価がある。その最たるものが「JPCシステム」。定期的に担任が保護者に電話連絡し、学校での様子を細かく伝えている。

この面倒見の良さもさらにパワーアップ。今年からスタートする放課後学習サポートシステム「JOSH O+」では、生徒のレベルに合わせ「自学自習の習慣付け」をしていく。こうした学習に取り組む姿勢や過程が、実社会で活躍できる大きな糧となる。新たなコース、プログラム、サポート体制を整えて、常翔学園は次のステージへ走り出す。

School Data

〒535-8585
大阪府大阪市旭区大宮5-16-1
☎06-6954-4436 (入試部)
<https://www.highs.josh.ac.jp>

- 創立 2011年(中学校)
- 交通 ● 大阪シティバス34号系統「大宮小学校前」徒歩約3分
- 大阪メトロ谷町線「千林大宮」駅、谷町線・今里筋線「太子橋今市」駅から徒歩約12分

滝川中学校・高等学校

Homepage  **22年4月よりコース制を一新！**
次代を生き抜くたくましさを育む



「医進グローバルコース」の中3の生徒全員が参加する3カ月間のニュージーランド留学は、2022年度より「Science Global 一貫コース」で実施される。

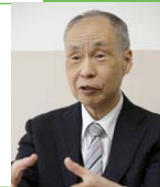


英語の4技能のレベルアップを図るために、一部のコースの授業でオンライン英会話を導入、すべてのコースの希望生徒対象の「セブ島語学研修」も用意しており、学校を挙げて英語力アップに取り組んでいる。

from the School

下川清一校長

好きなことを見つけ、とことん追求する探究学習プログラムで、**真の生きる力を育みます。**



「医進コース」「医進グローバルコース」「国際理数コース」の高2の生徒が、探究学習の成果を発表する「滝川クエストカップ」。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで開催した。選出された7チームによるポスターセッションの映像を5日間公開し、投票を実施。玩具を使った発電に挑戦した「エネルギー革命」が最優秀賞に輝いた。



受け継ぐべきは創始者の気概あふれるスピリット

創立100余年の伝統と、医学部進学の高い実績を誇る男子校として知られる滝川中学校・高等学校。今春、論理的思考力と実践的な英語力を備えた次代のスペシャリストを目指し、全員が3カ月のニュージーランド留学を体験する「医進グローバルコース」の1期生を送り出した。

その進路の多彩さは、英語力をキーワードに挙げると顕著に表れる。ある生徒は、留学体験を高校時代の自分の取り組みの中心に据えて、

難関国公立大学・工学部の特別推薦に挑戦して見事に合格した。3カ月の留学を機に英語を究める決意を固め、国立大学外国語部に進学した生徒もいる。大学入学共通テストの英語で満点をマークするほどの実力を持つ生徒は、英語でビジネスを学べる公立大学を選択。探究学習を通して研ぎ澄まされた、一人ひとりの個性と意思を色濃く映す結果となった。

この確かな手応えを胸に、同校は2022年度、新たなコース制を導入する。一つは、医学部医学科への進学に特化した「医進選抜コース」。二つ目は、海外3カ月留学など「医進グローバルコース」の特徴を受け継ぎ、国際社会に貢献する人材を育む「Science Global 一貫コース」。そして、時代の変化に対応し、未来を創る人材を育てる「ミライ探究一貫コース」。3コース

の共通点は、生きていくための探究学習が組み込まれていることにある。

「コロナ禍で世の中の動きは大きく変わりました。これは、自ら道を切り拓く大きなチャンスが増えたこととらえることができます。興味の赴くままにテーマを選び追求していく探究学習は、自ら考え行動を起こすよう導く一つの手段。目指すのは、既成概念にとらわれず、壁にぶつかっても諦めず、どのような環境に身を置いても生きていけるたくましさを育むことです。下川清一校長は、こう力強く語る。

現在は新しい探究学習プログラムの構築を進めながら、コロナ禍における行事・プログラムの代替案作成にも力を注ぐ。昨年度は、フィリピン・セブ島の講師からマンツーマンで英会話を学べるオンライン留学プログラムを実施した。「実業家として名を馳せた創立者の気概あふれるスピリットこそ、次代に受け継ぎたい」という下川校長の言葉どおり、「至誠一貫」「質実剛健」「雄大寛厚」の校訓を教員自らが体現する同校のさらなる飛躍に期待したい。

School Data
 〒654-0007
 兵庫県神戸市
 須磨区宝田町2-1-1
☎078-732-1625
<https://www.takigawa.ac.jp/>
 ●創立 1918年
 ●交通 神戸市営地下鉄・山陽電鉄「板宿」駅から徒歩約5分



右/「感動体験」のひとつ「六甲縦走」。須磨から宝塚まで尾根をクラスメイトとともに歩き、持久力・精神力を磨き、大きな目標を達成する喜びを学ぶ。

左/「プログレッシブ数理探究コース」では、数理的好奇心をかき立て、探究心を養うとともに、進路について考えるきっかけともなる体験型のプログラムを展開。写真は「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」の見学。



Homepage



さらなる高みを目指す
新コース制が始動

滝川第二中学校・高等学校



ネイティブ講師による英会話集中講座を開講。

右/「I.U.E.知識実践コース」で実施するオンライン英会話。ホームステイ先や留学先の人とオンラインで会話して、実践的な英語力を身に付ける。



下/毎週水曜日の「スペシャル・ウェンズデー」では、クエストカップや進路探究プログラムにチャレンジ。2020年度は2チームが全国大会出場を果たした。



中高一貫高校主任の野村啓太先生。



中学主任の金子幸平先生。



from the School

滝川好庸校長

先が見通せない時代を生きるための力を培います。



地道な努力と感動体験が
受験を乗り切る原動力に

数理探究型+グローバル教育を軸とした「プログレッシブ特進一貫コース」と「特進一貫コース」で時代を先取りする教育を進めてきた滝川第二中学校・高等学校。昨春・今春の合格実績を見ると、国内外の医学部・医学科に計14名が合格。海外の大学やカレッジに合格した生徒は計7名。もはや海外の大学への進学は珍しい選択ではなくなった。また、3期生を送り出した中高一貫コースでは、今春の卒業生99名のうち、大阪4名・神戸4名、旧帝大計3名など37名が国立公立大学に、44名が関関同立に合格している。

「プログレッシブ特進一貫コース」3期生を6年間見守ってきた中高一貫高校主任の野村啓太先生は、「入学段階からの伸び率が高く、本校が実践してきた教育が間違いではなかったことをあらためて実感しています。中学時代から学力向上に向けて地道に取り組みながら、多様な感動体験を積み重ねてきました。その両輪が、受験モードに切り替わり、進路を実現する原動力となります」と話す。

中学主任の金子幸平先生もこれに大きくうなずきながら、感動体験の重要性についてこう語る。「滝川好庸校長の言う『教育は感動』の真意が理解できました。20年後には今ある職業の半分がAIに取って代わられるとされるなか、人間の存在意義

School Data

〒651-2276 兵庫県神戸市西区春日台6-23
☎078-961-2381・2385
<https://takigawa2.ed.jp/>

- 創立 1984年
- 交通
 - JR[西明石]「明石」駅・山陽電車「山陽明石」駅から神姫バス「平野小学校前」下車、徒歩約8分。「環境西事業所前」下車、徒歩約10分
 - 神戸市営地下鉄「西神中央」駅から神戸市営バスで「西体育館前」下車、徒歩約5分
 - * 登校時直通バス JR[西明石]「明石」駅と山陽電車「山陽明石」駅から「滝川第二中・高前」まで、所要約25分

ともいえる創造力とコミュニケーション能力は不可欠。それらの源となる感受性を高める体験、すなわち、本校が数多く実践している『感動体験』を、これからも大事にしていきたいと考えています」

この実績を携え今春からさらなる高みを目指す新コース制を導入した「プログレッシブ特進一貫コース」以上に数理教科に特化した「プログレッシブ数理探究コース」。3カ月の海外留学などを通して語学力と国際的な感覚を磨く「I.U.E.(International Understanding Education) 知識実践コース」。好奇心や可能性を追求し未来を創造していく「エキスパート未来創造コース」。いずれも文系・理系両方への進学を視野に入れたカリキュラムとなっており、コース変更も可能だ。新たな3コースには、「難しい時代を生きていくための力を教員一丸となって育てたい」という同校の気概が詰まっている。

同志社香里中学校・高等学校

Homepage



10年間の一貫教育で
良心を持った人間を育てる



上/校舎の中庭部分に造られたメディアセンターは、曲線を生かした美しいデザインが目を引く。各校舎とつながり、機能性も高い。
左/窓外の緑に親しみながら読書や学習ができる。



右/蔵書は約7万冊。学習に集中できる静的エリアと、グループ学習をすすめる動的エリアが共存する、新しい形の図書館。



下/パソコンやタブレットを完備したラーニングコモンズ。



上/昨年9月に大阪城ホールで開催した体育祭。家庭にライブ配信して好評だった。
左/教室の机にあるスクールシールドは、同校OBの協力で設置。



from the School

瀧 英次校長

人とのつながりを大切に、共感力のある人間を育てます。



メディアセンターが稼働 国際交流はオンラインで

同志社大学の創立者・新島襄の精神を受け継ぎ、キリスト教主義・自由主義・国際主義を柱にした教育で、大学までの10年間を通した一貫教育を進める同志社香里。ICTの導入を昨年加速させ、授業動画の配信と課題の提出を組み合わせて休校時を乗り切った。だが、同時にオンライン授業による格差や限界も感じたといい、学校再開後は対面授業を増やし、夏休みを短縮して授業時間を確保した。瀧 英次校長は、「若手の教員を中心にICT推進チームを立ち上げ、教師も学びながら、ICTでどういう教育をしていくかをさらに研究する」と話す。

学校に来ることで育まれる生徒たちの連帯感を大切にしている同校は、コロナ禍でも工夫を重ねて行事を開催。体育祭は9月に大阪城ホールを借り種目を限定して実施し、保護者にはライブ配信した。

今年4月には待望のメディアセンターが完成。ここは約7万冊の蔵書を誇る図書館機能と、コンピュータやタブレットが用意されたラーニングコモンズからなり、授業で活用するだけでなく、生徒たちの自習スペースにも利用できる。

「メディアセンターが稼働することで、勉強の機会が格段に増える。ここを大いに活用していく予定です」と瀧校長。「デジタルの時代だからこそ、本を読み、本から得る知識を

大切にしたい。特に中1・2年生には、ICTのモラル教育をしっかり行くと同時に、読み、書く力も付けさせます。ICTで簡単に情報が手に入る時代。得た知識を正しく使える人物の育成こそ、同志社の建学の精神なのです」

また、同校の特徴である多彩な国際教育の歴史を、コロナ禍でも絶やさない工夫を凝らす。英語に堪能なガイドさんとともに、出発から帰るまですべて英語で過ごすバスでの語学研修を旅行会社と企画。5月にはサンフランシスコのヌエバ校とのオンライン交流会も予定するなど、オンラインでの国際交流にも力を入れる。

「コロナが人を分断する時代だからこそ、人とのつながりから共感する力を育むことが重要。わが校は良心を持った人間を育てるといふ軸がぶれません。今という時代に、10年間の一貫教育の意味は大きい。多くの仲間と育む縦横斜めのつながりが、これからの危機的状況を打開していく力になると信じています」

コロナ禍に同志社魂が輝きを増している。

School Data

〒572-8585
大阪府寝屋川市三井南町15-1
☎072-831-0285
<https://www.kori.doshisha.ac.jp/>
●創立 1951年
●交通 京阪電車「香里園」駅から徒歩約18分

コアネットの目

10年間で描く豊かな同志社教育は、デジタル時代にも魅力を増していく▶キリスト教主義・自由主義・国際主義は大学まで10年間貫かれる。良心を持った人を育てるといふ軸、つながり、共感する人を育てる情熱は決して変わらない。新設されたメディアセンターは、ICT環境との相乗効果で、国際教育の魅力を際立たせるだろう。



高1の「キャリア・フロンティア」プログラムの一環で、バイオ・ナノ課題研究に取り組んだ。



中高一貫コース教頭の黒河潤二先生。



体育祭は2日間かけ、学年を分けて分散開催した。



海外語学研修に代えて行った5日間の「オンライン国際交流」。自己紹介や学校生活、伝統文化といったテーマで互いに発表を行い、冗談を言い合えるまでに打ち解けることができた。



中1による「キャリア・フロンティア」の「姫路研究」学年発表会の様子。保護者にはウェブ会議システムを使って発信された。

from the School

大森茂樹校長

6年一貫教育の強みを活かし、大学進学、社会、そして人生に生きる学びを展開していきます。



「キャリア・フロンティア」と進路学習に新たな展開

2014年、姫路市唯一の共学中高一貫校として「考えるを、学ぶ」をスローガンに開校。今春、中高一貫コース2期生の36%が、現役で国公立大学合格を果たした。

その実績を支えているのが、「国際化・キャリア教育・哲学教育」を柱とした教育「キャリア・フロンティア」だ。これは、物事の本質に向かって、深く考える力を培う独自のプログラム。地元を調べる「姫路研究」や平和学習をはじめ、東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターでの課題研究などの多彩なプログラムを通じて、難関国立大学合格に不可欠な情報収集力、情報編集力、情報発信力を育むとともに人間力を磨いていく。「進学実績は、これらのプログラムを通して自己肯定感や自信が高まった結果と考えています」と大森茂樹校長。特に自分でテーマを決めて探究する高2の「修了研究」は、自己肯定感を高めながら学ぶ楽しさも体感できる機会として重視しており、新たに中3での導入も検討している。

同校ではコロナ禍においてもICTを活用し、可能な限り「キャリア・フロンティア」のプログラムや国際交流プログラム、学校行事の代替となる取り組みを展開している。中3の「沖縄テーマ学習」や東日本大震災の被災地を訪れる高2の修学旅行は、現地とオンラインでつなぎ、ワ

ークショップを行った。また中3の海外語学研修に代えて、インド、インドネシア、フィリピンの生徒たちとウェブ会議システムを使ってディスカッションを行う「オンライン国際交流」を実施。中高一貫コース教頭の黒河潤二先生は、「普段はあまり発言をしない生徒が積極的に意見を発信するなど、ICTのメリットに気付く機会ともなった」と語る。授業での活用も進化・加速しており、まさに文房具のようにICT機器を活用する理想的な形となっている。

さらに現在、進路指導の一貫として、早期の進路決定につながる「Open Day University」の開催を計画中。これは大学の各学部から人を派遣してもらい、生徒は興味のある学部の研究内容を聞く。「高校全学年を対象に、東洋大学11学部44学科と、近隣の国立大学の協力を得て実施する予定です。進学はもちろん、その先を見据えた取り組みをちりばめ、生徒たちの心に火をつけたい」と話す大森校長。たゆみなく進化する同校の今後の動向に注目したい。

School Data

〒671-2201
兵庫県姫路市書写1699
☎079-266-2626
https://www.toyo.ac.jp/himeji/jh/
●創立 1963年
(中学校は2014年)
●交通 JR「姫路」駅からスクールバスで約30分

コアネットの目

深く考える力を培う「キャリア・フロンティア」が、一人ひとりの可能性を拓く。中高一貫コース2期生も希望の進路に旅立ち、中核にある「キャリア・フロンティア」の確かな教育効果を実証。コロナ禍において加速したICT活用が「オンライン国際交流」という新たな取り組みにも結び付いた。進路指導のさらなる充実にも期待したい。



東洋大学附属 姫路中学校・高等学校

大学との連携とICTの活用で
「考えるを、学ぶ」教育がさらに進化

桃山学院中学校高等学校

Homepage



人間力の育成を目指し
「自由と愛の精神」を体現する教育



上／冷暖房完備の8階建ての校舎。聖マルコ館(中学校棟)と聖アンデレ館(高校棟)が隣接、連絡している。
左上／昨年、グラウンドは全面人工芝になり、快適な環境が整った。
左／昨年完成した聖アンデレ礼拝堂。クリスマス礼拝や、同校卒業生たちの「成人祝福式」を毎年行っている。



from the School

生田耕三中学校教頭

個性と自主性を育み、可能性を開花させる取り組みを加速させていきます。



伝統の自由な校風と 自主・自律の精神を継承

英国聖公会宣教協会の英国人宣教師が1884年に創設したボーイズスクールを前身とする桃山学院中学校高等学校。建学の理念「自由と愛の精神」のもと、生徒一人ひとりの多様な可能性を開花させ、社会に貢献できる人間を育成することを使命としてきた。

その伝統である自由な校風、自主・自律の精神は、2008年に開校された中学校にも色濃く受け継がれている。のびのびとしたなかにも規律ある学校生活にひかれ、兄弟・姉妹で入学するケースも少なくないという。

進学実績の伸びに伴い 互いに高め合える環境へ

中高一貫コースには、超難関国立大学・医歯薬系大学への進学を目指す「6年選抜コース」と、一人ひとりの進度に合わせた学習で国立大学・難関私立大学への進学を目指す「6年進学コース」の二つを設置。大学進学実績は着実に伸びており、21年度入試では、全体の現役国公立大学合格者数230人のうち40人が、中高一貫生だった。のびのびとした自由な校風でありながら、中高一貫生の約4割が大阪大学をはじめとする国立大学に現役で合格していることから、近年では「ソフトな進学校」と称されており、「本校を志望する層が広がっている」と生田耕三

中学校教頭。21年度入試では、新設したプレテスト成績優秀者・入学試験成績優秀者に対する特待生制度によって10名が入学したという。これにより、今まで以上に多様性に満ちた、互いに高め合える環境が整った。

未来に活きる力を育む 多彩な学校行事

進学実績向上の原動力の一つともいえるのが、自由な校風と自主・自律の精神のもとで育まれる生徒一人ひとりの個性と人間力だ。それらを伸ばす場として、学校行事が大きな役割を担っている。

中学入学後の「オリエンテーション合宿」に始まり、中2の「磯実習」や「スキー合宿」、中1・中3の「耐寒登山」など、その数は年間20ほどに上り、自主性や自律性はもちろん、協働する力、コミュニケーション能力などを育みながら視野を広げていく。なかでも桃山学院の校風を象徴しているのが、生徒たちの投票で行き先が決まる、中3の修学旅行だろう。中2の段階で、グループに分かれて旅行プランを企画し、プレゼンテーションを行う。20年度は東北、21年度は関東方面を訪れることが決まった。

また、卒業生から心に残る行事の一つとしてたびたび名が挙がるのが、高校3学年と卒業生が参加する夏のキャンプ行事、桃山「学」宿。毎年2年生が実行委員会をつくり、企画・準備・当日の運営まで行うのが特徴で、自主性、責任感、リーダー



中学3年間はネイティブ教員が副担任につき、英語の授業を行う。同校では中1で英検[®]4級、中2で3級、中3で準2級を全員取得する目標を立て、そのための講習も盛んに行われている。



オンライン英会話を充実させ、海外研修に代わる英語力アップの方法を探っている。



上/同校の名物ともなっている修学旅行プレゼンテーション。グループごとに企画を練り、学年全員にプレゼンして、行き先を決める。

右/高校2年次に行われるイギリス・ロンドン海外研修。同校のルーツを訪ね、日本の文化を伝える貴重な機会だ。



シップなどを育む貴重な機会となっている。

コロナ禍の20年度は、文化祭の目玉の一つであるクラスごとのコーラス大会の代替として仮装大会を実施するなど、さまざまな工夫を凝らして行事の充実を務めた。仮装大会は教員の発案だというから驚きだ。

「一人ひとりの教員が自由な発想の持ち主であり、自主性を備えていることが、本校の大きな魅力の一つ。本校の教員は本心に仲がよく、ここぞというときには話し合い、協力し合って、最大限の力を発揮します。休校時のオンライン授業の配信に向けても、不得意な先生を得意な先生がサポートし、スピーディーに準備を進めてくれました。そうした教員のもとでこそ、生徒の自主性が育っていくと考えています」(生田教頭)

「たゆまぬ進化を続ける」「英語の桃山」

同校では開校以来、進路実現の基盤となる学力の養成にも注力してきた。特に英語教育は「英語の桃山」と呼ばれるほどで、中1の段階から実践的な英語力を身に付けるための環境と取り組みを整えている。中学3年間はネイティブ副担任制を導入。英語の書物を読み、その朗読音声を聴く多読多聴を実践しているほか、6年間を通じてオンライン英会話レッスンも行っている。

学びの成果を発揮しながら英語力をさらに磨き、国際的視野を育む場となる国際教育プログラムも多彩だ。

中学では希望者にニュージブランド短期海外研修を用意。高校では全員参加のイギリス・ロンドン海外研修に加えて、希望者制でマレーシア研修と長期留学を実施している。アメリカ・ハーバード大学の学生と一緒にディスカッションやプレゼンテーションに取り組みする学内留学をはじめ、校内での国際交流にも積極的だ。

プログラムのさらなる充実にも余念がない。20年度から中1では、英検[®]4級全員取得を目標に、英語の早朝テストをスタート。30点満点中25点以下の生徒は、放課後の「満点教室」で満点を目指す。「担当講師が工夫を凝らしてくれており、楽しみながら取り組んでいます」と生田教頭。また21年度から中2のプログラムとして、国内(琵琶湖)で海外の人とアクティビティに取り組むイングリッシュ・キャンプを予定している。

「学力と可能性を伸ばす朝・放課後のプログラム」

学力の養成に向けたサポートが充実していることも、同校の大きな特徴の一つ。弱点強化など基礎学力を徹底的に鍛えるRゼミ、全員参加の自習ステージ、学力上位の生徒を対象としたM1ゼミなど、放課後にさまざまな取り組みを展開している。21年度からは中1を対象に数学の早朝テストと「満点教室」も始動させた。勉強の習慣を身に付けさせることが目的だ。

プログラムの充実には、勉強面だけ



新しくなった食堂。

にとどまらない。21年度から、セレッソ大阪、アカネキカクとのタイアップにより、部活動終了後に習い事感覚で通える「サッカー教室」「ダンス教室」を校内で実施する。「自主性を開花させるために、放課後にもチャレンジしてほしいという思いから企画しました」と声を弾ませる生田教頭。生徒たちへの愛情が込められた、建学の精神を象徴するような取り組みだ。これからも研ぎ澄まされていくであろう、同校らしさに期待したい。

School Data

〒545-0011
大阪府大阪市阿倍野区昭和町3-1-64
☎06-6621-1181
<https://www.momoyamagakuin-h.ed.jp/>

- 創立 1884年
- 交通
- 大阪メトロ御堂筋線「昭和町」駅から徒歩約5分
- 大阪メトロ谷町線「文の里」駅から徒歩約8分
- JR阪和線「南田辺」駅から徒歩約10分

雲雀丘学園中学校・高等学校

Homepage



「本物の学び」で
知的好奇心を刺激する



サントリー生物有機科学研究所では、研究者が生徒を1対1で指導するなど、「探究プロジェクト」は研究の現場で本物にふれ、生徒たちの知的好奇心をかきたてる。ここから将来の夢を醸成する子供も多い。



中高の生徒がさまざまなテーマを自由に受講できる「探究ゼミ」。コロナ禍でもオンラインで開催された。

from the School

進路部部長 高橋正樹先生

多様な能力や可能性を引き出し、
目指す進路を実現します。



体校中は教室をスタジオにして授業の動画を撮影、生徒に配信した。



個々に寄り添う指導で 推薦入試に強み

1949年の創立以来、「孝道」の精神と「やってみなはれ」というチャレンジ精神を教育理念とする雲雀丘学園。近年は約4割の生徒が国公立大学に現役合格する進学校として名を馳せている。さらに注目したいのが推薦入試。今年は京都大学2名、大阪大学8名をはじめ29名が合格した。

その要因を進路部の高橋正樹部長はこう分析する。「生徒一人ひとりに寄り添いながら目標に向かう、丁寧で適切な指導と、幅広く実施する『探究プロジェクト』による知的好奇心への刺激。そうした要因がうまくかみ合い、基礎学力が確実に上がっています」

推薦入試では志望理由書や自己推薦書など、入試の点数だけではない個人の能力が問われるが、雲雀丘の生徒はその点が明確だ。例えば高1・高2のグローバルボストン研修では、MITやハーバード大学の学生と交流。この体験を通じて医学に興味を持った生徒は、京都大学医学部に推薦入学を決めている。ほかにも「化粧品に興味があるが、アレルギー体質で使えない物が多い」と考えた女子生徒は、それを改良する学びを受けるために大阪大学基礎工学部への進学を希望して合格。

こういった「理想の未来」を描くことができるのは、知識の詰め込みではなく、探究プロジェクトなどを通

して生徒がやりたいことを見つけれれる仕掛けを多く用意し、没頭できる環境を築いてきたからにほかならない。これが雲雀丘の本物の学びだ。

探究の三本柱となるのは、従来の「探究的授業」「探究プロジェクト」に加え、中学校のコース名が「一貫探究コース」に改称され、2019年度からスタートした「探究ゼミ」。教科や学年を超えて好きなことを学ぶ「探究ゼミ」も、コロナ禍の今年はZoomでの参加の形を採り、22テーマに延べ420人が受講した。

ちなみに体校中はデジタルとアナログを組み合わせた内容で対応。ひとつは一人一台所有するiPadを活用し、授業支援アプリなどを使ったオンライン配信。一方で課題を郵送し、自分で返送させることも。デジタルネイティブ世代にとっては、宛名を書き、切手を貼って郵便物を出すという行為も立派な勉強になる。

卒業生は「雲雀丘はいろんな取り組みが多い環境。積極的に参加すれば、きっと自分のやりたいことが見つかる」と口を揃える。それが理想の未来に向かって羽ばたく原動力となるのだ。

School Data

〒665-0805
兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1
☎072-759-1300
<https://hibari.jp/>

- 創立 1949年
- 交通 ● 阪急宝塚線「雲雀丘花屋敷」駅から徒歩約3分
- JR宝塚線「川西池田」駅から徒歩約12分

コアネットの目

「本物の学び」で培う知的好奇心が、進学にも理想の未来にも生きる▶近年、国公立大学への現役合格など進学実績でも注目される同校。生徒が自身の関心を追求し、没頭することで目を見張る成長につながる探究活動に力を入れている。同校の本物の学びの確かさは、国公立大学の推薦入試合格者の多さにも表れている。